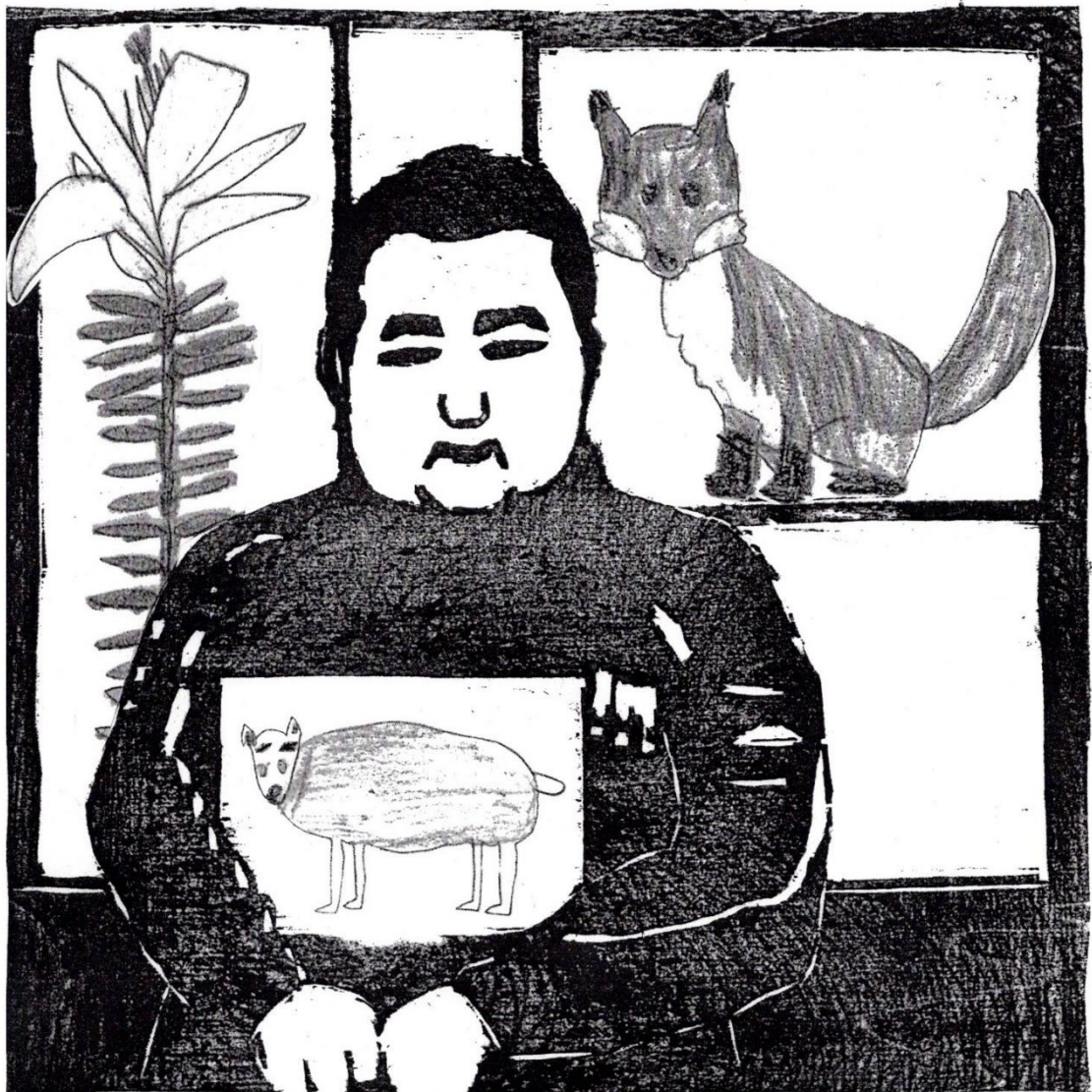


町田市障がい者青年学級

実践報告集



2019年度 第45号

はじめに

2019 年度町田市障がい者青年学級事業について、「実践報告集第 45 号」を刊行いたしました。この報告集は、障がい者青年学級（以下「青年学級」）の活動の様子を綴り、分析して課題を明らかにし、さらに今後の活動の展望を語ることを目的に編集したものです。編集にあたっては、日頃から活動をご支援いただいている「担当者」（ボランティアスタッフ）の皆様にご尽力いただきました。

2019 年度の青年学級の活動を振り返りますと、昨年度に引き続き、文部科学省が実施する「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」委託事業を受託し、生涯学習センター主催事業として“若葉とそよ風のハーモニー”コンサートの実施から始まりました。

また、3 つの学級に 163 名の学級生が参加し、活動内容としては、通常の学級活動以外に公民館学級は恒例の大地沢青少年センターでの宿泊合宿を、ひかり学級は小田急線で江の島への日帰り旅行を、土曜学級では宿泊合宿か日帰り旅行を行うかを活動の中で話し合い横浜への日帰り旅行となりました。

また、それぞれ 3 名と 2 名の新たな仲間を迎えた公民館学級とひかり学級では、新人学級生を交えての学級活動が他の学級生にも刺激を与え、新たな学級活動を生み出す土台になりました。なお、希望者全員が青年学級に参加できたことは、一つの成果と捉えています。

一方で、担当者の体制は必ずしも充足しているとはいえ、担当者募集のために、市内外の大学・専門学校へのポスター掲示依頼や授業などでの PR、町内会の掲示板へのポスター掲示など積極的に広報活動を行い、結果として 15 名の方に担当者として新たに参加いただくこととなりました。

また、青年学級に参加する学級生を取り巻く環境は、ここ数年目まぐるしく変化しています。2014 年 1 月、我が国は「障害者権利条約」を批准しました。国連総会で採択された 2006 年以後、障害者虐待防止法や障害者総合支援法の施行、障害者差別解消法の成立、

障害者雇用促進法の改正など、さまざまな制度改革を経たのち批准しました。この条約は様々な分野における権利実現のための取り組みを締約国に対して求めています。教育を受ける権利についても規定しています。

また、町田市においても（仮称）町田市障がい者福祉計画 21-26（案）で、障がいのある人が学び続けられるように社会教育の機会や内容の充実が重点施策として取り上げられています。

これらの権利保障がされる中、優生思想を基にした津久井やまゆり園での凄惨な事件を起こすに至った被告の反省や背景が語られることなく 2020 年 3 月に死刑判決が確定しました。また、2018 年 1 月から旧優生保護法による強制不妊手術が提訴されるも、2019 年 5 月には地裁で棄却されるなど、障がい差別が改めて社会の中で問われています。

そういった中、成果発表会に向けて精力的な活動を行っていたところ、新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、土曜学級の成果発表会は実施できたものの、2 月下旬から主催事業の中止が決まり、2 月 29 日には休館に追い込まれました。不要不急という言葉が喧伝され、自粛を求められるコロナ禍の中で、障がいのある人の学びの場である青年学級に求められていることは何なのか。できることは何なのかを考えさせられる日々でした。

このような時代に、障がいをもつといわれる人々が主体的に学び、社会参加し、自らの生を肯定し、地域で生活していくためにも、社会教育事業としての青年学級をより充実させる必要があります。町田に根付いた青年学級事業ですが、さらに社会の中で理解を深められ、より多くの方の協力を得て、事業を展開していけるよう努力と研鑽を重ねていきたいと考えています。

末筆になりましたが、事業の実施、「実践報告書」の作成など、日ごろから活動をご支援いただいている担当者の皆様、関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

2020 年 11 月

町田市生涯学習センター

目 次

はじめに	1
------	---

第1部 学級活動の概要	5
-------------	---

第2部 公民館学級

第1章 コース活動

みんなのしあわせづくりコース	17
----------------	----

まあるいゆめコース	23
-----------	----

さくらコース	31
--------	----

ハッピーハッピーくらしコース	37
----------------	----

さくらんぼスポーツ体づくりコース	43
------------------	----

ゆめのつづきコース	49
-----------	----

第2章 自治運営

1 班長会	57
-------	----

2 つどい委員会	58
----------	----

第3章 考察	59
--------	----

第3部 ひかり学級

第1章 コース活動

イトトチョコパイ青空コース	65
---------------	----

サルビアダンスコース	71
------------	----

GoGo みずいろスターズ	77
---------------	----

あじさいコース	83
---------	----

第2章 自治運営

1 班長会	89
-------	----

第3章 考察	90
--------	----

第4部 土曜学級

第1章 班活動

星空ドルフィンスポーツ班	93
--------------	----

みんなのイベント班	99
-----------	----

あじさい班	103
-------	-----

青空いなずま班	109
---------	-----

第2章 自治運営

1 班長会	113
-------	-----

第3章 考察	115
--------	-----

第5部 地域への広がり

第1章 サークル活動

1 おなべの会	121
---------	-----

2 とびたつ会	122
---------	-----

3 スケッチルーム	127
-----------	-----

4 風になる会	127
---------	-----

第6部 学級を支える体制

第1章 担当者会・調整会・学習会	131
------------------	-----

第2章 送迎検討委員会	134
-------------	-----

第3章 父母会	136
---------	-----

第7部 青年学級によせて

第1章 青年学級によせて	139
--------------	-----

第2章 新人担当者として関わって	139
------------------	-----

資料	146
----	-----

2019年度障がい者青年学級(学級実施日)

回	月 日	活 動 内 容 (活 動 場 所)
	4.7 日	公民館学級・ひかり学級 青年学級を語る会(生涯セ 午後1時半～午後4時
	4.13 土	土曜学級 青年学級を語る会(生涯セ) 午後1時半～午後4時
	4.14 日	若葉とそよ風のハーモニー全体練習(生涯セ) 午前10時～午後4時
	4.21 日	若葉とそよ風のハーモニー全体練習(生涯セ) 午前10時～午後4時
	4.28 日	若葉とそよ風のハーモニー全体練習(生涯セ) 午前10時～午後4時
	5.5 日	若葉とそよ風のハーモニー全体練習(生涯セ) 午前10時～午後4時
	5.11 日	若葉とそよ風のハーモニー 本番(町田市民ホール) 午前10時～午後4時半
1	6.2 日	公民館学級 開級式(生涯セ) 午後1時半～午後4時
1	6.8 土	土曜学級 開級式(生涯セ) 午後1時半～午後4時
1	6.9 日	ひかり学級 開級式(ひかり療育園) 午後1時半～午後4時
2	6.16 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
2	6.22 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
2	6.23 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
3	7.7 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
3	7.13 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
4・3	7.21 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
4	7.27 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
5	9.1 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
5	9.8 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
5	9.14 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
6	9.15 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
6	9.22 日	ひかり学級 日帰り旅行(江の島) 午前10時～午後4時
6	9.28 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
7	10.5 日	公民館学級 合宿(大地沢青少年センター)
8	10.6 日	
7	10.12 土	土曜学級(生涯セ) 台風で中止
7	10.13 日	ひかり学級(ひかり療育園) 台風で中止
9	10.20 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
8	11.3 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
8	11.9 土	土曜学級 日帰り旅行(横浜) 午前10時～午後4時
10・9	11.17 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
9	11.23 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
11・10	12.3 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
10	12.7 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
12・11	12.15 日	公民館学級・ひかり学級(生涯セ・ひかり療育園) 午前10時～午後4時
11	12.21 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
12	1.11 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
12	1.12 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
13	1.19 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
13	1.25 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
13	1.26 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
14	2.2 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
14	2.8 土	土曜学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
14	2.9 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
15	2.16 日	公民館学級(生涯セ) 午前10時～午後4時
15	2.22 土	土曜学級 成果発表会(生涯セ) 午前10時～午後4時
15	2.23 日	ひかり学級(ひかり療育園) 午前10時～午後4時
16	3.1 日	公民館学級 成果発表会(生涯セ) コロナの影響で中止
16	3.8 日	ひかり学級 成果発表会(生涯セ) コロナの影響で中止

第 1 部

2 0 1 9 年度

学級活動の概要

1. 青年学級のねらい

青年学級開設当初は 20 名に満たなかった学級生も、現在は十倍近い人数になり、3 つの学級にわかれてそれぞれ独自の活動を展開しています。各学級ともに、青年学級開設当初からの目標である「生きる力・働く力の獲得」のもと、「自治」「生活づくり」「文化の創造」という 3 つの柱を軸に活動を行ってきました。

ここでいう 3 つの柱についてですが、まず「自治」とは学級生自身が活動を企画し、運営していくことを意味します。一人ひとりの学級生の意見をもとに、それを取りまとめる班長・副班長を中心とした集団活動が進められ、さらにその班長や副班長によって構成される班長会で学級全体を見渡していく、というような民主的なプロセスを重要視してきました。そして何よりも大切にしてきたことは、学級生がなにものにも束縛されることなく、一人ひとりの思いを自由に語ることです。とはいうものの、月 2 回の限られた活動のなかで、企画から運営まですべてを行うということは、たやすくありません。しかし、それらを大切にしていくことで、自分自身の意見を述べる機会や経験を持ちにくかった学級生一人ひとりの主体性は、確実に培われてきたのです。

次に「生活づくり」です。これは活動のなかでお互いの要求、職場や家庭での喜びや哀しみなどのさまざまな思いを伝え合い、一人ひとりの生活の様子や課題を集団の場に出し、その思いや要求を集団で受け止め共有していくことです。そのことを通して、自らの生活を振り返り、自分自身の存在を肯定し、人を思いやる仲間づくり・集団づくりが行われてきました。この集団での経験が、現実の厳しい生活に向き合い、積極的に自分の生活上の困難に立ち向かっていく力になるのではないかと考えられます。

このような自治的な集団をもとに、学級生の生活要求や課題を反映させることでつくられていく活動は、既成のものではない独自の「文化の創造」を通して、具体的なかたちを与えられ、さらに深められていきます。そ

れにより、学級生が活動のなかで実質的な主体者となり、ひいては生活場面でも主体的な存在となっていくことを目指しています。

実際の活動では、劇や音楽、絵などの様々な創作活動を素材として取り組み、経験の幅を広げながら活動を創りだしてきました。そして、このような「文化の創造」から、学級生の要求や働くことの誇り、喜び、苦しみ、仲間への思いなど、生活実感に根ざしたものを取り入れ、オリジナルソングに代表されるような、青年学級独自の表現文化活動を作り上げ、他者へアピールする力を築きあげてきました。

このように、文化活動に積極的に関わり、「文化の創造」を担っていくことは、自らの生活を振り返り、作り上げ、学級生が主人公として人生を切り拓いていく力につながると考えられます。

「文化の創造」活動の延長として、1988 年からスタートした『若葉とそよ風のハーモニーコンサート』（以下、わかそよ）も、2019 年 5 月に 19 回目が開催され、またこれに類する催し物が開かれるなどしていますが、これまでの青年学級の実践から、地域に打って出たコンサートであり、そこでは長年培ってきた学級生の自治の力が大いに発揮されています。

「自治」「生活づくり」「文化の創造」の 3 つが歯車のように回りながら学級生たちの生活をより豊かなものにしていき、大きな力になっていくことが、これまでの実践のなかで確認されてきています。このことを踏まえ、今年度もそれぞれの学級で実践が展開されました。

2. 青年学級の概要

（1）各学級の活動の概要

青年学級は、現在、3 つの学級にわかれて月 2 回の活動を行っています。そのうち「公民館学級」と「ひかり学級」は日曜日、「土曜学級」は土曜日に活動しています。

2019 年度は 3 学級あわせて学級生 163 名（年度当初時点での在籍者数）、担当者 66 名（年度末時点で担当者または当日担当者）と

して活動に関わっていたボランティアの人数)で活動を行いました。一年間の活動は6月の開級式から、秋の合宿や日帰り旅行を挟んで、3月の成果発表会までの間に公民館・ひかり学級は原則として毎月第1・第3日曜日に、土曜学級は毎月第2・第4土曜日に行い、それぞれの学級で年14～15回の活動を行いました。また、活動体制としては、土曜学級が班体制、公民館学級とひかり学級がコース制を取りました。

(2) 活動日の大まかな流れ

タイムテーブルは3学級ともに概ね次のとおりでした。

10時～	朝のつどい
10時30分～	コース・班活動 (途中、昼食を挟む)
15時30分～	帰りのつどい
16時	終了
16時～	班長会など

班長・副班長は、コースや班をまとめると共に、「班長会」に出席し、他のコースや班との連絡を取り合って、各学級全体の活動について話し合い、学級の自治活動を行いました。他にも、公民館学級では、朝夕のつどいについて話し合う「つどい委員会」が帰りのつどいの後に行われました。土曜学級では、班毎に交代制でつどいについて話し合われました。

(3) 一年間の学級活動の流れ

4月	学級を語る会
6月	開級式
7～2月	月2回の学級活動 (8月は夏休み、9～11月に合宿や日帰り旅行あり)
2～3月	成果発表会

3. 青年学級のこれまでの歩み

1974年度に開設された青年学級は体制面に着目すると、その歴史の中に大きな4つの節目をとらえることができます。すなわち、コース制の始まり(1985年)、ひかり学級の発足(1991年)、土曜学級の発足(1997年)、

とびたつ会の発足(2004年)です。そしてこの節目を境にして、5つの時期に分けることが可能となります。

(1) 青年学級の発足と実践から生まれた3つの柱

【1974年度～1984年度】

第一の時期は、青年学級の実践の方向性を模索する中から実践の中核となる3つの柱を確立した時期と言えます。この3つの柱とは、素材として表現活動を伴う文化的な創造活動を重視すること、集団のかたちとして自治的な集団をめざすこと、主題としてそれぞれの生活を活動の中心にすえることです。

こうした3つの柱は、それぞれ、劇づくりを通した仲間づくりをめざした時期(1974年～1977年)、自主的な活動を重視した時期(1978年～1980年)、生活を見つめ直した時期(1981年～1984年)という3つの時期に対応しており、実践の中から生み出されてきた柱そのものと言ってよいでしょう。また、発足当初20名だった学級生の数は、1984年度には63名になっていました。

(2) コース制のはじまりとその発展の時期

【1985年度～1990年度】

第二の時期は、コース制の実施によって始まる時期ですが、第一の時期の成果を受けて、内容別のコース活動に分かれ、それぞれのコースごとにその内容をじっくり深めていく中で、生活づくりをめざすこととなりました。

この時期の生活づくりというねらいが具体的な成果となってあらわれた例に、「わかそよ」が産声を上げたことが挙げられるでしょう。それぞれの生活の中で感じている想いを歌に託して地域に向けて発信することを通じ、一人ひとりの新たな生活の創造が始まったと言えます。

また、こうした活動の中から、全国障害者問題研究会の全国大会に参加したり、パリで開催された国際会議に参加したりする学級

生が現れるようになってきました。

生活づくりという目標のもと、地域にアピールしていく活動は、いろいろなところで実を結び始めたと言ってよいと思います。

この間、参加希望者は増加を続け、1990年度には学級生が99名を数えるようになりました。活動の充実が、青年学級の存在を広く市民にアピールしたことも、希望者の増加に一役買っていると言えることができるでしょう。

（３）ひかり学級への分級による２学級体制の時期

【1991年度～1996年度】

第三の時期は、学級生の増加という事態に対応するためにひかり学級の誕生から始まる時期です。

学級生が増加する中で、言語的コミュニケーションが難しく、多くの介助を必要とする障がいの重い学級生の姿も見られるようになりました。そうした生活上の困難を抱えた学級生がいる一方で、問題が差し迫っていない学級生も少なからずいるという状況は、学級生の多様化も意味していました。

こうした状況下では、学級全体としての共通の目標を以前のように維持することは、しだいに困難になってきました。しかしながら、それは一方で今までの流れを継承しつつ、多様な要求に応える実践を繰り広げてきた時期であると言えるでしょう。

社会への大切なアピールの場「わかそよ」も、青年学級の大規模化のため、隔年開催となりましたが、ミュージカルという新しい表現を盛り込みながら発展を遂げています。またこの時期、海外研修の機会を与えられる学級生が何名か生まれました。

（４）土曜学級の誕生による３学級体制の時期

【1997年度～2003年度】

第四の時期は、土曜学級の誕生によって３学級の体制が始まった時期です。土曜学級は、最初、休日の小学校の校舎を借りるかたちで発足しました。活動の際、車いすの方が一部

利用できない場所がありましたが、2002年に公民館が現在のビルに移ってからは、公民館で活動できるようになりました。「自治」「生活づくり」「文化の創造」の３つの柱を土台にしながらも、公民館学級、ひかり学級、土曜学級のそれぞれが独自の活動を展開するようになりました。

この時期、公民館学級の学級生である高坂茂さんが、日本で最初の本人活動の会「さくら会」結成の中心メンバーとなり、町田の青年学級にも本人活動の成果を持ち帰ろうという思いで活動を始めましたが、2000年３月に志し半ばで職場の事故で亡くなるという大変大きな出来事がありました。「町田にも本人活動を」という動きは、こうした中で芽生え始め、高坂さん亡き後は、その遺志を引き継ぐかたちでいろいろな試みがなされ、とびたつ会の発足へとつながる流れを作り出しました。

（５）とびたつ会の誕生 ～青年の活躍の拡がり

【2004年度～現在】

第五の時期は、青年学級からとびたつ会が生まれ、市主催事業としての青年学級と自主サークルとしてのとびたつ会が、並び立つ体制を開始した時期です。とびたつ会は、形式的には、青年学級とは別の組織ですが、青年学級の活動を通して本人活動の重要性を自覚したメンバーによる会です。しかし、とびたつ会にも青年学級に参加した経験のない青年が加わるなど、次第に独立した活動をするようになりましたが、学級の終わった後の交流や学級行事などへのとびたつ会メンバーの参加、「わかそよ」や、それに類する催し物の共同開催など、両者は深い関係を今後も持ち続けていくことになると思われます。

また、とびたつ会の発足によるメンバーの移動が、結果的に学級生の受け入れ能力を超えてしまった青年学級に新たなメンバーを受け入れる余地をもたらしました。しかし、短期的には学級をひっぱっていくリーダー的存在が抜けることを意味しており、学級活動に影響をもたらすことになりました。しか

し学級生の中からは新しくリーダーシップを発揮する存在が現れ始め、そのリーダーシップのもとで新しい活動の展開が見られるようになりました。

またコミュニケーションの多様化によって、これまであまり発言ができていなかった青年たちの主張が学級活動に反映され始めています。それは自ら発話や文字を書くことができずコミュニケーションが難しいため、これまで話し合いや作文など「ことばを使つての活動」にはあまり参加できなかった青年たちが活躍するようになったということです。

これは「スイッチパソコン」や「指文字」など、支援方法の充実が図られたことが大きいのですが、コミュニケーションが難しいとされる青年たちのことばの世界が拓かれたということ以上に、学級の場面での存在感が大きく増したという変化がありました。

学級では表現活動を通じて主体性を獲得する場面が多くあります。例えば実際に歌うことはできなくても学級ソングの作詞をして発表の舞台に上がるという経験を通じて主体性を獲得する青年たちが出てきました。

こうした青年たちが表舞台に出ることで、学級の雰囲気にも変化の兆しが生まれています。これが社会に受け入れられるにはまだまだ厳しい状況ですが、40 年を越える学級の歴史で貫かれている理念に新しい芽吹きとなったともいえるでしょう。

4. 3 学級に関わる今後の課題

（１）新人学級生の継続的受け入れと担当者体制の充実

青年学級の抱える課題として、新人学級生の継続的な受け入れの問題があります。当初 20 名弱の人数からスタートした青年学級も毎年 10 名程度の新たな学級生を受け入れてきましたが、担当者不足などの理由から新人学級生を受け入れられない状況が 2001 年から発生していました。しかし、将来構想検討委員会での話し合いもあり、新人学級生を 2010 年からは募集できるようになりました。

それに伴って学級生の人数も 3 学級全体で 163 名となりました。

また、会場面でも生涯学習センターとひかり療育園だけでは限界があります。現在の 3 学級体制（公民館学級、ひかり学級、土曜学級）で、どこまでの学級生を受け入れることができるか、会場や規模の面からの検討も必要となっています。

2019 年度には若干名の募集に対し、5 名の応募がありましたが、全員を受け入れることができませんでした。

また、担当者体制が厳しい状況であることに変わりありません。現在の担当者募集方法（「広報まちだ」での募集記事、地域の自治会等を通じての担当者募集のビラの配布やポスターの掲示、近隣の大学・専門学校へのポスター掲示及び授業やガイダンス等での担当者募集の説明など）に加え、大学のボランティアサークル等との連携やボランティア講座の活用など、担当者を継続的に安定して確保する方策が模索されてきました。

担当者体制は単純にマンパワーの問題だけではありません。担当者として主体的に学習活動に関わる以上は、単に「一市民としてのボランティア」として参加する以上の資質と取り組みが求められます。そのために担当者会を充実させ、参加を促していくことも必要とされています。これまでの方向性を検証し、人材確保・育成についても検討が必要な段階になっています。

（２）青年を取り巻く環境の変化への対応

学級に参加する青年の状況も大きく変化しつつあります。障がい者施策の影響もあり学級生を取り巻く生活環境や就労状況もここ数年大きな変化ができています。新しく参加している学級生でも一般企業で働く人がいる一方で、高度なケアが必要な人も増えています。

長年学級に参加してきた青年も、グループホームや通勤寮、生活寮を利用し、仕事に就いて得られた給料の使い方の訓練を受けたり、自らの将来について考えたりするなど、自立にむけて活動するようになってきまし

た。特にここ数年、市内にもグループホームが増え、自宅からグループホームへ移る青年も増えています。現時点ではグループホームへ移ったことにより青年学級に通えなくなるということはありませんが、学級生の置かれている状況を把握することがこれまで以上に重要となってきています。

加えて、こうした家族の高齢化や生活環境の変化により、送迎の必要性も高まってきています。これまでも送迎検討委員会で青年学級における送迎の課題について検討し、一時送迎を行ってきていますが、今後、より一層、送迎に対するニーズが高まってくることが予想されます。

そして、これらの青年学級の将来像や、青年を取り巻く状況の変化、送迎等の課題について、生涯学習センター職員や担当者、家族だけでなく、青年学級の主体者である学級生と一緒に考えていき、その中で本来的な青年学級の意味を再確認し、これからの発展について将来的な展望を持っていくことが、今後の大きな課題となっています。

体制面の語句の説明

青年……発足当初より、学校を卒業して社会に出た知的障がい者の社会教育の場は「青年学級」という名称で活動が進められ、社会的にも認知され今日にいたっています。その経過の中で学級生に対して青年という呼び方が定着しています。実際には青年期を越えた学級生が多数をしめるわけですが、その活動の若々しさなどもあって、違和感をあまり覚えることなく使われてきたと言えます。

担当者……青年を支援し、共に活動する人。参加資格は18歳以上の人。学級日の運営だけではなく、担当者会や総括会議への参加、学級ニュースの作成、実践報告集の校正作業なども活動に含まれています。

当日担当者……仕事や授業などの都合により、担当者会への参加が難しいため、学級日のみ参加する担当者のこと。(役割は担当者と同様)

コース・班制……青年学級での自治活動を展開するための、10～20人の基礎集団。やりたいこと(音楽・料理・スポーツ・工作など)を参加者が選び、希望別に分かれた集団のことです。

つどい……コース・班活動に入る前に、学級参加者全員が集まって歌をうたったり、見学者の紹介をしたり、近況報告をする場。朝と帰りに行っています。

成果発表会……年度の終わりに、1年間の活動の成果を発表する場。今年度、3学級ともに生涯学習センターで行いました。

青年学級を語る会……学級生が年度の初めに学級活動について話し合う場。前年度の反省と新年度の活動について学級ごとに話し合いを行なっています。

とびたつ会……青年学級よりも、より青年が主体的に活動することをめざした本人活動の会で、発展学級としての性格も併せもっています。2004年に発足。

担当者会……青年学級に参加する担当者が集まって、週に1回開かれる会議で、学級ごとに行っています。月2回の活動の準備や反省、活動やその他の場面での学級生との関わりの中で青年が表現する

中から、青年の求めていることは何なのか、その実現に向けてどうしたらよいのか、それをどのように今後につなげていくのかを話し合います。各学級の担当者会で2名程度の「学級主事」が選出され、会の進行をしています。

調整会……担当者から選ばれた学級主事と生涯学習センター職員で構成。青年学級を実施するにあたっての全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示します。また学級間の情報交換・共有を図る会です。

父母会……青年の家族が、青年たちが現在抱える問題や将来の生活に抱える不安などを改善・解消するために設けている話し合いの場、及びその集団です。

送迎検討委員会……各学級から選出された数名の担当者(送迎委員)で構成される委員会。青年の通級に欠かせない送迎の保障について話し合い、取り組んでいます。

将来構想検討委員会……生涯学習センター長、生涯学習センター職員、各学級から1～3名程度ずつ代表として選出された担当者(将来構想検討委員)、とびたつ会支援者で構成される委員会。青年学級の中長期的な将来像を検討するために組織されていましたが、2012年度以降は開催されていません。

若葉とそよ風のハーモニー……青年学級の活動から生まれた学級ソングや劇を社会に向けて発信していく場として、1988年から町田市民ホールで行っている実行委員会形式のコンサートです。活動の中では、“わかそよ”と略されます。

活動内容の語句の説明

学級ソング……学級独自で作られ歌われる歌のこと。青年のことばや姿、口ずさんだフレーズなどを元に歌としてまとめています。こうした学級ソングはつどいの他、コース活動の中、行事などの場で一緒に歌うことで共有され、学級の一体感と盛り上がりの形成に一役買っています。既製の 대중文化におけるポピュラー

な曲ではなく、障がいを持つ青年たちの生活実感や思いを反映したものです。それは、民衆文化としての自分たちの「文化の創造」という青年学級で大事にされてきたテーマを象徴しています。

素材……実際の学習活動におけるテーマや取り組みのもとになるもの。具体的には青年から直接的・間接的に出される要求や生活状況などで、それを共有することで活動を展開しています。

思い起こし・近況報告……活動での話し合いの基本となるもの。青年学級での話し合いは多様な青年が参加しているため、青年の発言をまとめるだけではなく、意思表示を確認してコース・班全体で共有する作業が必要になってきます。青年一人ひとりの思いを共有するために活動の基本的なことを話したり、個人として話しやすい身の回りのことが話題にされたりしています。

作品づくり……学級では一人ひとりが絵を描いたり、ねん土を作ったり、またコース・班全体で作品づくりに取り組んでいます。いわゆる工作的なものだけではなく、作った学級ソングをレコーディングでCDにまとめたり、作文や絵画を蓄積して文集にまとめたりすること、調理活動なども含まれます。

表現活動……青年学級では二つの使い方をする活動で、一つは歌や劇といったコース・班で通常行われている「パフォーマンス活動そのもの」、もう一つは、主に成果発表会やクリスマス会など全体で行う催し物で作文を朗読したり、作った歌を披露したり、外出で調べてきたことを発表したり等、「活動内容そのものの紹介のための二次的な表現活動」との二つに分けられます。

いずれにしても成果発表会という一年の締めくくりが大きな目標になっており、成果発表会に向けて練習を重ねたり、発表のためにこれまでの活動を振り返り表現としてまとめあげたりすることで、単に青年の内部表出だけではなく、コース・班全体の活動を外在化するという意

義もあります。

本人活動……障がい当事者が決定権をもったグループ活動のこと。日本における本格的な本人活動の芽は、1991年の育成会全国大会本人分科会にあると言われていました。この時結成された「さくら会」には、町田からも高坂茂さんという青年学級の先輩も参加されました。

それまでは、多くの場面で能力がないとされ、意見表明や自己決定等の機会が剥奪される傾向にあった知的障がいのある人たちが、「自分たちのことは自分たちで考えよう」と自らが社会変革の担い手であることを自覚し、学習や行動をする活動に取り組み始めました。実際の活動は幅広く、福祉の制度や自分たちの権利についての学習活動や、レクリエーションなどを内容としています。

スイッチ・指文字・筆談……数年前より重度の肢体不自由や知的障がいのため、あるいはいわゆる自閉症などのために、言語的コミュニケーションが苦手とされる青年を中心に、スイッチパソコンで気持ちを話す方法が取り入れられてきました。現在では、パソコン自体は使用せず、通訳者が青年の体の一部に触れ、五十音を発音しながら一文字ずつ言葉を選び出していく「スイッチ」や通訳者が青年の一方の手（指）に手を添え、通訳者の掌に文字を書いていく「指文字」、青年が持つペンに手を添えて文字を書く「筆談」などがあり、コミュニケーション方法も多様化しています。また、言語でコミュニケーションをとる青年も思いや意見を語る際、補足的にこれらを使う青年も増えてきています。

また、パニックのような行動を見せた青年に対して気持ちを聞き、そのときの本人の考えや反応などを理解し、周囲の対応や受容につなげる実践がされています(詳細は2008年実践報告集の特集を参照)。

学級名		活動単位		自治活動	内容
日曜学級	公民館学級	コース制	◆みんなのしあわせ づくりコース ◆まあるいゆめコース ◆さくらコース ◆ハッピーハッピー くらしコース ◆さくらんぼスポーツ 体づくりコース ◆ゆめのつづきコース	班長会	各コースの班長・副班長とそれを支援する担当者で構成される学級活動後の会議。年間行事についての調整や班長会ニュースの作成を行っている。
				つどい委員	有志で集まった学級生と担当者数人で構成し、朝夕のつどいについて企画・運営を行う。また合宿・クリスマス会・成果発表会は班長会と合同で運営していた。
	ひかり学級		◆イートチョコパイ 青空コース ◆サルビアダンスコース ◆ GoGo みずいろ スターズコース ◆あじさいコース	班長会	ひかり学級全体について話し合いをする会議。 合宿・クリスマス会・成果発表会などの行事についてと、コースからの連絡を行った。
土曜学級		班制	◆星空ドルフィン スポーツ班 ◆みんなのイベント班 ◆あじさい班 ◆青空いなずま班	班長会	各班の班長・副班長とそれを支援する担当者で構成され、成果発表会等の行事や、土曜学級全体について話し合う会議。

第 2 部 公民館学級

第 1 章 コース活動

こうみんかんがっきゅう
公民館学級 みんなのしあわせづくり（コンサート）コース

かつどう なが
活動の流れ

がつ か 6月2日	かいきゅうしき 開級式
がつ にち 6月16日	かかり めいぎ 係・コース名決め
がつ か 7月7日	たなばた たんざく せいねんがっきゅう はな あ 七夕の短冊づくり、青年学級についての話し合い
がつ にち 7月21日	がっしゅく ちようしよく ぎ さくぶん かんしょう 合宿の朝食決め、作文づくり、わかそよDVD鑑賞
がつ たち 9月1日	【がっきおんがく ごうどう がっしゅく ないよう ぎ いけんこうかん 楽器音楽コースと合同】合宿の内容決め、まちカフェについて意見交換
がつ にち 9月15日	がっしゅく ないよう ぎ はな あ 合宿の内容決め、まちカフェについて話し合い
がつ か 10月5日	がっしゅくいちにちめ ほっぴよう れんしゅう 合宿一日目（コース発表の練習、キャンプファイヤー）
がつ か 10月6日	がっしゅくふつかめ ほっぴよう む はな あ 合宿二日目（まちカフェ発表に向けた話し合い）
がつ か 10月20日	まちカフェのきょくぎ しんきょくさくせい まちカフェの曲決め、新曲作成
がつ にち 11月17日	クリスマス会 かい ないよう ぎ ほっぴよう む れんしゅう クリスマス会の内容決め、まちカフェ発表に向けた練習
がつ たち 12月1日	「まちカフェ！」しゅつえん 出演
がつ にち 12月15日	クリスマス会 クリスマス会
がつ にち 1月19日	まちだてんまんぐう はつもうで はな あ 町田天満宮へ初詣、ふれあいコンサートについて話し合い
がつ か 2月2日	ふれあいコンサートに向けたれんしゅう 練習
がつ にち 2月15日	「ふれあいコンサート」しゅつえん 出演
がつ にち 2月16日	こんねんど かつどう ふ かい 今年度の活動振り返り
がつ たち 3月1日	せいかほっぴようかい しんがた かんせんかくだい ちゅうし 成果発表会（新型コロナウイルス感染拡大のため中止）

1. コンサートづくりコースの特徴

(1) コースができるまで

昨年度に初めてできた「コンサートづくりコース」は、文科省による障がいをもつ方の生涯学習支援の取り組みがきっかけになったものの、「学級活動内で“わかそよ”に向けた取り組みを行いたい」という思いからも生まれたコースでもありました。

従来、わかそよ（若葉とそよ風のハーモニーコンサート）は、青年主体による実行委員会形式で企画・運営が行われていましたが、メンバーは実行委員会に出席できるメンバーに限られていました。また準備に本格的に取り組める時期も通年の学級活動が終わる3月頭以降でしたので、準備に充てられる時間も限りがありました。

コンサートづくりコースは、そのような背景から誕生したコースでした。ですので、昨年5月に開催された第19回若葉とそよ風のハーモニーコンサートが終わった際、このコースもこれに伴い活動が一旦終える選択肢を思い描いていた青年や担当者もある程度いたことと思います。

次年度のコース構成や活動内容をどうするかの話し合いは、毎年の頭で開催される「青年学級を語る会」で話されます。今年度のコンサートづくりコースをどうするか、についてもここで話されました。

わかそよは2年に1度の開催の為、今年度の活動の後に“わかそよ”はなかったのですが、語る会では、わかそよだけでなく、「とっておきの音楽祭」をはじめとした学級外のステージ出演についての構想が青年から語られていきました。

結果、コンサートづくりコースは継続し、昨年

度の目的であった「わかそよの開催」からまた別の新たな目標に向かって活動をスタートすることとなりました。

(2) メンバーの特徴

昨年度のコンサートづくりコースに所属していたメンバーが、今年度も多くこのコースに参加することになりました。一方で、3名の青年が、コースのメンバーとして新しく加わっています。

最初の活動での自己紹介では、「自分だけでは歌ったりできないけど、コンサートでどういことを伝えたいか考えて、思いをたくさんの人に伝えていきたい」というようなそれぞれの思いが語られていましたが、メンバー皆、やりたいことを明確にもってこのコースに参加しているように思いました。

コースは女性が大多数を占め、班長は昨年副班長だった青年が新たに班長となりました。日ごろの話し合いは活発に行われ、口頭による話し合いのほか、普段口で話すメンバーも筆談を使ったり、場合によっては、家などで考えてきた作文を読みあげたりすることで、各メンバーは自分の意見を伝えたりもしていました。

2. コース活動の様子

(1) 発表内容の話し合い

今年のコンサートづくりコースは昨年とは違い、発表の場が特にないまま、活動がスタートしました。そのため担当者は、発表するステージ探しから始めることとなりました。

ちょうど青年学級の活動日で、都合のよいことに時期的にも活動終盤である12月1日に、市民に

よる実行委員会と市役所が協働で開催する大きな規模のイベント「まちカフェ！」があることを伺い、担当者から町田市の担当部署にアプローチしてみました。

ありがたいことに「まちカフェ！」では、ミュージシャンが次々に演奏するステージコーナーでの発表のほか、オープニングセレモニーでの演奏もさせていただけることになり、想定していたよりもずっと多くの方に思いを届けられそうな機会になりました。

出演決定後は、青年からも「どうやったら自分たちの思いがたくさんの人たちに伝えられるか」というようなことが話し合われることになっていきました。

発表のテーマについては、今年度の活動開始頃に様々な意見が挙がりました。繰り返し行なわれた話し合いでは、「私たちの命」だったり「やまゆり園のこと」だったり、数多くの意見が挙がりました。

その中でも集中的に語られたのは、班長の「青年学級に来たくても来られない人がいる。青年学級のような場所があることを知らない人もたくさんいる」という話や、車椅子で生活する一人の青年から語られた「僕たちにとって仲間と話し合う場はとても必要で、それが青年学級だということを知ってほしい」という思いでした。

話し合いを重ねる中で、自分たちにとっての青年学級の大切さについて発表しようという方向へと、皆の思いが次第に固まっていきました。

7月には、たまたま生涯学習センターに来ていた“とびたつ会”のメンバー（青年学級の卒業生）

にも話し合いに参加してもらう機会があり、「仕事がつらくて自殺しようとしたとき、青年学級のことを思い出して、死ぬのを留まった」という話を聞きました。そこから、それぞれのメンバーの青年学級に対する思いが次々に言葉となりはじめ、テーマに対しての議論がさらに積み重なっていくこととなりました。

(2) 歌づくり

コースのメンバーには、もともと音楽コースに所属していた青年も多かったせいか、歌づくりをしたいという意見は一年を通してずっと挙がっていました。夏休み明けには、合宿の活動として、時間をかけて歌づくりに取り組みたいという意見が挙がり、歌づくりの活動が本格的にスタートすることとなりました。



「まちカフェ！」の発表内容については、「青年学級のこと」で固まっていたため、歌もそれに合わせた内容がよいのではという話がなされました。そのため、歌づくりに向けた活動の第一歩目としてまずは学級が自分たちにとってどういった場所なのか、一言ずつ意見を出しあうことにしました。

「人生や生きかたを考えることができる」「私

らしくいられる場所」「楽しい人生が続く」「分かり合える仲間がいる」「職場では話せないことを話せる」などの言葉が30個以上挙がり、この中から歌詞になるフレーズを選んで、組み立てていきました。

歌のボリューム感としては、練習回数が少なくても本番（まちカフェ！）でしっかりと声が出せるように短く歌いやすい程度のものとなりましたが、まちカフェ！終了後には2番も作りたいという意見が挙がり、年度の後半では、次のコンサートに向けて2番をつくる活動も行なっていくこととなりました。

2番は、前述の「職場のともだちもいつか一緒に青年学級で話したい」という班長の思いや、その他「ここはいつまでもわたしのいい居場所」という別の青年の作文などがもととなって作られています。

曲のタイトルについては、「青年学級のうた」や「大切な学級」など“学級”と名のつくタイト

ル案がいくつもでしたが、メンバーの一人から「学級」とうたにも出てきているので、タイトルには入れなくてもいいと思う」という意見が挙がり、それにみんな賛同したことから、最終的には「私のいい居場所」というものになりました。

（3）発表に向けた取り組み

合宿やクリスマス会などの行事をはさむと発表の準備に費やせる日にちも少なく、また話し合いを重ねてきたとはいえ、夏休みなどで活動の時間が開いてしまうこともあるなかでしたので、なかなかコンサートに向け内容が積み上がっているという実感も持ち難かったように思います。

ですが、1回目のコンサートであった「まちカフェ！」に向けて、このコースの目的であった「テーマ決め→歌の選曲→歌づくり→シナリオづくり」といった一連の流れを活動に取り入れることはなんとか行うことができたように思います。

少しずつコンサート作りを実践していく中で、



まちカフェ！オープニングアクト（市庁舎）

さいわい 嬉しいことに次のコンサート「第30回ふれあいコンサート」(2月開催 会場：和光大学ポプリホール鶴川) への出演の話(しゅつえん)を東京町田サルビアロータリークラブからいただきました。

「ふれあいコンサート」の発表(はつひょう)時間は30分と、「まちカフェ！」に比べて(くら)少し長く、その分(ぶん)多くの歌(うた)や作文(さくぶん)を発表(はつひょう)に取り入れることができました。また、このコンサート出演(しゅつえん)にあたり、他学級(たがくきゅう)の方(ほう)へも参加(さんか)を呼びかけ、総勢(そうせい)50名程度(めいいていど)が一緒(いっしょ)になつての発表(はつひょう)となりました。出演者(しゅつえんしゃ)は多かったものの、コンサート後のコース内(ない)の振り返り(へんり)では、自分(じぶん)たちでコンサートを作(つく)ったという実感(じっかん)が多く語(かた)られたことから、コースの目的(もくてき)もある程度(ていど)達成(たっせい)できたのではないかと(おも)われます。

今年度(こんねんど)のコースは、昨年度(さくねんど)のわかそよに向けた取り組み(とく)とはまた一風(いっぽう)違い(ちがひ)、言葉(ことば)通り「コンサートを一(いち)からつくる」というテーマ(ちやうせん)に挑戦(ちやうせん)するコースとなりました。

このテーマ(ちやうせん)の活動(かつどう)が今後も継続(けいぞく)されるかどうかはまだ分(わ)かりませんが、活動(かつどう)を続ける中(な)でコンサート出演(しゅつえん)の回数(かいすう)も重ね(かさ)、発表(はつひょう)内容(ないよう)をつくる流れ(なが)が青年(せいねん)とともに見えてくるようになれば(おも)います。「コンサートづくりコースの活動(かつどう)内容(ないよう)ってこういうもの(な)だよね」というもの(な)が青年(せいねん)と担当者(たんとうしゃ)の中(なか)でともに積み重ね(かさ)ていけると、コンサートづくりがもっとスムーズに、そして活発(かつぱつ)に行(おこ)なわれるようになっていくの(な)かもしれません。



ふれあいコンサート (和光大学ポプリホール鶴川)

わたしのいい居場所

みんなのしあわせづくりコース

The musical score is written for a single melodic line in treble clef, key of D major (two sharps), and 4/4 time. It consists of four staves of music, each with Japanese lyrics underneath. Chord symbols (D, A, B, F, G, F, B, G, A, D, G, D, C, D, G, A, D) are placed above the staff lines to indicate the harmonic accompaniment. The lyrics are written in hiragana and katakana. The score includes measure numbers 1, 5, 9, and 13 at the beginning of their respective staves. The final measure of the fourth staff ends with a double bar line.

1 D A B F
みんなではなしあうことが わたしらしさに つながってくよ
しょくばのともだちもいつか いっしょにおもいを はなしたい

5 G F B G A D
しょうがいがあっても かわらな い
わたしのきもちを つたえた い

9 G D C D
せいねんがっきゅうが わたしにはひつよ う
せいねんがっきゅうで みらいにはなさか す

13 G D G A D
たのしいじんせい が つづきますよう に
ここはいつまでも わたしのいいば しょ

こうみんかんがっきゅう
公民館学級 まあるいゆめ（歌楽器）コース

かつどう なが
活動の流れ

がつ か 6月2日	かいきゅうしき 開級式
がつ にち 6月16日	コース決め。歌と今年度やりたいことの話し合い。
がつ か 7月7日	かかりき 係決め。コース名の話し合いで「まあるいゆめ」に決定。
がつ にち 7月21日	ちょうり ひ 調理 冷やし中華とパンケーキ
がつ たち 9月1日	がっしゆく なつやす 合宿、夏休みの思い出、まちカフェについて話し合い
がつ にち 9月15日	がっしゆく だ もの うた れんしゅう あた うた 合宿の出し物の歌の練習。新しい歌づくりの話し合い。
10月5日	ごぜんちゅう あさ 午前中、朝ごはんの買い出し。 おおちざわ つ 大地沢に着いてからは、コース発表の時に歌う「ありがとうの歌」「願いの季節」 たいせつ うた れんしゅう 「大切なこと」の歌の練習。キャンプファイヤー後のお茶会。
10月6日	みんなで作ったスクランブルエッグやサラダを食べて、ホールで活動。 『いのち』について考えてきたことやそれぞれ仲間に伝えたいことを話す。
10月20日	がっしゆく さんか 合宿に参加できなかった人に、合宿のできごとや話し合ったことの共有。 ごご 午後は、わかそよのビデオを見る。
11月17日	ごぜんちゅう 午前中、クリスマス会の話し合い。全体で歌う歌「ハッピークリスマス」、「光が もっととどきますように」、「やまゆりにささげる歌」、「えいえんのやまゆり」コ ースの発表、「ありがとうのうた」「大切なこと」を歌う。午後、せりやが公園に さんぽ こうみんかん もど うた 散歩。公民館に戻って歌づくりの活動。
12月1日	さんか まちカフェに参加。 ごぜんちゅう 午前中、ステージでうたう歌の練習。前回つくった歌詞について話し合い。 ごご 午後、まちカフェのステージへの参加のために、市役所へ。到着後、他のコー スと合流して、練習。本番へ。
12月15日	ごぜんちゅう 午前中、コース発表の歌の練習。「たいせつなこと」、「ありがとうのうた」、 たびだ きよく 「きみへの旅立ち」の3曲。午後、クリスマス会
1月19日	しょうがつ はなし うた お正月の話。歌づくり。メロディと歌詞の完成。
2月2日	かんせい うた れんしゅう 完成した歌の練習。午後は、他のコースといっしょに、2月15日のポプリホー ルでのふれあいコンサートの歌の練習。
2月16日	せい か はつぴょうかい うた れんしゅう 成果発表会の歌の練習 あたら せいかい 新しいいのちの世界についての作文。
3月1日	せい か はつぴょうかい しんがた 成果発表会（新型コロナウイルス感染拡大のため中止）

1. まあるいゆめ(歌^{うた}楽^が器^き)コースの特^{とく}徴^{ちゆう}

まあるいゆめコースは、歌^{うた}や楽^が器^きに取り組^とむコ^くースとして、継^{けい}続^{ぞく}しているコースですが、コンサ^くートづくりコースが生^{たん}誕^{じよう}してから、楽^が器^き演^{えん}奏^{そう}の^{とく}い^いなメンバ^へーがそちらに移^{うつ}ったこともあつて、歌^{うた}や歌^{うた}作^{つく}りを求^{もと}めているメンバ^へーが多^{おほ}くをしめるようになつて、楽^が器^きの演^{えん}奏^{そう}の機^き会^{かい}は少^{すく}なくなりました。

コ^くミュニケーシ^{そくめん}ョンの側^{どくりよく}面^{はな}では、独^{ひつだん}力^{りよく}で話^{はな}すことのできるメンバ^へーと、介^{かい}助^{じよ}を通^{とお}した筆^{ひつだん}談^{だん}によつて意^い思^しを伝^{つた}えることができるメンバ^へーとがいます。筆^{ひつだん}談^{だん}の介^{かい}助^{じよ}のできるスタフ^{かつどう}がいない活^{かつどう}動^{どう}日^ひもありますが、みん^{みん}が自^じ由^{ゆう}に意^い思^しを伝^{つた}え合^あうことができるとい^いうことを前^{ぜん}提^{てい}に^して、活^{かつどう}動^{どう}は進^{すす}められ^れています。

また、このコースには、新^{あたらし}しく青^{せい}年^{ねん}学^{がく}級^{きゆう}に加入^{かにゆう}したメンバ^へーが2名^{めい}参^{さん}加^かしています。

2. 今^{こん}年^{ねん}度^どや^やり^りた^たい^い活^{かつどう}動^{どう}につ^{につ}いて

- ・調^{ちよう}理^り活^{かつどう}動^{どう}(う^うどん^{どん}作^{つく}り、カ^かツ^{とん}井^{じん})
- ・仕^し事^{ごと}につ^{につ}いて話^{はな}した^{たい}い
- ・みん^{みん}で一^{いつ}緒^{しよ}に面^{おも}白^{しろ}い活^{かつどう}動^{どう}がし^{したい}たい
- ・下^げ水^{すい}、ゴ^{しよ}ミ^{りじよう}処^{けん}理^{がく}場^{がく}の見^{けん}学^{がく}

等^{とう}があ^あが^がつ^つて^ていた。

3. 活^{かつどう}動^{どう}の^{よう}す^す様^{よう}子^す

(1) 歌^{うた}づ^づく^くり^りにつ^{につ}いて

今^{こん}年^{ねん}度^どの活^{かつどう}動^{どう}は歌^{うた}作^{つく}りを一^{おほ}つ^つの^{はしら}大^{だい}き^きな^な柱^{ちゆう}とし^して活^{かつどう}動^{どう}が進^{すす}められ^れました。そ^そこ^こで、歌^{うた}作^{つく}り^りを^{とお}通^{とお}して、1^{いっ}年^{ねん}の活^{かつどう}動^{どう}をま^{まと}め^めて^てみ^みた^{たい}い^いと思^{おも}います。

今^{こん}年^{ねん}度^どは、前^{ぜん}年^{ねん}度^どか^から引^ひき^き続^{つづ}き^き楽^が器^きコ^くースに参^{さん}加^かしているメンバ^へーに^くわ^わえ^えて、劇^{げき}ミュージカ

ルコ^くースか^から移^{うつ}つて^てき^きたメンバ^へーが3人^{にん}います。また、劇^{げき}ミュージカ^ルでは、やま^{やま}ゆ^ゆり^り園^{えん}の事^じ件^{けん}につ^{につ}いての歌^{うた}物^{もの}話^わを^{つく}つた^たの^なです^すが、そ^その^な活^{かつどう}動^{どう}で主^{しゆ}導^{どう}的^{てき}な役^{やく}割^{わり}を^は果^はた^たして^てき^きたメンバ^へーです。このコ^くースでは、昨^{さく}年^{ねん}度^ど、感^{かん}謝^{しゃ}の気^き持^もちを^てが^がみ^みに^して、そ^それ^れを^をも^もと^とに^して「あ^あり^りが^がと^とう^うの^のう^うた^た」を^{つく}つて^てい^いま^ます。

開^{かい}級^{きゆう}式^{しき}を^お終^{だい}えて^{かい}第^{かい}1^{かい}回^{かい}目^めの活^{かつどう}動^{どう}では、今^{こん}年^{ねん}度^どや^やり^りた^たい^いこと^{こと}を^{はな}話^あし^し合^ない^なま^ました。そ^その^な中^{なか}で、前^{ぜん}年^{ねん}に^{げき}劇^{げき}ミュージカ^ルコ^くースでやま^{やま}ゆ^ゆり^り園^{えん}の劇^{げき}づ^づく^くり^りに^とと^とり^り組^くん^くだ^だメンバ^へーか^から^は、「去^き年^{ねん}の^{よう}に^{おも}い^い重^{おも}い^い内^{ない}容^{よう}の^{こと}を^{やり}た^{たい}い^い。」とい^いう^い意^い見^{けん}が^で出^でて^きま^まし^した。す^すと^と、い^いっ^いし^しよ^よに^{げき}劇^{げき}ミュージカ^ルコ^くースに^{いた}い^いた^た別^{べつ}のメンバ^へーか^から、「今^{こと}年^{とし}は、わ^わか^かそ^そよ^よが^がな^ない^いので、少^{すこ}し^し違^{ちが}つ^つた^た内^{ない}容^{よう}に^とと^くり^り組^くみ^みた^{たい}い^い。新^{あた}し^しい^い世^せ界^{かい}を^{つく}る^いの^ちの^{うた}歌^つが^つ作^{つく}り^りた^{たい}い^い。」とい^いう^い意^い見^{けん}が^だ出^でさ^された^たの^なです。そ^そし^して^てな^なん^んと、詩^しとメ^メロ^ロデ^ディ^{ィー}の^{いちぶ}一^{てい}部^{あん}が^{てい}提^{てい}案^{あん}さ^され^れま^まし^した。そ^それ^れは、「あ^あた^たら^らし^しい^いい^いの^ちの^{うた}歌^つを^{いま}み^みん^んな^なで^こえ^えを^あわ^わせ^せて^てあ^あた^たら^らし^しい^いい^いの^ちを^むね^ねに^だき^きぼ^ぼく^くら^らは^はひ^ひか^かり^りの^{なか}へ^へあ^あゆ^ゆみ^みだ^だそう^{そう}」とい^いう^いも^もの^ので^でし^した。ま^まだ、^{だん}断^{たん}片^{ぺん}で^した^たが、悲^{かな}しい^い事^じ件^{けん}を^もと^とに^した^た前^{ぜん}年^{ねん}の^{うた}歌^つと^は違^{ちが}う、純^{じゆん}粋^{すい}に^いの^ちの^{かが}輝^やきを^{うた}歌^ついた^{たい}い^いとい^いう^い思^{おも}い^いが^{この}詩^しの^{なか}中^{なか}に^はは^はつ^つき^きり^りと^こも^もつ^つて^てい^いま^まし^した。この^い意^い見^{けん}は^{みん}み^んな^なに^も強^{つよ}く^う訴^うえ^える^{もの}の^だつ^たの^なで、この^ひ日^ひは、そ^そう^うい^いう^う歌^{うた}を^{みん}み^んな^なで^{つく}つて^てい^いこ^こう^うと^うい^いう^うこ^こと^とを、漠^{ばく}然^{ぜん}とし^した^たか^かた^たち^ちで^はあ^あり^りま^まし^した^たが、共^き有^{いう}す^する^こと^とが^でき^きま^まし^した。

7^が月^{がつ}の^{だい}第^{かい}1^{かい}回^{かい}目^めも、この^{てい}提^{あん}案^{あん}さ^された^し詩^しとメ^メロ^ロデ^ディ^{ィー}を^{あら}改^{うた}め^めて^{すこ}歌^{うた}つ^つて^てみ^みて、少^{すこ}し^しづ^づつ^つイ^いメ^めー^じジ^じを^{ふく}ら^らま^ませ^せま^まし^した^たが、そ^それ^れ以^い上^{じよう}に^は発^は展^{てん}さ^させる^{には}、手^てが^みか^かり^りが^み見^みつ^つか^かり^りま^ませ^せん^でし^した。

歌作りの話に大きなきっかけが生まれたのは、
10月5日、6日の合宿での話し合いでした。参加者の
数は少なかったのですが、その分、じっくりと
話し合いを持ちました。

その話の中で、これまでの自分のこと、意思を
表現することの喜びを話したメンバーが、その
気持ちを次のような詩にまとめました。

「弓を放ってもいつも届かないけれど、僕の弓は
僕にしか放てない。僕の放った矢はなかなか遠く
まで届かないけれど、これもまた僕にしか届けら
れない矢だ。銀色の風がふいた朝やと僕の矢は
その風によって遠くの空へと飛び立つことがで
きた。いつかこんな日が来ると思っていたけれど
銀色の風は不意にやってきた。この朝を待ち続け
て良かったと思う。」

6月に、新しい歌を作ろうと提案したメンバー
は、なかなか歌詞を広げるイメージが見つからな
くていきづまっていたけれど、この弓をはなつと
いうイメージで、歌が広がりそうだと述べ、これ
からの活動の見通しが開けていくことになりました。

合宿のあと、11月17日の活動には、ここまでの
話し合いを、一つの歌詞にまとめてきたメンバー
がいました。この方は、前年度の劇ミュージカル
コースのストーリーをまとめるという重要な
役割を果たした方でもあります。

1. あたらしいのちの弓をひきしぼり みんな
で未来に矢をはなて

矢がめざすそのさきはぼくらのあたらしい大地だ
から みんなでいのちの弓をひきしぼろう

2. あたらしいのちの森にみんなできれいな花

の種をまこう

めがでて森に花が咲き森にあたらしいのちがみ
ちあふれるとき

ぼくらはいのちにみたまされる

3. あたらしいのちの空へみんなであいを広
げ・・・(ここまで)

まだ、細かな調整は必要だとはいえ、これで、
ともかく、歌の完成への具体的な道が見えてきま
した。成果発表会までの時間を考えると、ほん
とうによいタイミングでした。

そこで、メロディーづくりをどうするかという
話になったのですが、この詩にどのようなメロデ
ィーをつけようかということ話し合っている時
に、誰かメロディーをつけられる人はいないかと
1年目の女性に声をかけたメンバーがいたのです。
するとその時、この女性は、うなずいて、メロデ
ィーを伝えてきました。それは、ふだんから口ず
さんでいるメロディーをもとにしたものだとのこ
とで、「あたらしいのちの弓をひきしぼりみんな
で未来に矢をはなて」にほぼ対応するものでした。

12月は、まちカフェのコンサートとクリスマス
会といった行事が続いて、歌作りは、わずかに、
歌詞が短いということで、歌詞を長くすることが
できました。

そうして、1月17日の活動を迎えましたが、気が
つくと、成果発表会までもう時間があまりありま
せん。この日の活動がとても重要だということに
なったのですが、メロディーを考えた女性がお
休みだったのです。すると、いつも学級ソング
をしっかりと美しい歌声で歌う女性が、私
が作ってもよいということで、その続きを口ずさ

んでいきました。最初のメロディーが決まっていたらなんとなく続きはできるとのことで、とうとう、最後までメロディーが完成しました。そこで、それに合わせて 2 番の歌詞も言葉をそろえていきました。残念ながら、アイデアは出ていた 3 番までには届きませんでしたが、歌は、なんとか完成させることができたのです。なお、前半のメロディーを考えたメンバーは、残念ながら、メロディーの完成の場面には立ち会えませんでした。後日、完成したメロディーに大変納得していました。

完成した歌は、次のようなものです。

新しいいのちの歌

1. 新しいいのちの弓をひきしぼり みんなで
未来に矢をはなて

みんなではなったその矢がいつか ぼくらの未来
をきりひらく

矢がめざすそのさきは 新しい大地だから

みんなでいのちの弓をひきしぼろう

2. 新しいいのちの森に集まって きれいな花の
種をまこう

みんなのまいたその種がやがて かわいい芽をだし
花となり

まあい実がなって 森にいのちがみちあふれる
とき

ぼくらはひとつのいのちにみたされる

3月の成果発表会を一つの目標として、みんなで
さまざまな話し合いをかさね、歌ができあがった
という充実感はありませんでしたが、一つ問題になっ
たのは、成果発表会での発表のかたちです。成果
が一つの歌であることはまちがいないのですが、

その歌を歌っただけでは、発表は短い時間で終
わってしまいます。そこで、発表に際して、以下
のようなメッセージを読み上げることとしたので
す。

新しい命の世界とは僕たちすべてが受け入れら
れる新しい世界です。そこではもう人の価値など
をわざわざ改めて議論することはありません。な
ぜならすべての命は豊かな意味に満ちているか
らです。

新しい命の世界ではもう誰も誰かを見下すこと
もせずにみんながお互いを大切にする世界です。
だから僕はそんな世界を夢見しています。いつか
本当にそんな世界が来てほしいです。

僕が考える新しい命の世界はもう二度とやま
ゆり園のような事件も起こらない世界ですが本当
の新しい命を皆もう体の中に蓄え始めている
のでそれを大切に育てていきましょう。

僕は本当の僕たちの姿を全ての人が理解してく
れてみんなが本当に平等に生きられる世界をイ
メージしています。

僕のようにうまく気持ちが言えない人間もまた豊
かな命にあふれているということを僕は叶えて
くれる世界こそ新しいいのちの世界だと思って
います。

(まず新しいいのちの歌を作りたいと思ったの
はこの頃出生前の診断のことややまゆり園の
事件のことなど許せないことについて考えるこ

とが^ふ増えてきたので、^{あらた}改めて^{ほんとう}本当のいのちの^か価値^ちについて^{かんが}考えたいと思^{おも}ったからです。)(^{あた}新しい^{うた}いのちの歌^{つく}を作ろうと^{さいしょ}最初に^い言い出^だした方^{かた}。)

僕^{ぼく}はいつも夢^{ゆめ}を追^おかけて生^いきていますがその夢^{ゆめ}の中^{なか}でいちばん大^{おお}きなものが僕^{ぼく}たちがみんな理^り解^{かい}される世界^{せかい}だったので^{うた}よい歌^{うた}ができたと思^{おも}います。
いのちの弓^{ゆみ}のイメー^{ぼく}ジは僕^{ぼく}が小^{ちい}さい頃^{ころ}から大^{たい}切^{せつ}に
してきたものなのでみんな^{うた}で歌^{うた}ってくれるのがと
てもうれし^いいです。

^{あた}新^いしい命^{いのち}の世界^{せかい}は仰^{ぎやうてん}天^{てん}するよう^{せかい}な世界^{だれ}です。誰^{だれ}
ももう病^{びやうき}気^きになったりしな^{せかい}い世界^{ひと}ですが人^{ひと}はいつ
か悲^{かな}しい運^{うんめい}命^まが待^{まち}っているのですから、そこま^で
精^{せい}一^{いつぱい}杯^{ぱい}自分^{じぶん}らしくい^くることができ^る世界^{せかい}です。

^{あた}新^いしいいのちの世界^{せかい}で僕^{ぼく}はも^{っと}僕^{ぼく}らしく太^{たい}鼓^こ
をた^{たた}いて大^{おお}声^{こゑ}で歌^{うた}っていることだ^{らう}。ま^だま^だ
僕^{ぼく}の情^{じやうねん}念^{ねん}は閉^とざされ^たま^まになっ^ているから
それ^をを一生^{いっしょう}懸^{けん}命^{めい}形^{かたち}にしたいと思^{おも}います。

^{あた}新^いしいいのちの世界^{せかい}を僕^{ぼく}はいつか本^{ほん}当^{とう}に作^{つく}りた
いですが、この青^{せい}年^{ねん}学^{がく}級^{きゅう}ではもうその世界^{せかい}が実^{じつ}現^{げん}
しているの^で、これ^をを日^に本^{ほん}中^{じゅう}世^せ界^{かい}中^{じゅう}に広^{ひろ}げていき
ま^しょう。

矢^やが届^{とど}いた世界^{せかい}に、森^{もり}に種^{たね}をま^く。種^{たね}をま^いた森^{もり}が
また広^{ひろ}が^つてい^く。そ^{して}そ^の森^{もり}の中^{なか}にまた芽^めが
ふく^らんで育^{そだ}つてい^く。そ^こにまた動^{どう}物^{ぶつ}もた^くさ
ん集^{あつ}ま^つてき^て、アシ^あカと^かカモ^かメと^か。半^{はん}分^{ぶん}森^{もり}で
半^{はん}分^{ぶん}海^{うみ}で…

残^{ざん}念^{ねん}な^がら、新^{しん}型^{がた}コ^ロナウ^イル^スの感^{かん}染^{せん}の広^{ひろ}が
りのお^かげで、成^{せい}果^こ発^{はつ}表^{ひょう}会^{かい}は、中^{ちゅう}止^しとなっ^てしま
い^ましたの^で、歌^{うた}やメ^ッセ^ージ^ジを届^{とど}けること^はは
か^ない^ませ^んで^した^が、必^ひず、ま^たそ^の日^ひがや^っつ^て
く^ること^でし^{ょう}。

(2) ^たそ^かの^{つどう}他^たの^{かつどう}活^{かつ}動^{どう}

① ^{がっしょう}合^が唱^{しょう}

ま^ある^い夢^{ゆめ}コ^ース^スの活^{かつ}動^{どう}の^{たいてい}縦^{じゅう}系^{けい}にな^った^もの^は、
上^うに紹^{しょう}介^{かい}した歌^{うた}作^{さく}りの活^{かつ}動^{どう}で^した^が、活^{かつ}動^{どう}の^{たび}た^び
に^たく^さん^の歌^{うた}を^{うた}歌^{うた}っ^てき^まし^た。そ^の中^{なか}で、大^{たい}切^{せつ}
に^した^のは、昨^{さく}年^{ねん}、歌^{うた}楽^{がく}器^きコ^ース^スで^{つく}ら^れた「あ
り^がと^うの^{うた}」で^す。

こ^の歌^{うた}は、様^{さま}々^ざな^{にん}人^{にん}に^む向^むけ^たた^かつ^{どう}感^{かん}謝^{しゃ}の^{ことば}言^{こと}葉^はを^{みん}な^で
出^だし^あ合^あっ^て、手^て紙^{がみ}の^かた^ちに^まと^めた^もの^を
も^とに^{つく}ら^れた^{うた}歌^{うた}で、歌^{うた}う^たび^に、そ^の歌^{かし}詞^しの^ぶ分^{ぶん}
の^もと^にな^った^{メンバー}メン^{バー}の^{きもち}気^き持^もち^をも^う一^{いち}度^どみ^ん
な^で共^き有^{ゆう}し^まし^た。

こ^ゑえ^だを^だ出^だし^て歌^{うた}う^たこ^{じゆう}う^{じゆう}が^{じゆう}自^じ由^{ゆう}に^はで^きな^いメン^{バー}バ^ー
も^いま^すの^で、こ^うし^た内^{ない}容^{よう}の^{きゆうゆう}共^き有^{ゆう}は^いっ^そう
重^{じゆう}要^{よう}な^{じかん}時^じ間^{かん}と^なり^まし^た。

そ^{して}、合^{がっしゆく}宿^{しゆく}の^{キャンプ}キ^ャン^プフ^ァイ^ヤー^や、ク^リス^マス^会会^{かい}な^ど、コ^ース^スで^{はつひよう}発^{はつ}表^{ひょう}する^{きかい}機^き会^{かい}が^{かな}ら^ば、必^{かな}
ず^この^{うた}歌^{うた}を^{うた}歌^{うた}っ^てき^まし^た。今^{こん}年^{ねん}度^ど他^{ほか}の^{コース}コ^ース^スか^ら
移^{うつ}つ^てき^たメン^{バー}メン^{バー}に^も、そ^の歌^{かし}詞^しに^{こめ}ら^れ
た^{ひとりひとり}一^{ひと}人^{ひとり}の^{おも}思^しい^は、十^{じゆう}分^{ぶん}に^{きゆうゆう}共^き有^{ゆう}さ^れて^いき^ま
し^た。

② ^{ちようり}調^{ちよう}理^り

7月^{がつ}21日^{にち}、冷^ひや^し中^{ちゅう}華^わと^{つく}パン^{ぱん}ケ^けー^きを^つ作^{つく}り^まし^た。
歌^{うた}作^{さく}り^など^の活^{かつ}動^{どう}が^{はじ}始^{はじ}ま^ると、こ^うい^うゆ^った^り
と^した^{じかん}時^じ間^{かん}が^とれ^なく^なる^こと^を見^み越^こした^{はんちよう}班^{はん}長^{ちよう}
か^ら、こ^の時^じ期^きに^{ちようり}調^{ちよう}理^りを^{ていあん}や^らう^と提^{てい}案^{あん}が^あつ^てな
さ^れた^もの^です。調^{ちようり}理^りは、や^って^みな^いと^いっ^た

ひとりひとりがどんなことが得意であるかはなかなかわかりません。今回も、意外なメンバーが包丁さばきが得意だったり、新しいメンバーの顔が見えてきました。

かつて、こうした調理の活動は、自立生活と結びつけられて行われることが多かったのですが、グループホームなどでも、自分で調理をすることは少ないため、調理を生活の中に位置づけることの意味をまた、考えていかななくてはなりません。

合宿でも、朝食は自分たちで作りました。みんな調理する貴重な機会ですが、短い時間にあわたくしとやるので、担当者がみんなで作ることをしっかりと意識していないと、作ることに目をつけられて、全員をうまくまきこむことは、なかなかむずかしくなります。本年度も、担当者の方で、作ってしまう場面が多くなってしまいました。これには、一人一人が、調理の場面でどういうことに力を発揮するのかということができるだけ具体的に知っている必要があります。その意味では、7月に行った調理の経験がもう少し生かされればよかったと思われまふ。

③散歩

あえて記す活動とは言えないかもしれませんが、ふだん室内での活動が中心となっているこのコースで、11月17日に、芹が谷公園に出かけました。とりたてて、何かをしたわけではなく、休憩をはさみながら、ゆっくり時間をかけて、公園を歩いただけですが、速く歩く人とゆっくり歩く人が、時には長い列になったり、その列がまた縮まったりしながら、全体として一つの仲間の輪になっているということを、とても喜んでいたメンバーがいました。コースのメンバーの絆というものを感

じる時間になりました。

4. 課題と展望

歌作りを縦糸にして進んだ活動でしたが、完成したものが、一つの歌なので、まさにその歌が生まれてくるプロセスに意味があったと思います。毎回、たくさん話し合いを重ねて、時には、次へつなぐきっかけが見えなくなって悩んだりしつつも、様々な知恵を出し合うことによって、成果発表会に間に合うように、歌を完成させることができました。

こうした活動は、誰もが深い心の世界を持っていることが大前提で進められたもので、歌作りの経過は、そうした一人一人の心の世界と向かい合う場面をたくさん経たものでした。まだ経験年数の短いメンバーにとっては、これまで顧みられることが少なかった一人一人の心の世界を表現し、共有していく活動は、全く新しい体験でもありました。すでにこうした活動を重ねてきた経験の長いメンバーにとっても、まだまだ未開拓の領域で、このことをどのように発展させていくことができるのか、挑戦を重ねているところと言ってよいでしょう。

テーマについては、これまで出生前診断のことや津久井やまゆり園の事件のことなど、その都度の社会問題に向かい合った年度もありますし、一人一人の日常生活に向かい合った年度もありましたが、今年度の「新しい命の歌を作ろう」というのは、また、新しい取り組みでありました。抽象的なテーマとも言えたので、何度も先に進めなくなったりしましたが、その都度、新しい発想を出してくるメンバーが出てきて、先に進むことができました。

公民館学級
まあるいゆめコース
2019 年

新しいのちの歌

♩ = 98
4 Strgs
Clanger
Bm

A

F^m Bm C^{#m} Bm

あ た ら し い い の ち の ゆ み を

C^{#m} F^m Bm

ひ き し ぼ り み ん な で み ら い に

E7 A

や を は な て み ん な が は な っ た

F^m

A F^m D F^m

そ の や が い つ か ぼ く ら の み ら い を

E7 A

き り ひ ら く や が め ざ す

D

Bm D F^m

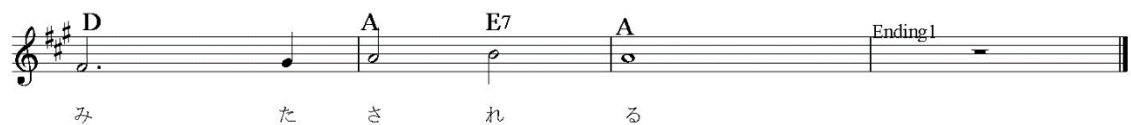
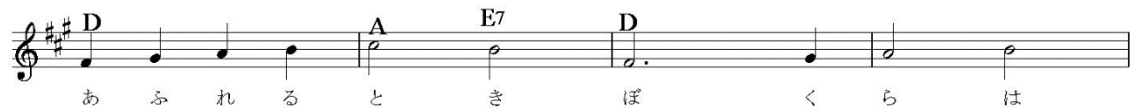
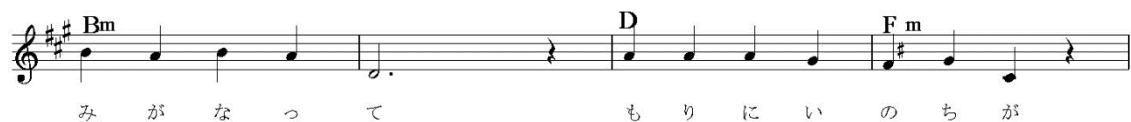
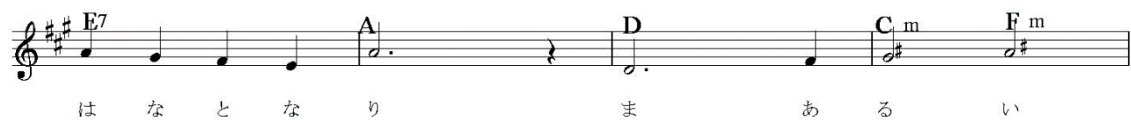
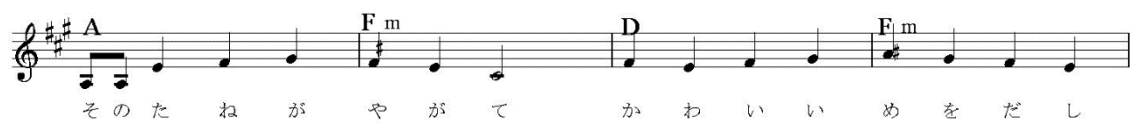
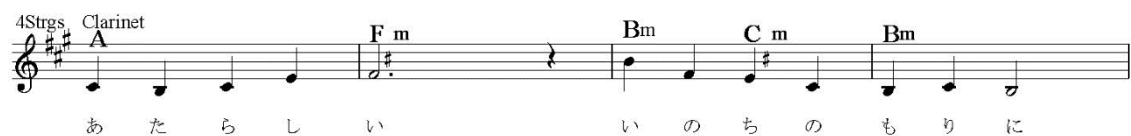
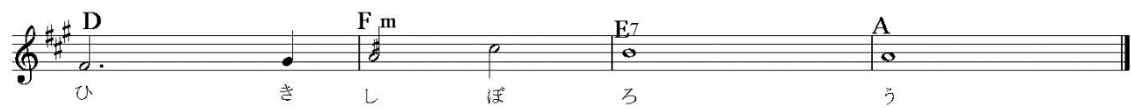
そ の さ き は あ た ら し い

D A E7 D

だ い ち だ か ら み ん な で

Bm E7

い の ち の ゆ み を



Ending1

こうみんかんがっきゅう
公民館学級 さくらコース

かつどう なが
活動の流れ

がつ か 6月2日	かいきゅうしき 開級式
がつ にち 6月16日	じ こしょうかい 自己紹介、コース名決め、役割決め、七夕飾りづくり
がつ か 7月7日	たなばたかざ 七夕飾りづくり、今年度取り組む内容の話し合い、風鈴づくりの材料買い出し
がつ にち 7月21日	ふうりん 風鈴づくり、エプロンづくり
がつ たち 9月1日	なつやす 夏休みの思い起こし、エプロンづくり、合宿について話し合い
がつ にち 9月15日	エプロンづくり、合宿について話し合い
がつ か 10月5日	がつしゆく にちめ か だ 合宿1日目：買い出し、公園でお昼ごはん、JAXA見学、ロケットスケッチ
がつ か 10月6日	がつしゆく か め 合宿2日目：サンドイッチづくり、境川源流散歩、絵を描く、今後の活動につ いて話し合い
がつ か 10月20日	がつしゆく おも お 合宿の思い起こし、モザイクアート試作、クリスマス会について話し合い
がつ にち 11月17日	まちカフェやクリスマス会について話し合い、ツリーづくりの材料買い出し
がつ たち 12月1日	まちカフェ参加（青年学級の発表、ワークショップでものづくり）、ツリーづく り
がつ にち 12月15日	ツリー準備、クリスマス会参加
がつ にち 1月19日	ねんまつねんし おも お 年末年始の思い起こし、モザイクアート原画作成
がつ か 2月2日	せい かはつびようかい 成果発表会について話し合い、モザイクアート制作
がつ にち 2月16日	モザイクアート制作、一年間の振り返り
がつ たち 3月1日	せい かはつびようかい しんがた 成果発表会（新型コロナウイルス感染拡大のため中止）

1. 集団の特徴

男性7名、女性1名の計8名で、その内昨年度からものづくりコース継続の青年は6名、新しく他コースから加わった青年は2名でした。ものづくりコース歴が長いベテランの青年が在籍し、ものづくりのアイデアが豊富に提案されました。

トイレや食事の介助を必要とする青年はいませんが、歩くペースやものづくりのペースはそれぞれ異なるため、互いのペースを考えて活動を行いました。

2. 活動のねらい

- ・仕事や日常生活での出来事や思いを共有し、創作活動へつなげる。
- ・個性を大切に、それぞれの表現方法を尊重する。
- ・一年を通じて仲間との創作活動を共有し、ものづくりの楽しさを共有する。

3. 活動の様子

(1) ものづくり

①活動内容決め

ベテランの青年を筆頭に、つくりたいものの希望や意見が当初からたくさん出ていました。そのため、一年間のコース活動で取り組めるものを初めにおおまかに考えてから、活動をスタートすることにしました。どんな方法で作成できるのか、材料費はどれくらいか、かかる時間や取り組む時期はどうかといった視点で話し合い、作成するものを決めました。実際に作ったものは下記の通りです。

②七夕飾りづくり・風鈴づくり

前期ではまず、作る季節のタイミングが良く、簡単な七夕飾りづくりや風鈴づくりに取り組むこ

とにしました。

七夕飾りづくりは、折り紙で作った輪をつなげたり、星を作ったり、短冊にお願いごとを書いて大きな笹に飾りました。「さくらコース仲良くしようね」と書いた青年もいて、とても良い雰囲気です。コース活動がスタートしました。

風鈴づくりは、身近で手に入りやすく、費用がかからないペットボトルで作ることにしました。ペットボトルを切って、中に鈴を入れ、ヒモや短冊を付けて、全体をデコレーションして完成です。鈴は音色にこだわって、100円ショップをはしごして、一番音色が涼やかで気に入ったものを選びました。デコレーションは、貝殻やシール、マジックで色を塗ったりして個性が出ていました。窓際にみんなが作った風鈴を飾ると、揺れて鳴り渡り、とても夏らしい空間になりました。

完成した風鈴は、「暑さをのりこえよう」ということで、各自自宅に持ち帰って夏休みを迎えました。



③エプロンづくり

活動当初、「オリジナルエプロンを作りたい」という案と「調理活動をしたい」という2つの案が出ていて、それを「作ったエプロンを着て調理活動」という一連の流れとして叶えられることから、この案は両方とも採用となりました。

提案した青年の希望は、エプロンを布から作る

のではなく、オリジナルの絵を描いたエプロンにしたいということだったため、エプロンは白い無地のものを100円ショップで買いました。

絵は、ただ描くだけでは味気ないので、「ステンシル」という方法でつけることにしました。ステンシルは、絵の型を作り、型の上から絵の具をつけたスポンジでポンポンと色をつけていく方法です。ハサミで型を切り取るのに苦戦しましたが、メンバーはエプロンが完成して「気に入ったものができて嬉しい」と話していました。その後の合宿で「エプロンを着て調理」を実現させました。



④好きな絵を描こう

コース結成当初から最も希望する青年が多かったのが、「JAXAへ外出してロケットの絵を描く」という案でした。大地沢合宿に向かう途中で立ち寄り、ロケットのスケッチをすることに決まりました。

JAXAの建物の中で宇宙に関する展示を見たり、用意されていたスタンプラリーで館内のスタンプを集め楽しみました。そして、建物の外には青空に映える巨大なロケットが2台！！

「大きい〜！」「かっこいい！」と盛り上がり、目的のスケッチを行いました。とても暑い日だったのですが、みんなスケッチに夢中で黙々とペンを動かしていました。

合宿の2日目は、「自由に絵を描く」という時間

にしていたので、スケッチをもとに、改めてロケットの絵を描きました。細かな部分は、JAXAで撮った写真を見ながら補完しました。カラフルな地球やJAXAの受付のお姉さん、宇宙飛行士、スタンプラリーにあった宇宙探査機の絵を描き足して、宇宙感を表現している青年もいました。どの絵も見ていてワクワクするような絵に仕上がりました。

自分が表現したいものを自由に描くことを目的にしていたので、ロケットの絵だけではなく、お母さんの絵や尊敬する仕事仲間の眼差しを描く青年もいました。その絵に込められた想いを筆談を通してじっくりと話をする中で、メンバー同士の理解が深まるきっかけとなりました。



⑤ワークショップで、ものづくり

町田市役所で行われた「まちカフェ」でも、ものづくりに参加しました。青年学級のPRが目的でしたが、せっかく来たのだからと、色々な団体のブースを見て回ることによって出会ったのが、ワークショップです。ちょうどクリスマスの時期だったため、「クラフト雪だるまづくり」と「スタンドグラス風オーナメントづくり」に参加しました。スタンドグラス風のオーナメントは、アルミホイルとクリアファイルを用いて、キラキラ感とガラスの透明感を表現していてとても参考になりました。青年の中でも当初スタンドグラスに取り組みたいと言っていた青年もいたた

め、おも^{おも}かたち^{かたち}で実現^{じつげん}することができました。他^た団体^{だんたい}の方に教^{おし}えてもらいながら作^{つく}るというのも、新鮮^{しんせん}で楽しい活動^{かつどう}となりました。



⑥クリスマスツリーづくり

当初^{とうしょ}は「段ボールで大きなものをつくる」という案^{あん}もありましたが、段ボールの組み立て^{くみたちて}や作成^{さくせい}時間^{じかん}をかんが^{かんが}えると、なかなか満足^{まんぞく}する完成度^{かんせいど}まで持^もっていくことが困難^{こんなん}であると分かりました。そこで話し合^{はな}い^あをした結果^{けっか}、「紙^{かみ}に貼^はり付^つける大きなツリー」を作^{つく}ることにしました。緑^{みどり}のモールをツリーに見^み立て、周^{まわ}りに飾^{かざ}りをつけました。もちろん、まちカフェで作^{つく}った雪^{ゆき}だるま^{だるま}とステンドグラス風^{ふう}オーナメントも添^そえて。

紙^{かみ}に貼^はったものなので、保管^{ほかん}もスペースをとらない点^{てん}が良かったのと、平面^{へいめん}なので飾^{かざ}りも簡単^{かんたん}にいろ^{いろ}んなものを貼^はって、豪華^{ごうか}なツリーに仕上^{しあ}げることができました。



⑦卵の殻でモザイクアート

年^{ねん}度^どの最後^{さいご}の作品^{さくひん}となったのが、モザイクアートです。モザイクアートは、当初^{とうしょ}からやりたいという案^{あん}が出ていて、全^{ぜん}員^{いん}で力^{ちから}を合^あわせて共^{きょう}作^{さく}できるものとして選^{えら}ばれました。何^{なに}を使^{つか}ってモザイクアートにするかは「ペットボトルのキャップ」や「ガラス片^{へん}」「貝^{かい}殻^{がら}」などの案^{あん}も出^でましたが、最終^{さいしゅう}的^{てき}には身^み近^{ぢか}で集^{あつ}めやすいものとして「卵^{たまご}の殻^{がら}」に決^{けつ}定^{てい}しました。

アートのテーマは、「宇宙^{うちゅう}」となりました。これは、「活動^{かつどう}で一番^{いちばん}印象^{いんしょう}深^{ふか}かった」とあげた青年^{せいねん}が多^{おほ}かった、JAXAで見たロケットのイメー^みジから決^きまったものです。宇宙^{うちゅう}の中^{なか}には、ロケットだけではなく、これまでの活動^{かつどう}で描^かいた、メンバー1人^りひとりの絵^えを入^いれることで、このさくらコースでの思^{おも}い出^でが詰^つまった作品^{さくひん}となりました。

原^{げん}画^がは、プロジェクターを使^{つか}って絵^えを大^{おお}きな画^が用^{よう}紙^しに投^{とう}影^{えい}し、なぞ^{なぞ}って作^{つく}りました。卵^{たまご}の殻^{がら}は割^わらずに大^{たい}量^{りょう}に集^{あつ}めておき、青^{あお}色^{いろ}の卵^{たまご}、黄^き色^{いろ}の卵^{たまご}、など色^{いろ}別^{べつ}に殻^{がら}を絵^えの具^ぐで塗^ぬりました。絵^えの具^ぐが乾^{かわ}いたら、殻^{がら}を貼^はりやすいように砕^{くだ}き、原^{げん}画^がの上^{うへ}にボンドで貼^はっていきます。ボンドが手^てにつくのが嫌^{いや}な青年^{せいねん}や細^こかい部分^{ぶぶん}を貼^はるときは、爪^{つま}楊^{よう}枝^じを使^{つか}って貼^はっていました。画^が用^{よう}紙^しは予^あめ4分^{ぶん}割^{かつ}にし、作^{さく}業^{ぎょう}をしやすくしました。

宇宙^{うちゅう}がテーマなので、背景^{はいけい}を全^{ぜん}部^ぶ青^{あお}色^{いろ}の殻^{がら}で貼^はっていくのは骨^{ほね}の折^おれる作^{さく}業^{ぎょう}でしたが、青年^{せいねん}の絵^えがピン^{ピン}クや黄^き色^{いろ}、赤^{あか}などカラフルな色^{いろ}味^みをた^たくさん使^{つか}っていたため、絵^えがとて^{とて}も映^{うつ}えて宇宙^{うちゅう}の楽^{たの}しさが表^{ひょう}現^{げん}されました。

(2) 仲間との活動

さくらコースでは、長期休みの過ごし方など、なるべく時間をとって、メンバーそれぞれの暮らしについて話を共有していました。筆談ができる担当者はいませんでしたが、場合によっては他コースの担当者の筆談を通じて話をして、仲間の思いを共有していました。

ただし、ものづくりの面では、前期では青年個人単位で作品づくりを行うことでそれぞれの想いをのせた作品をつくることができた一方、コース全体でのものづくりができていませんでした。活動のねらいとしても「仲間との創作活動を共有し、ものづくりの楽しさを共有する」ことがあったため、後期に入る前に「メンバー全員で、何か一緒に作ろう」という話となり、クリスマスツリーやモザイクアートに挑戦することにしました。

「Merry Christmas」の文字を金色の折り紙から切り取るという作業をした際はとても大変でしたが、「s がもうひとつ足りない!」「ぼくできます!」などの声の掛け合いをしながら、みんなで決めた目標をみんなでやり遂げ、「Merry Christmas」が揃ったときは、とても達成感がありました。

また、モザイクアートについても、手先の器用な青年は絵の細かい部分に殻を貼るのを率先して行ったり、殻を塗ったり広い場所にどんどん貼るのが得意な青年は青い卵をたくさん作って背景の部分みんなの分まで貼っていく、などそれぞれの力を発揮し、力を合わせることで、1つの作品を作り上げることができました。

「ちゃんとモザイクアートになってる!」と確認できたときの喜びはとても大きなものでした。



4. 課題と展望

一年を通じ、七夕飾りや風鈴づくり、クリスマスツリーづくりなど季節を感じながら創作活動を行うことができました。また、個人作品から全体での共作作品までものづくりを展開できたことは良かったのではないのでしょうか。

一方、「美術展に応募してみたい」という案が当初出ていたのですが、その時期に応募できるものがなかったため、そのまま一年が過ぎてしまったことは反省点です。今後もタイミングを見つけ応募を検討したり、成果発表会に限らない「作品の発表の場」を設けるなどを検討していくと、より発展的な活動ができるかもしれません。

また、「卵の殻でモザイクアート」については、これまであまり取り組まれていなかった素材だったため面白かったのですが、時間配分については課題も残りました。

本格的に取り組む前に、試作で小さなモザイクアートを全員体験して、「これならできそう」とイメージは持ててはいたのですが、実際に大きなモザイクアートに挑戦すると、かなり時間がかかることが分かりました。殻は碎くと形がバラバラになるので、細かい絵の部分の貼り付けは難易度が高かったです。改めて、新しい素材に取り組む際の計画的な時間配分や段取りの必要性を感じました。

じゃくさ
JAXAのロケット前まえで



たまごから
卵の殻でモザイクアート



こうみんかんがっきゅう
公民館学級 ハッピーハッピーくらしコース

かつどう なが
活動の流れ

がっ か 6月2日	かいきゅうしき 開級式
がっ にち 6月16日	コース編成の話し合い、自己紹介、今年度やりたい活動について話し合い
がっ か 7月7日	あさ朝のつどいでコースのPR、うどん作り・コース名についての話し合い
がっ にち 7月21日	せんきよ選挙について・コース名について話し合い、うどん作りの準備
がっ たち 9月1日	うどん作り（買い出し・道具準備・調理）
がっ にち 9月15日	うどん作りの振り返り、合宿・コース活動の進め方についての話し合い
がっ か 10月5日	がっしゅく にちめ 合宿1日目 こうふよう 発表の準備（内容・作文づくり）、キャンプファイヤー
がっ か 10月6日	がっしゅく か め ちょうしゅく 朝食（サンドイッチ）・昼食（うどん・焼きそば）作り
がっ か 10月20日	がっしゅく おち お たいふう かん 台風で感じたことについての話し合い
がっ にち 11月17日	こんご かつどう 今後の活動（コース活動・クリスマス会・まちカフェ）についての話し合い
がっ たち 12月1日	まちカフェでのステージ発表・見学、クリスマス会発表内容の検討
がっ にち 12月15日	クリスマス会のコース発表練習、クリスマス会
がっ にち 1月19日	クリスマス会の振り返り、入院した仲間のお見舞い
がっ か 2月2日	せい かはっぴようかい む かつどう ふ 発表会に向けて活動の振り返り
がっ にち 2月16日	せい かはっぴようかい はっぴようないよう はっぴよう しかた 発表会での発表内容・発表の仕方について話し合い
がっ たち 3月1日	せい かはっぴようかい しんがた 新型コロナウイルス感染拡大のため中止

1. ハッピーハッピーくらしコースの

特徴

今年度のくらしコースは、男性6名、女性1名の合計7名という、今年度のコースの中では最少人数で構成されました。前年度から引き続いてくらしコースに参加しているメンバーが5名、他コースからきたメンバーが2名おり、学級歴がいちばん浅く、最年少であるメンバーが班長を担っています。また、班長・副班長が他コースからきた2名であるということも新鮮さを作り出す要因となっています。

今年度やりたい活動については、

- ・調理活動(うどん作り、カツ丼)
- ・仕事について話したい
- ・みんなで一緒に面白い活動がしたい
- ・下水、ゴミ処理場の見学

等があがっていました。

2. 活動の様子

(1) 話し合いの進め方

言葉でのやりとり(意思表示)が可能なメンバーで構成されていましたが、発する言葉の深層部分や詳細な心情までは聞き取ることがなかなか難しいことも事実です。より深い意見や考えを述べるためにコミュニケーション手段(筆談)を用いての話し合いを希望するメンバーもいました。

「筆談を用いての意見や話し合いの進行についてどう思っているか聞いてみたい」と意見があがり、全員で確認・共有できたことが、後にでくる「愛のある活動」となった所以のひとつであると思います。

その時その時で言葉と筆談を使い分け、どんな

手段で想いや意見を伝えるか、自分で選択し話し合いは進められました。

(2) 選挙権の行使

7月21日の活動日と参議院議員通常選挙の投票日が重なり、投票日当日ということもあって関心も高く、話題にあがりました。

「今朝、学級に来る前に父と母と行ってきた」、「南センターに歩いて行って自分で書いて投票してきた(期日前投票)」、「グループホームの職員が連れていってくれた。家族会で母が行かせてほしいとお願ひしてくれた」等、コースのメンバー7名のうち、5名が投票を済ませていることがわかりました。まだ投票に行っていない2名は「僕はまだ選挙に行ったことがないのでうらやましい」、「私みたいに一人で字が書けない人はどうするのですか」と意見を投げかけ、すでに投票を済ませたメンバーが投票方法や投票所の雰囲気話を話しました。

—僕は目が見えないので、2名付いてくれ代理投票をした。

—一緒に行った職員に公約を読み上げてもらった。投票は口頭で候補者の名前を伝えてそれを書いてもらい、間違いがないかの確認をして投票した。

—投票を手伝ってくれる人には親切な人もいますが、良い顔をしない人もいます。一人はよかったけど、もう一人は嫌な雰囲気だった。

等々、投票所のリアルな雰囲気も話された。

未投票の二人からは、

—みなさんありがとうございます。僕の選挙権は僕のものなので、絶対に行きたいです。選挙は僕の未来の良いくらしにつながります。

—みんなでみんなのことを話せるのはとても嬉しい。
私も選挙に行きたい。お母さんに頼んでもらえますか。

と話があったので、家族と連絡を取り、迎えの際
投票券を持ってきてもらえるようお願いしました。

—良いことを言っている覚も多いけれど、大事な
のはそれを実行してくれるかどうか。良い未来
はみんなの幸せ。みんなの幸せはみんなの
笑顔。みんなの笑顔はみんなの繋がり。みんな
の繋がりにはみんなの未来。

という言葉が印象的で、自分たちの日々の生活に
直結してくるであろう選挙について、経験談をま
じえて話し合えたことはとても有意義であり、
生活に関して関心の高いくらしコースならではの
話し合いとなりました。

(3) うどんづくり

活動当初からやりたい活動として話がでてい
た調理活動は、「生地もつゆも一から作って、その
活動を通してどんな学びがあるのか興味がある」
というメンバーの意見にみな賛同し、「うどん作り」
をすることに決まりました。

生地作りから取り組むとなると準備にしっかり
時間をかけるべきとの意見もあがり、丁寧に時間
をかけて話し合いが行われました。うどん作りへ
の思いとして、

◆みんながわかりやすく、作業しやすい方法であ
ること

◆工程を分担せずにみんなが同じ体験をすること
があげられ、みんなで確認しました。うどんの作り
方については担当者が調べて書き出し、何人分作
るのか、材料や分量の検討、必要な道具の確認等

をみんなで行いました。また、温冷どちらにする
かやトッピングの希望も聞きました。別の日の
活動では、実際に調理活動を行う日の流れをみん
なで話し合い、

①朝のつどいにはいつも通り参加する。

②買い出しグループと道具準備グループの2つに
分かれて準備をする。

③ つゆは昆布とカツオから出汁をとる。

④うどん作り(生地とつゆ)は2〜3人のグループを
3つ作り、全員が同じ工程を体験できるように
する。

⑤トッピングはセルフサービス。自分で選べるよ
うにする。

ということが決まり、確認されました。

いよいよ、うどん作り当日。買い出しグループ、
道具準備グループともにリストアップされたメモ
を見ながらそれぞれ準備を進めました。

【はかる】



【まぜる】



【こねる】



【ふむ】



【のばす】



【きる】



といった工程を全員が体験し、うどんが完成しま
した。削り器を使って鰹節を削る体験もしました。
製麺機で切ったうどんと自分で切ったうどんの食

べ比べもでき、用意した材料はすべてキレイになりました。

うどん作りの振り返りでは、活動の時の写真を見ながら感じたことや感想を話しました。

—みんなで作って、楽しかった。鰹節を削るのは少しむずかしく、怖かったけど面白かった。

—みんなで一緒にできたのが何より嬉しかった。

みんなで作ったうどんはいちばんおいしく感じました。

—すごく楽しかった。以前作ったときは細麺にしたが、今回は太麺にしてみた。みんなで力を合わせることはとても良いことだと思う。

—みんなで作ったことはとても意味のあることだと思った。みんなで同じことをやって同じ経験ができたことは良いことだと思う。鰹節を削ったことは今までなかったのでもいい経験になった。つゆがこんな風に作られていることがわかってとても嬉しかった。

—今度はきつねうどんを作りたい。

—今までできないこととできることを分けて、できないことはやらずにできることだけをやってきた。周りの人からやらせてもらえなかったこともある。でもできないこともやってみると楽しいし、みんなと同じで嬉しい。

—今日感じたことや考えたことが、これからの活動や毎日の生活にすごく活かせる感じがします。

といった感想が話され、みんなで想いを共有することができました。

「もう一度うどん作りをやりたい!」という声が多く、うどん作りは合宿でも行われました。あるメンバーは「みんなで食べるものを作る経験

はとても嬉しいのでたくさんやりたい。自分たちの食事を作るのは良いらしにつながると思っている」と話していた。また、つゆを出汁から作ったことで、さまざまなものから出汁がとれることを知り、「自分たちでオリジナルの出汁をつくったら面白いのではないか」という声もあがりました。

(4) 仲間を想う活動

コースのメンバーであるSさんが年末に体調をくずし、リハビリのため入院することになりました。その話は年明けの活動で共有され、「みんなのことを考えるのがこのコースの役割」、「Sさんのためにどんなことができるか考えたい」とみんながそれぞれ意見をもち寄りました。

—ぼくが入院した時、本を読んでもらったことがある。本を差し入れしたらどうか。

—みんなでお見舞いにいけるとしたら、それが一番いい。お見舞いにいきたい。

—行きたいけど、簡単に行けるかはわからない。

病院の場所を調べると歩いていける距離であることが分かったので、面会時間や面会に際しての注意を担当者が読みあげ、みんなで確認しました。

みんなが出した答えは“行動あるのみ”。病院側の面会時のルールは守れるとみんなで判断しました。

—お見舞いの際、何を持っていくか、何を伝えたいか考えを聞かせてください。

—寄せ書きとか手紙。みんなのことを思い出せるように写真もあるといい。

—花やSさんの好きなもの。

—みんなで考えたものなら喜んでもらえるのではないかと愛がつまっている。

—“お見舞いで持っていくもの”で調べて、そこからみんなで決めていくのがいい。

担当者が検索しボードに書き出しましたが、これといったものがなかなか決まらず、

—何がいい、より、仲間のことを考える時間が大切。何に喜んでもらえるかということを考えることができてよかった。

—どれだけ愛をつめるかですね。

という意見があり、他コースにも協力を依頼し、写真とメッセージ入りの寄せ書き、花を持っていくことになりました。

お見舞いに行くベッドで横になっているSさんはとても驚いている様子でしたが、次第に表情もやわらかくなり、最後には笑顔も見られました。「リハビリがんばる」との力強い言葉も聞けたので、長居はせずに病院を後にしました。顔を見られたのは短い時間でしたが、仲間を大切に想う気持ちと応援する気持ちとでホクホクの帰り道でした。

お見舞いにいったことを活動ニュースに書いて報告したところ、それを読んだある人から「インフルエンザも流行るこの時期にお見舞いなんて…」と言われたとの話がありました。

—マスクや消毒など、きちんと対策をしたのにそんなことしか考えられないことに腹が立った。悔しかった。

—Sさんのことを大切に想っているぼくらだからできた行動。そんな風にしか考えられない人たちに分かってもらわなくてもいい。

—みんなのことを想っての行動を他の人にとやかく言われる筋合いはない！

ほかのメンバーからもこのような意見があり、自分たちの活動が理解されなかった悲しさではなく、つよい憤りを訴えたことに、仲間を想う気持ち、

自分たちの活動は自分たちで創っていくんだという強い信念を感じることができた出来事でした。

—ずっと一緒にやってきた仲間がいなくなったり、弱ったりすることはとてもつらいこと。みんなでみんなのことを考えてお見舞いにいったのはとてもよかった。

—Sさんのお見舞いについて、もし自分に何かがあった時もこんな風にぼくのことを考えてくれるのだろう、と感じることができた。

改めて、みんなで大切な仲間のお見舞いにいったことを振り返ることができました。

(5) 愛のある活動

「愛のある活動」とは、メンバーからでたこのコースの活動の総称です。合宿(キャンプファイヤー)でのコース発表内容をみんなで考えている中、コース活動の進め方について話が及びました。

先述したように、7名という小集団であるがゆえ、話し合いや意見の反映はより丁寧にできます。一人ひとり発言する時間も他メンバーの意見に耳を傾ける時間も他コースよりあるでしょう。筆談を用いて意見を伝えるメンバーもいるので、多少時間を要することも事実ですが、会の進行から活動内容の提案・検討、タイムスケジュールリング等々、活動の中心にいたのは常に自分たちであり、自分たちの活動を自分たちで創りあげたという確固たる自負が感じられました。

—のんびりしたこの活動がいいものだと思ひに伝えたい。このコースでやっている、みんなで話し合って色々な活動を決めていること。色々な意見が出されてもいい、ということと活動として取り組み、試みていること。愛のある活動

なので、このことを伝えていきたい。みんなのことを知りたいと思うし知ってほしいと思っているので、みんなで活動する意味、このことを伝えたい。このコースのやり方は自分に合っているが、他の人はどう思っているのかみんなです共有したい。

—たくさんの人がいる中でいろんな意見があると
思うので、その中の一つとしてこういったやり
方があるというのを知ってもらうのは良いこ
とではないかと思う。私のことを気にかけて
くれるし、みんなの意見を取り入れて考えて
くれるので、とてもいい活動ができている。
—このやり方の活動はとても合っている。筆談を
使うと話もできるし自分の意見も反映される
し、とても嬉しい。

—みんなにとっての良い活動とはどんなものなの
かを提唱したい。のんびりではあるけれど、
自分たちの活動を、時間をかけて良いものが生
まれるということを知ってほしい。

筆談を用いないメンバーも「(この進め方は)やり
やすいと思う」「いいと思う。反対はしない」と意見
が述べられました。

「時間がかかってもみんなの意見や意思を聞き、
それらについて議論し、自分たちの活動を決めて
いく…」当たり前なのですが容易くない、そう
いった活動を体験できた一年であったのだとす
ると、とても嬉しく感じます。

4. 課題と展望

活動日によっては「話し合うなら今でしょう！」
というホットな話題(世の中のこと・仲間のこと・
学級全体で検討すること等)に関して話し合いを

すすめることも多く、予定(検討)していた活動内容
で実施できないものもありました。台風のときに
感じた「何かあったときに自分にできることを増
やしたい」という想いを受けて提案されていた
簡単な調理活動(おにぎりや味噌汁)や、うどん作
りからの発展で意見があがった「オリジナル出汁
づくり」が実行できなかったことは心残りです。
今年度、構想はあったが実施できなかったいくつ
かの活動を引き継ぎ・共有し、次年度のくらしコ
ースの活動を決める際のヒントとなるよう提案を
していきたいと思います。

最後になりますが、行ってきた活動、話された
言葉のすべてを紹介できないのが心の底からも
どかしく感じています。限られた活動時間のなか
で、紹介した活動以外にもたくさんの話し合いが
され、たくさんの言葉が紡がれ、たくさんの想い
が共有されました。仕事のことやグループホーム
での話、家族が言っていたこと、最近あった嬉し
いこと等、近況報告という形で話され、そこか
ら議論になったりアドバイスをもらったり、みん
なが自分のこととして捉え、より良い生活を目指
していこうという姿勢が感じられました。自分の
気持ちを受けとめてくれる場所があるということ
は生きる活力にもなると思います。実際に家族や
周囲の人の自分への対応・見方が変わってきたと
感じているメンバーもいます。

青年学級での活動を通し、暮らしやすい世の中、
理解のある人々が少しずつでも広がっていくよう、
今後も発信を続けていきたいです。

こうみんかんがつきゅう
公民館学級 さくらんぼ スポーツ体づくりコース

かつどう なが
活動の流れ

6月2日	開級式 コース決め
6月16日	全体でコース決め コースで話し合い 境川沿いウォーキング 話し合い
7月7日	七夕短冊作成 話し合い
7月21日	ボッチャを試合形式で行う 芹ヶ谷公園ウォーキング コース名話し合い
9月1日	合宿話し合い 調理フルーツゼリー 合宿話し合い ボッチャ行う 合宿話し合い
9月15日	近況報告など話し合い 公民館周辺のエイサーを見る 合宿話し合い
10月5日	合宿1日目：多摩センター周辺公園のウォーキング 大地沢青少年センターにて合宿に参加
10月6日	合宿2日目：調理（朝食昼食）話し合い
10月20日	話し合い（合宿の思い出起こし センター祭で歌いたい歌を決める）図書館へ行き資料探し
11月17日	話し合い（クリスマス会参加について 町カフェ参加について 合宿調理活動での食材の栄養について）
12月1日	町カフェ参加 話し合い（町カフェ思い出起こしクリスマス会台本作り）
12月15日	クリスマス会めくりを作成 発表練習 クリスマス会参加 発表
1月19日	話し合い（役割の確認 正月休みの近況 健康のためにやっていること）
2月2日	節分豆まき ボッチャ DVD視聴 1年の思い出起こし、作文づくり
2月16日	成果発表会練習
3月1日	成果発表会（新型コロナウイルス感染拡大のため中止）



1. 集団の特徴

「身体を動かしたい」「どこかへ出かけたい」「健康になりたい」「スポーツをしたい」という20代男性4名、30～40代男女2名ずつの計8名が集まりました。1名の新入学級生を迎え、他コースからベテラン学級生1名が移動してきました。ほとんどの学級生は家庭で生活しています。

2. 活動のねらい

この2年間フットベースボールやボッチャで「東京都スポーツ大会で優勝したい!」「打倒ひかり学級!」と掲げてきた、スポーツへの強い要求はなく、「ボッチャしたい」「卓球したい」と意見は出ますが、「散歩したい」「健康な体を維持したい」と軸となるものが変化してきているのを感じました。そこで、学級生それぞれが、このコースで何をやりたいのかを明確にしていく必要がありました。2日目の活動日に、それぞれに、聞いたところ、班長となったベテラン学級生から「僕のお母さんは今でも元気ですが、僕もああやって元気に過ごしたいので、元気に過ごすには何をしたらいいのか、僕たちができることは、あまりないかもしれませんが、それでも少し考えてみたいと思います」という発言がありました。「散歩をして健康になりたい」とほぼ、他の学級生の要望を満たしていたのでこの言葉が大きな活動のねらいとなりました。

学習活動にて、自分を表現するのが苦手な学級生が多いので、活動時に、それぞれの得意なところを引き出せるよう支援し、自身の達成感から自信につながるよう、また、それを仲間同士が認めあえるような学級づくりを目指し、学級生

ひとりひとりの表現の仕方を尊重し、支援していく事をねらいとしていきました。

3. 活動の様子

(1) 話し合い

①コースの名前を考える話し合い

コース名として「スポーツコース」「スポーツダイエットコース」「散歩スポーツコース」「健康体づくり」「元気スポーツコース」など意見が出ていました。その話し合いの中、おもむろに起き上がり「さくらんぼ みつい整形外科」と発言した学級生の言葉に「さくらんぼ、かわいいね」と共感する発言も出て、「さくらんぼスポーツ体づくりコース」と全員の確認でコース名が決定されました。一見、仲間との話し合いの中に入っているのが、わかりづらい学級生のふとした発言に耳を傾けその言葉を取り入れていこうとする仲間意識の芽生えが見られました。

次の活動でデザートづくりを行い話し合いの後に冷蔵庫から出したゼリーのうにコース名のさくらんぼを飾って食べたことが、学級生達の活動の思い出のひとつとなりました。

②合宿へ向けての話し合い

10月初めに予定している合宿参加に向けてコース活動の話し合いを行いました。合宿を何度も経験している学級生達は、女性のベテラン学級生を中心に、皆さん積極的に話し合「外出したい」「2日目は弁当でなく、調理をしたい」とさらに雨天時の活動まで話し合っていました。調理活動では、メニューや、入れたい食材を皆で出していき、外出先も高尾山の山登りなど、今までの活動範囲の意見ではありますが積極的な

意見が出ました。学級生から出た食食材を入れながらも少し違ったメニューを担当者が提案しました。外出先も、10月の高尾山は混雑が予想されるので、いくつかの場所を下見し、地図やパンフレット、写真などを提示し皆で検討しました。そこで自然が多く、コースが新しさと昔の風情が残る変化に富んだ多摩丘陵に最終決定されました。

③正月明けのある日の話し合い

ベテランの女性学級生が、クリスマス会で他のコースメンバーとトラブルが起きました。年明けの学級日に、そのときの気持ちがフィードバックし、コース活動の室内に入れず、そのうち泣き出しました。何とか室内に入り、いつも通り出席係が名前を呼び、今日やることを確認しました。最初に、朝から感情の高ぶっている学級生の話を聞く事を入れてよいか、仲間に確認しどうして泣いているのかを言葉で話していくよう伝えました。他のメンバーはじっと話を聞き、「ぶたれた」というところで、その時そばにいた担当者が「ぶたれ方は、それほど強いものではな急だったからびっくりしたのかな」と様子を話しました。やり取りを聞いていたメンバーに、自分がやられたらどうだろうときいていくと「いやだ」「びっくりする」などの共感する意見が出ました。そういう時どうしたらよいかを投げかけていくと、ベテラン学級生が、「やめて！って言うんだよ！」と強い口調でたしなめるように言いました。日頃、コースをひっぱっていく積極的な学級生が見せた感情をあらわにした姿に驚いていた仲間ですが状況を聞いて、きっぱり促しをする学級生が出てきました。話し合いをしていくうちに、次第に

感情がおさまっていく姿をそばで見ているコースの皆の表情も和やかになっていきました。その後、泣いて感情をあらわにした学級生は何事もなかったように、コースの中で皆をリードし、新入学級生や仲間を思い配慮を行いながら成果発表会の準備を行っていました。

この話し合いは、次回学級日が、年をまたぐということもあり、事後、リアルタイムで行われなければいけない話し合いであったと後に担当者として反省するところです。

④学級まとめ時の話し合い

後期になり、担当者がHRさんの手を持って筆談を行いました。自分の思いがストレートに言葉となっていく実体験をしたHRさんは、その後からあふれんばかり、筆談での自分の思いをしゃべり始めました。「母への感謝の思い」「やまゆり園の事件への思い」「命の尊さ」「仲間への感謝の言葉」など、思いのたけを話しました。新入学級生も筆談で「楽しかった」と合宿での外出の思い出を語りました。他の学級生はコース活動の思い出を作文に書く、担当者と個別に振り返りをし、その時の学級生の感想の言葉を担当者が書き取るなど個別の様子に応じて、いろいろな支援の仕方で作文にし、その中の文章や言葉を成果発表会の台本に皆で確認しながら入れていきました。

(2) 調理活動

①デザートづくり

調理活動をしたいという要求はありましたが、学級生の要望があつてすぐ主食となる調理活動を行うと、完成することが目的となり自分からは活動に参加しないで終わってしまい、担当者のお

手伝いとなりがちです。学級生自らの活動として行えるよう、まずは簡単な手順のものを素材として調理活動を行いました。おりしも夏休み明けすぐに行く、合宿の話し合いの中、短時間で作れ、費用のかからないものということをご提案しました。学級生の作りたいメニューの中で、デザートづくりという要望がありましたので、何を作りたいのかを聞いていきました。「フルーチェ」「プリン」「ゼリー」「クリームブリュレ」と学級生から色々出しました。特に、聞きなれない「クリームブリュレ」というデザートをネットで調べ、皆で共有しました。結局ゼリーを作る事となり、ナシをピーラーで皮むき、包丁で切る、パイナップル缶の缶切り、輪切りパイナップルを包丁で切るなどを、3名ずつぐらいで、行いました。下ごしらえした後で、各自カップにフルーツを入れて、お玉で寒天を流し込み冷蔵庫に入れました。

手順を説明し、包丁使用をなるべく少なくし、安全に行えるようにしていき、それぞれの仕事を各自が担い、達成感を持てるようでした。食べる前にはコース名のさくらんぼを飾りました。

本格的に行く、合宿での調理活動に向けて、ピーラーや包丁使いなどの様子を見て、担当者がどのように支援していくかの確認を行うこともできました。

②合宿の朝食昼食づくり

「よく眠れた」と眠りの浅い学級生が一番に調理室に行き、トマトのヘタとりから調理活動が開始されました。手慣れたベテラン学級生が洗ったレタスを他のメンバーがちぎり、ゆで卵の殻むきを行い、その卵を、細かくつぶして味付けしました。学級の話し合いの中、集中が苦手な学級生

ですが、「ここは自分の出番」というように、フォークで卵を細かくつぶす、茹でたウインナーを煮立った鍋から集中して取り出すなど大活躍しました。ピーラーでリンゴの皮むき、パン、コーンスープ配りと全員参加で、朝食づくりをしました。食器を洗ったり拭いたり片付け、ベテラン学級生も張り切りました。ゆで卵が細かくて、味付けが良かった。暖かくゆでたウインナーがおいしかったという感想が多くあり、仲間の仕事を認めあう姿がありました。

手慣れた学級生がお米を量り水とぎし、水に浸している間に昼食の支度の食品を並べると、昼食の食品は25品もあり、秋の野菜たっぷりのメニューになりました。レタス、キノコ、こんにゃくをちぎり、消極的な学級生は、担当者に勧められ、「俺がやるのー？」と言いながらも包丁で注意深く大根、人参を切りました。又、自ら、下ごしらえから出たごみをせっせと袋に片づけるベテラン学級生の姿もありました。昼食づくりでも全員で調理し、キノコの炊き込みごはん、鮭と野菜たっぷり汁、蒸鳥とゴマだれサラダ（レタス、トマト、もやしの三杯酢）梨、柿と秋のフルーツを食べて皆さん大満足。片づけも下膳する人、洗う人、拭く人、片づける人と、皆で行いました。

（3）健康につながる活動

①試合形式でのボッチャを行う

コートを作るため、全員で室内のテーブル、イスを室外へ出し、学級生と担当者が、養生テープでコートのラインを引きました。久しぶりに行ったコート内でのボッチャでは、コート内にボールを投げるのが難しかったので、投げ方の

練習をし、経験のある青年は思い出したようでジャックボールに近づけるよう修正していきました。その後、2チームに分かれて、5回戦まで試合を行い次第に盛り上がりが見られました。

②ウォーキング 境川沿いをウォーキングする
コースに分かれて初めての活動でしたが、メンバーの歩行の様子を把握している担当者もいたので話し合いの合間に、近隣の川沿いの散歩を提案しました。新入学級生は初めての外出で緊張感がありましたが、担当者1名がゆったりとフォローしたので、仲間も新入学級生を気にかけながら、途中でゆっくり待つなど思いやりもあり、仲間と一緒に行動ができました。帰路、大輪のあじさいの花咲く前で、外出1回目の記念撮影を行いました。2回目は食後、話し合いの前に芹ヶ谷公園へ行き、1時間程のウォーキングを行いました。

緑がまぶしく、セミもなき、外出が大好きな学級生は、「いい気持ちだね」ベテラン学級生は、新入学級生の様子を見て「うれしそうだね」と担当者に話しかけに来ました。

話し合いの活動の間に近隣の公園などのウォーキングは、何回か行い、その後の話し合いにも集中でき良い効果がありました。



③合宿の1日目の活動

1名の欠席者がありましたが7名全員が時間前に余裕のある集合で出席者の意欲がうかがえます。

した。行き、座席に余裕のある各駅停車に乗り、新百合ヶ丘の乗り換えもスムーズで、多摩センターに予定どおりに着きました。はじめに、多摩市のグリーンライブセンターに寄りました。ちょうどハロウィンの飾りつけがされていて楽しい時をすごせました。美しい花園をまわり、梅の谷を登って、中央公園の裏に出ました。涼しい茅葺屋根の古民家を見学してから未来都市のような高架歩道を歩き、高層マンションの間の道から、いくつかの公園巡りをしました。残暑で熱中症予防の水分補給も常に行いました。歩道橋を渡って、芝の巨大な丘を3名の学級生は直登で一気に登りました。後続は、丘をぐるりとめぐる道を登りました。頂上では、丹沢山塊や箱根、奥多摩方面の山が見え、皆で眺めました。「富士山が見えなくて残念だね」と期待していた学級生はがっかりしていました。丘を一気に降りて、木陰の野外ステージでお弁当を食べ、一休み後、夜に行うキャンプファイヤーで発表するフォークダンスを練習しました。この日の秋空の気分を実感した皆からは「ピッカピカの心」「きれいな空」のリクエストがあり、みなで歌を歌って野外ライブを楽しみました。帰りはJR橋本経路由で予定どおりに、3時前には相原駅に到着。ものづくりコース、劇ミュージカルコースと一緒に、大地沢号に乗り、宿泊地の大地沢青少年センターに向かいました。

④クリスマス会発表

合宿の思い起こしでは、ハイキングや調理活動で満喫できた様子が語られました。特に調理活動では皆で朝食昼食合わせた食品を挙げてみると、40品目ほどの食品を上げました。それらの食品は体にとって、どんな栄養になっ

たのか図書館の本で調べるのはどうか提案してみました。3冊ほどの本を皆で探し、借りてきました。

それぞれの食品の中で、「ダイエットにいいんだね」「癌の予防になるんだ」など身近で聞いていることや、自身の健康のために気を付けていることなどが本に載っていると興味がいっぱいでした。

調べた食品の中から、選んで絵をかき、その栄養をクリスマス会で発表をしたいということでした。どういう形で発表したいかを相談、「お店屋さんのようにしたい」という意見が学級生から出たので、それぞれが食品を買いに行き、読み上げることが得意な学級生が、AI ロボット風に食品の栄養化を読み上げるという劇をおこないました。AI ロボットを受け持った学級生は、活動から離れることもなく舞台発表でも全員で行うことができました。

(4) 新入学級生と仲間づくり

今年度コースには新入学級生（20代の男性）が1名加わりました。学級活動の初期は、慣れずに緊張感がありましたが、夏休み後には良い表情で活動に参加するようになってきました。他のメンバーは新入生を気遣い、様子を担当者に伝えたり、笑顔を見ると、一緒に喜ぶ姿が見られました。ボッチャでは、自力でボールを投げることができずにいるNKさんにいつも応援を送っていました。そしてついに、NKさんはボッチャの最終活動で、自力でボールを投げることができました。自分の力で投げたあと本人も表情をゆるめ、皆が自分の事のように、NKさんの成長を実感しました。

担当者と筆談でのコミュニケーションを行い、NKさんがハイキングの感想の文章を作りました。

その文章を、女性のベテラン学級生が、成果発表で「NKさんの言葉を代読します」と変わって発表する予定でした。また、1年間、新入生の様子を見てきたベテラン学級生は、「NKさんと一緒にハイキングできたことが楽しかったです」と感想を書いた事を、発表する予定でしたが、成果発表会は、感染症予防のため中止になり、発表できず残念でした。

4. 課題と展望

今年のコースメンバーの活動の要望から、散歩やウォーキングなどの有酸素運動、ボッチャなど、練習や、ミニゲームなどのスポーツ活動は行ってきました。しかし、他の学級と勝負したいという要望はなく、スポーツで真剣に競い合うような活動は行えませんでした。唯一、後期に担当者からアキュラシーというニュースポーツを提案しました。しかし用具がなく、frisbeeを投げる活動だけでも思っていました。急きょホワイトボードを回転させ、ゴールを作り、4メートルのところからfrisbeeを投げ入れる活動を行いました。真剣に的を見定め投げ入れる姿に、個々の気力を身近に感じました。用具がなく代用品であっても、わかりやすいルールがあり、達成感のあるものであれば、夢中になって参加することで、学級生の気力を引き出し、意欲がわく活動になり、このような活動を継続することで、健康につながっていくものなのだとことを実感させられました。今後、活動の中で真剣に向かい合えるスポーツを学級生と一緒に創造し、楽しんで行っていき、健康につながる実践を目指していけたらと思います。

こうみんかんがつきゅう
公民館学級 ゆめのつづき（劇・ミュージカル）コース

かつどう なが
活動の流れ

がつ か 6月2日	かいきゅうしき 開級式
がつ にち 6月16日	じこしょうかい 自己紹介、コースを選んだ理由、やりたい活動、コース名について話し合い
がつ か 7月7日	かかりぎ たんざく 係決め、短冊づくり、昨年度の成果発表会の劇鑑賞、感想。
がつ にち 7月21日	さくねん げき えん 昨年 <small>の</small> 劇を演じる、感想。今後について話し合い
がつ たち 9月1日	なつやす おも で 夏休みの思い出、合宿の話し合い。短い劇づくり、撮影。歌。
がつ にち 9月15日	がつしゆく はな あ 合宿の話し合い（朝食、外出、コース発表の内容決め）、劇の練習
がつ か 10月5日	がつしゆく にちめ 合宿1日目：スワンカフェベーカリーで昼食、買い出し。劇の練習、発表。
がつ か 10月6日	がつしゆく か め 合宿2日目：朝食作り。初日の振り返り、成果発表会に向けて話し合い。
がつ か 10月20日	がつしゆく か かえ げき 合宿の振り返り、劇のテーマについて話し合い、歌
がつ にち 11月17日	げき 劇のストーリー、クリスマス会の話し合い、歌
がつ たち 12月1日	シナリオ固め、場面ごとにストーリーづくり、クリスマス会の話し合い
がつ にち 12月15日	コース発表の練習、クリスマス会
がつ にち 1月19日	しんねん ほうふ げき はいやく 新年の抱負。劇の配役、セリフ、ストーリーの話し合い、練習、歌。
がつ か 2月2日	げき 劇タイトル「やまゆりベーカリー」。練習、歌、話し合い。
がつ にち 2月16日	げき れんしゅう しんきよく 劇の練習、新曲づくり「世界の果てまで伝えよう」「そのままに」
がつ たち 3月1日	せい かはつびようかい しんがた 成果発表会（新型コロナウイルス感染拡大のため中止）

1. ゆめのつづきコースの特徴

男性7名、女性5名の合計12名で活動しました。
前年度から劇・ミュージカルコースの青年が名、
他コースから参加した青年が名でした。学級歴の
長い青年、20代の若手の青年がちょうど半数ずつ
で構成されていました。

活動については、劇でやまゆり園のことを取り
入れたいと当初から意見がありました。また、家族
や職場の仲間の大切さ、誕生日、生まれてくるこ
とについて話し合いが膨らみ、ストーリーが出来
上がりました。

2. 活動のねらい

- ・一年を通しオリジナルの劇を作り上げる
- ・話し合いを通し、お互いの意見を交わすことで
思いを共有する
- ・歌やダンスなどの様々な表現方法で他者に思
いを伝える
- ・仲間と共に身体を動かし、歌を歌う事で共感す
る楽しさを感じる
- ・歌やダンスを共にすることで、語り合うベース
を作り上げる

3. 活動の様子

(1) 昨年度のコース発表会の鑑賞

1年間の活動を話し合う中で、「昨年のコース
活動のつづきをつくりたい」「やまゆり園を劇で
扱いたい」と意見が出たため、まずは昨年度の劇
ミュージカルコースの成果発表会での劇を鑑賞
しました。昨年度の劇は、熊とやまゆりの花が出
てくるストーリーでやまゆり園の事件を扱って
いました。「歌も素敵だし、作文も大切ですが、僕

たちの身体ごと表現に繋がると思います」「劇に
ピアノで参加したい」「やまゆりの花が踏みしだか
れたことが事件の象徴として描かれていたが、
事件そのものを扱ってみたい」など様々な感想が
出ました。

ミュージカルで、動きやダンスを取り入れて
身体で表現したいとの意見が多くあがりました。
活動では話し合いと平行で、シーンごとに実際に
動きやセリフをつけ演じていきました。即興でセ
リフや振り付けを考えたり、短い劇をつくった
りと劇の幅が広がりました。

(2) 仲間の職場へ外出

10月の合宿ではコースの1人が働くスワン
カフェ&ベーカリーに寄り、朝食用に食パンの
購入、昼食も頂きました。合宿後には「仲間の
職場へ行き、雰囲気や温かさを感じました」「他
の職場にも行ってみたい」など感想が出ました。
その後職場の話題が多くあがり、一人の青年から
「怪我で来られない職場の仲間がいる」と話があ
りました。そこから仲間について、いのちについ
て話し合いを重ねていきました。

一度きりの外出でしたが、その後の話し合いの
テーマ、劇の舞台となる印象的な活動でした。



(3) 劇ミュージカルづくり

①ストーリーについて

合宿前は、やまゆり園の事件を直接扱いたい
との意見が出ていました。そこで合宿では、直接

描いた、刑事と犯人が出てくる短い劇を発表しました。その後の話し合いでは、「事件はひどく私たちを傷つけましたが決して負けない、豊かに生活を送っている事をしっかり伝えたい」「必ず幸せな生活を築く事ができる事を社会に伝えたい」「生まれてくる時の喜びに溢れた瞬間や、皆で喜び合う誕生日を描きたい」など意見が出ました。事件そのものは扱わず、仲間が生き生き働く姿、家族や仲間たちと楽しい時間を共に過ごす姿など、その後の力強く生きる姿を表現する方向になっていきました。『職場の仲間の大切さ』『生まれてくる喜び』『働くことの喜び』という大まかなテーマが決まってきました。そして一人の青年からストーリー案が出ました。

まず、やまゆり園が舞台の劇にします。でも事件は直接扱いません。私達が命を大切に暮らしている事を伝えます。そこは様々な仲間が集まっています。とても優しく平和な時間が過ぎていて、自由な会話をしている場所です。とても平和な場所ですが、ある日事件が起きます。事件は、けがか病気の仲間がいて、悲しみの感情を激しく揺さぶります。人の命が奪われないとしても不在になる事を恐ろしく感じます。私達の命が存在として違わないものだという事を伝えたいです。

この意見から「やまゆりベーカリー」というパン屋を舞台にした劇が生まれていきました。

ストーリーの構成はまず幾つか場面を決め、場面ごとにセリフや動きを考えました。「昨日までいた仲間が怪我で来られなくなる」シーンを入れることで、仲間の存在の大きさを際立たせるものとなりました。

②歌について

i) 世界の果てまで伝えよう

話し合いでは「誕生日や、生まれてくることの喜び」が一つのキーワードでした。それに対し一人の青年が書いた詩をもとにコースでことばを繋いで歌詞を考えました。メロディはもう一人の青年から提案がありました。

(MMさんの詩)

「私達は仲間から支えられ生きているし、支えて生きている。簡単にその関係性を壊してはいけない。笑顔や優しさで職員や家族を支えている人達もいる。悲しい時に傍にいてくれる人もいる。こうして大きな命の輪を作っている。柔らかで儚く見える命も大切な輪を構成している。近くの仲間だけでなく、遠い土地のまさに今、失われそうな命も私達を支える尊い命の繋がり。輝く大きさや色は違うけれど輝きを合わせて光をもっと届けましょう。世界の隅々まで。」

新曲『世界の果てまで伝えよう』

わたしのとなりの　ともだちも

これから出会う　ともだちも

伝え合う仲間が　いてほしい

未来に生まれる　仲間たち

支え支えられて　生きていく

希望のいのちが　生まれたよ

かがやく色は　ちがうけれど

いのちの光を　きらめかせ

世界の果てまで伝えよう

ii) そのままに

一人の青年から、コース活動とは別に、「青年学

級^{きゅう}で活動^{かつどう}している時^{とき}の気持ち^{きもち}を歌^{うた}にしたい」と話^{はなし}があり、劇中歌^{げきちゅうか}にもなりました。学級^{がくきゅう}がのんびりしたい時間^{じかん}であること、感じたこと^{かんじたこと}をそのま^ごま^まに伝え^{つた}られることが嬉しい気持ち^{うれいきもち}など、語尾^{ごび}に「そのままに」とフレーズ^{ふれーず}を付け、学級^{がくきゅう}や仲間^{ななかま}に対する思い^{おもひ}を歌詞^{かし}にしました。

新曲^{しんきょく}『そのままに』

1. 感じたことを そのままに
書いたことばを そのままに
みんなのことばを そのままに
楽しい時間を そのままに
伝えようよ 好きなことも
嫌なことも そのままに
みんなのことば いのちのことば
新たな気持ち そのままに
2. やりたいことを そのままに
いのちのことばを そのままに
みんなの気持ちを そのままに
のんびりな時間を そのままに
伝えようよ 嬉しい気持ち
悲しい気持ち そのままに
みんなのことば いのちのことば
あらたな気持ち そのままに
ゆめのつづきを これからもずっと
奏^{そう}でよう そのままに

4. 課題^{かだい}と展望^{てんぼう}

1年^{ねん}を通^{とお}し話し合^{はな}いと動き^{うご}き、両方^{りやうほう}重視^{じゅうし}し活動^{かつどう}を行いました。話^{はなし}に躓^{つまず}いたら出^でたところまで動^{うご}いてみることで、気分転換^{きぶんてんかん}にもなり、次の場面^{つぎ ばめん}が考^{かんが}えやすくなりました。言葉^{ことば}や音楽^{おんがく}の他^{ほか}に、身体全体^{からだぜんたい}

で表現^{ひょうげん}できるのがミュージカルの醍醐味^{だいごみ}でもあります。新型コロナウィルスの影響^{えいきょう}で未完^{みかん}の成果^{せいこ}発表会^{はつぱうかい}ですが、これを機^きに舞台全体^{ぶたいぜんたい}を使う表現^{ひょうげん}、伝わりやすい場面^{つた ばめん}の切り替え^{きりかえ}など、さらに試行^{しこう}を重ね^{かさ}ていけたらと思います。

また、仲間^{ななかま}の職場^{しよくば}へ出かけたことは重要な活動^{じゅうよう かつどう}となりました。外出後^{がいしゅつご}には仕事^{しごと}の話^わから、職場^{しよくば}の仲間^{ななかま}や家族^{かぞく}の大切^{たいせつ}さ、自分^{じぶん}や仲間^{ななかま}の誕生日^{たんじょうび}、生まれることについて意見^{いけん}が出され、話し合^{はな}いが膨らみ^{ふくら}みました。そこから劇^{げき}の舞台^{ぶたい}、演じるシーン、伝えたいことがまとまっていきました。学級活動^{がくきゅうかつどう}とは違う仲間^{ちが ななかま}の環境^{かんきよう}に見学^{けんがく}へ行くことでテーマが広が^{ひろ}っていったと感じました。ただし、他のメンバ^{ほか}ーの職場^{しよくば}へ行くなどもう少し外出^{がいしゅつ}があるとより意見^{いけん}が広が^{ひろ}ったかもしれません。

近年^{きんねん}、劇ミュージカルコースでは津久井やまゆり園^{えん}の事件^{じけん}をテーマに話し合^{はな}いが行^{おこな}われています。今年度^{こんねんど}は、話し合^{はな}いを進める中^{すす}で「豊かに生活^{ゆたかに せいかつ}を送^{おく}っていること、必ず幸^{かな}せな生活^{せいかつ}を築^{きず}けることを社会^{しゃかい}に伝えたい」という意見^{いけん}がありました。事件^{じけん}と言うと、悲しみや辛^{かな}さばかり表^{つら}に出^{おもて}がちですが、その背景^{はいけい}には強^{つよ}く生^いき抜^ぬく姿^{すがた}、仲間^{ななかま}と過^{すご}す楽しい時間^{たの じかん}など、いきいき輝^{かがや}く生活^{せいかつ}が必ずあ^{かな}ります。私達^{わしたち}が考^{かんが}えていくべきなのは忘れられ^{わす}がちな、後者^{こうしや}の方^{かた}なのかもしれません。今後^{こんご}も継続^{けいぞく}して話し合^{はな}っていけたらと思^{おも}います。



劇ミュージカル・台本

(新曲の楽譜は最終頁に記載)

「やまゆりベーカリー」

ナレーション

相模原市にある障がいがある仲間が利用する
津久井やまゆり園で、私達の生きる価値を認めな
い悲しい事件が起きました。19名の仲間のご冥福
をお祈りします。長い年月が流れて残された仲間
はとうとう、何でも話し合える職場”やまゆりベ
ーカリー”を開店しました。

～幕があがる～

朝礼

♪仕事のうた

仕事に出かけよう 仕事に出かけよう 電車に乗っ
て仕事に出かけよう 仕事に出かけよう
(カフェ、厨房で左右にはける)

店長「おはようございます。今日も1日頑張っ
ていきましょう。」

みんな「おおーっ！っ！！」

店長→みんな(復唱)

「いらっしやいませ！×2」

「ありがとうございました！×2」

「またのご来店をお待ちしております！×2」

店長「パン作り開始！」

(店員が前に出てくる)

♪パン作りのうた

生地をこねて1,2,3 卵を塗って4,5,6

オーブンで焼いて7,8,9 お店に並んで10

(店員のもも、上手から走ってくる)

もも「すみませーん。遅くなりましたあー。」

みんな「もー、遅いよー」

店員1「やまゆりベーカリー開店です！」

♪はくしゅ

こちらは やまゆりベーカリー

コーヒー出したり オーダとり

お客さんがいっぱいだと

頭がグルグル パニックになるよ

ぼくも パン焼きの仕事で1日立ちっぱなしさ

慣れればきつと 大丈夫さ

だけどもりはぜったい ダメダメダメよ

そんな時はお互いに力を合わせて頑張ろう

ここにすてきな仲間がいるから

はくしゅ はくしゅ はたらくことの喜びに

はくしゅ はくしゅ 共にはたらく仲間たちに

店員1「いらっしやいませ。(コップを2つ置く。)

ご注文は何にしますか?。」

客1「クリームパン2つとコーヒー2つ下さい。」

客2「メロンパンとコーヒー下さい。」

店員2「かしこまりました。ただいまお待ちしております。」

(なかなか注文が来ない)

客2「パンまだかなあ。遅いねえ。」

(ももが走ってくる)

もも「(客1に)お待たせしました。クリームパン
とコーヒーです！(コーヒーをこぼす)あ
っ！すいません！(客2の方へ)こちらは

メロンジュースとコーヒーです。」

客2「あれ、メロンジュースじゃなくて、メロンパンなんだけど。」

もも「すいません、すぐ作り直します」

客2「も一、ちゃんと注文聞いてよね！」

ももが悲しそうに厨房へ戻ると店長がいる

店長「ダメじゃないか、間違えたら。」

もも「すいません。次は気をつけます。」

それを見ていた仲間が駆け寄る

店員1「大丈夫？誰だって間違えるときはあるわ

よ、元気だして！」

もも「ありがとう。頑張るね！」

(舞台中央にむかって)

もも「優しくて、励ましてくれる仲間がいるから
仕事も頑張れる。ステキな仲間がいて、私
は幸せだなあ！」

店員1「明日はももさん、誕生日なんだから遅刻
しないでよね！」

店員2「気を付けて帰ってね！」

暗くなる～ブレーキ音～サイレン

店長「おはようございます」

みんな「おはようございます！あれ、ももさんは？」

店員3「大変、大変、大変、大変！」

みんな「どうしたの？」

店員3「ももさんが事故にあって、目が覚めない
の！」

みんな「ええっーーーー！！」

ナレーション

大事な人が、急に来られなくなってしまいました
……

～暗転(夕焼け系の色)～

みんなでももさんのことを考える

「ももさんはドジだけど、傍にいとホッとする」

「ももさん、悲しいときいつも隣にいてくれた」

「ももさんがいると元気がでる」

店長「やまゆりベーカリーは、誰か一人かけても
ダメなんだ！！」

ナレーション

やまゆりベーカリーの、のんびりとしたいい時間を
嬉しく思っています。感じたいいことをそのまま
伝えていいということが、どれほど嬉しいでし
ょうか。

♪「そのままに」

1. 感じたことを そのままに
書いたことばを そのままに
みんなの気持ちを そのままに
楽しい時間を そのままに
2. やりたいことを そのままに
いのちのことばを そのままに
みんなの気持ちを そのままに
のんびりな時間を そのままに
楽しい時間を そのままに そのままに

ナレーション

私たちの命の繋がりには世界の隅々まで広がって
います。命こそ世界を繋いでいきます。友達や、

未来に生まれる仲間たちに向けて、メッセージを
贈ります。

♪「世界の果てまで伝えよう」

わたしのとなりの　ともだちも
これから出会う　ともだちも
伝え合う仲間が　いてほしい
未来に生まれる　なかまたち
支え支えられて　生きていく
希望のいのちが　生まれたよ
かがやく色は　違うけれど
いのちの光を　きらめかせ
世界の果てまで　伝えよう

もも「おはようございます！遅れてすいませーん。」

(舞台中央へ走ってくる)

みんな「あれ！？ももさん！！」

店員1「怪我は大丈夫なの？！」

もも「もう大丈夫、ケガになんて負けないわ！」

みんな「良かったー、おかえり！」

店長「そういえば今日はももさんの誕生日ですね。

誕生日にみんなそろって良かった！みんな

なでお祝いしましょう！」

♪「今日はバースデー」

今日はともだちの　バースデー

わたしの　だいじなひと

まあいケーキを　食べよう

これからも　おしゃべりしよう

いつも心配してくれて　ありがとう

とてもやさしくて　感謝してます

あなたのおかげで　ここまでこれたから

これからもいっしょに　話したい

おめでとう　おめでとう　感謝をこめて

しあわせ　おくろう　ハッピーバースデー

ありがとう　ありがとう　支えてくれて

みんなで　うたおう　ハッピーバースデー

世界の果てまで伝えよう

ゆめのつづきコース
2019公劇ミュージー

Rhapsio Dm B⁺ Dm F

Dm B⁺ Dm Gm

F C7 B⁺ F

F B⁺ C7 F

B⁺ Am C7 F

F B⁺ C7 F

B⁺ Gm7 C7 F

Gm1 Am C7 F

B⁺ F C7

B⁺ Dm B⁺ F

B⁺ Dm B⁺ F

Clarinet Late C Em C G7

C G Am G Am

F Em Am G7

C Em F G7 C

F Em Dm G

F G Am G

G F C G C

そのまに

ゆめのつづきコース
2019公劇ミュージー

第2章 自治運営

1. 班長会

(1) 班長会の概要

班長会とは、学級全体に関わる行事や、運営に関わるさまざまなことを調整する組織です。学級活動終了後の4時過ぎから5時までの時間を使い、各コースの班長と副班長が集まり話し合いを行ってきました。

活動内容としては、各コースの活動報告、合宿やクリスマス会・成果発表会などの行事に向けた話し合いおよび実際の準備や運営を行ってきました。なお、行事に関しての話し合い・準備・運営は、つどい委員と合同で取り組みました。

(2) 班長会の様子

今年度は昨年に引き続き班長、副班長を務める青年が多い一方、初めて班長会に出る若手の青年もいました。

昨年度同様、会を進行する司会と班長会ノートの記入は持ちまわり制としました。その日、話し合った内容を班長会ノートに記録し、活動報告として「班長会ニュース」を書いて学級全体に向けて発信しました。

今年度は若手の青年や、班長会に長く関わる青年ひとりひとりの意見を出し合い、丁寧に話し合いを進めていきました。コース活動の報告の他に、学級をしばらく休んでいる青年の様子を気にする声もあがり、学級全体の様子を情報共有する時間が多くありました。

(3) 評価と課題

これまで同様、一年間継続して話し合いを進め

ることができました。各コースで出た意見について持ち寄り、検討をしました。班長会で決定した内容については、班長会メンバーからつどいの時間を使い全体に対して説明する、班長会ニュースに記載することで学級全体に発信しました。各コースの代表として集まり、意見の集約・決定・伝達をするという役割を務めることができました。

班長会ニュースは司会を務めたコースが班長会後に作成しています。話し合いで決まったこと、連絡事項など学級全体に共有する情報を発信することで、班長、副班長の役割を改めて確認できました。

行事の直前は話し合いが長引くこともありました。限られた時間で青年ひとりひとりの意見を聞き、進めるには事前の担当者の連携が大切です。この日は何をどこまで決めるか、司会や前回までの確認など、担当者間の事前確認があるとより円滑にコースを越えた話し合いがし易くなります。

また、担当者不足により、班長会に参加する担当者が流動的なコース、不在のコースも時々ありました。これに対し、予め青年とコース活動をメモにまとめておく、他のコースの担当者が聞き取るなどの対応を取りました。しかしより多くの担当者と連携するには、担当者会議で班長会の議題や、出席する担当者の確認などがが必要です。

担当者会議に参加できない担当者に向け、メッセージアプリのツールなどを活用し情報共有する、活動当日朝に最終確認をしていく必要もあります。

2. つどい委員会

(1) つどいとは

つどいはコース活動の前後で行われている活動です。ホールに青年が集い、学級ソングを歌います。また、コースからの連絡や応援者、見学者の方の紹介なども行われています。

(2) 運営体制と活動内容

今年度は、男性4名、女性1名の青年計5名で運営を行いました。長年、青年学級で活動する青年が多く集まっています。また、つどい委員担当の担当者も一緒に運営、活動しています。

活動内容は、つどいの司会進行、見学者、応援者の紹介、つどいで歌う学級ソングを決めています。また、帰りのつどいが終了した後に集まり、次回歌う学級ソングや司会する青年を決めて、「つどいニュース」を発行しています。

また、青年達の近況報告やコース活動の中で決めることについて話題の共有を行う大切な時間にもなっています。

(3) 今年度の活動の特徴

① 学級ソングリストを活用した話し合い

前期では、つどいで歌う学級ソングが重なっていることが多くなりました。そこで、あまり歌ったことのない学級ソングを歌うのはどうかと担当者から提案をし、後期では、学級ソングリストを作成して、たくさんの学級ソングを歌うことができました。また、季節ごとに七夕、クリスマス之歌も歌いました。

② 班長会に参加

つどい委員会の終了後、班長会に参加して、コ

ース活動で出た意見についての共有やクリスマス会などのイベントの運営、内容についても話し合いを行いました。

(4) 課題と展望

課題として、青年の送迎につどい委員の担当者が入り、朝のつどいでは青年と一緒に、つどいの運営が、難しい状況があります。このことから、担当者体制の見直しが必要です。

また、今後の見通しとして、課題や成果について前期、後期と分け、青年と担当者の間で共有することで、よりよい活動になるのではないかと思います。

第3章 考察

1. 2019年度のコース活動の取り組み

今年度の公民館学級は、「コンサートづくりコース」、「まあるいゆめ（歌楽器）コース」、「さくら（ものづくり）コース」、「ハッピーハッピーくらしコース」、「さくらんぼスポーツ体づくりコース」、「ゆめのつづき（劇・ミュージカル）コース」の6コースに分かれて活動しました。

これまで「コンサートづくりコース」と「歌楽器コース」は担当者体制が十分でないことにより、一つのコースとして活動することが多かったのですが、2018年度は今年の学級開始前の5月に開催された第19回の「若葉とそよ風のハーモニーコンサート（以下「わかそよ」）」開催に向けた準備を行うために、「コンサートづくりコース」が生まれ、6コース体制で活動しました。

このコンサートは、最近では隔年で実施され、これまで青年学級のメンバーや青年学級を卒業したメンバーが多く参加する「とびたつ会」が中心となって実行委員会形式をとって開催していました。昨年度の取り組みでは、日常に行われている社会教育の場での活動の成果をコンサートに結び付けられるように、「コンサートづくりコース」を設置して、準備を進めたものです。

さて、次年度にコンサートを控えていない今年度に「コンサートづくりコース」を設置するかどうかは、青年学級に参加する仲間が集まって語り合う「青年学級を語る会」で話されますが、発表の場を「わかそよ」に限定せずに、自分たちの思いを社会に対して積極的に発信していくことを意識してコースの継続が決まりました。

2. 思いを共有する場としての青年学級

青年学級では自治を大切にし、メンバーの話を聞き、メンバーの思いを尊重することが、当たり前のこととして活動を積み重ねてきました。筆談という手段を用いずとも、活動に取り組む基本的な姿勢は変化していません。

メンバーの言葉を、筆談を介して紡ぎ出す担当者が増えてきたことで、思いを聞くことができる人がいることにフォーカスされがちな状況から、自分の思いを語り、メンバーの思いを共有する場をメンバーと担当者、そして生涯学習センター職員が生み出し続けることの大切さに改めて焦点が移ってきた感があります。

今年度、ものづくりコースや健康コースなどのように筆談を多用しない活動であっても、大きな絵の取り組みや調理、ハイキングなど仲間が一つになれるような充実した活動が可能であったことがそれを示していると思います。

3. 各コースの活動の成果

「コンサートづくりコース」では、たくさんのテーマについて話し合いがなされましたが、特に集中的に話されたのは、「青年学級に来たくても来ることができない人がいる。青年学級のような場所があることを知らない人もたくさんいる。」ということでした。その話し合いは、口頭による話し合いのほか普段口で話すメンバーも筆談を使ったり、家で考えて書いてきた作文を読みあげたりすることもありました。

青年学級のような場所が必要だということをたくさん話し合った結果、「わたしのいい居場所」という歌が生まれ、町田市の市民協働フェスティ

バル「まちカフェ！」や東京町田サルビアロータリークラブ主催の「ふれあいコンサート」に参加し、発表することができました。

「まあるいゆめ（楽器）コース」では、2018年度に津久井やまゆり園事件をテーマにした劇づくりに中心となって取り組んだメンバーが参加し、話し合いをしながら、歌作りに取り組んできました。その結果、悲しい事件をもとにした昨年の歌とは違う純粋にいのちの輝きを歌う、「新しいいのちの歌」が完成しました。

この歌は、これまでの自分のこと、気持ちを表現することの喜びを話したメンバーがまとめた詩が中心となって肉付けされ、メロディーづくりもバトンをリレーするようにメンバーの中で膨らませて完成しました。また、ステージ発表のためにみんなで読み上げるためのメッセージも準備できました。

「さくら（ものづくり）コース」では、つくりたいものをメンバーから意見をきいて大まかに考えてから、方法や材料、必要な時間などを話し合いながら活動を行いました。七夕の飾りづくりや風鈴作りからスタートし、ステンシルで様々な模様を描いた自分のエプロンは、コース活動のユニフォームのようにメンバーがみな誇らしげに着ていました。作品作りには100円ショップで入手した材料が大活躍していました。また、合宿の時の外出でJAXAに行き、その時の思い出のロケットなどをそれぞれに描きました。

「まちカフェ！」のステンドグラス風オーナメントづくりのワークショップへの参加やクリスマスのツリーづくりなどを経て、最後には活動で一番印象深かったJAXAで見たロケットのイメ

ージから、「宇宙」をテーマにした大きな絵を卵の殻のモザイクアートで彩った大きな作品が完成しました。その作品には、宇宙に星が光り、大きなロケットと楽しそうな仲間の姿が描かれていました。

「ハッピーハッピーくらしコース」では、活動日と参議院議員選挙の投票日が重なったこともあり、選挙に行ったことがあるか、どうやって投票するのか、どんなふうに手伝ってもらうのかなどの話し合いからスタートしました。くらしのことを考えるコースなので調理も大切な活動の取り組みになります。鰹節を削ったり、小麦粉をこねたりするところから行う「うどんづくり」は、普段の生活が新しい角度から見ることができた楽しい活動になりました。

また、途中から長期入院してしまった仲間何ができるか考える中で、コース活動の意味を深く捉え直していきました。最終的には、みんなで撮った写真に他のコースを廻って集めたメッセージを添えて見舞いに行きました。

筆談も使用してメンバー間で様々なテーマで話し合いを持ち、取り組んでいった活動は、自分たちで「愛のある活動」として名付けました。このような活動の場が持てたことで、台風の大きな被害のニュースや自分たちの暮らしについても自信をもって話し合うことができて、家族や自分の周囲の人への見方が変わったと話すメンバーもいました。

「さくらんぼスポーツ体づくりコース」では、デザートづくりや合宿での調理活動、季節や美しい自然を感じられるウォーキングやハイキング、パラリンピックでも競技に採用されているボッチ

ャなどに^と取り^く組みました。

活動^{かつどう}の中^{なか}では、自分^{じぶん}のペースで参加^{さんか}するメンバーが活動^{かつどう}の中^{なか}で発^{はつ}する言葉^{ことば}を大切^{たいせつ}にして、コース名を決めたり、デザートづくりでは「クリームブリュレ」づくりを行^{おこな}ったりしました。また、メンバー間のトラブルをめぐ^{はな}る話し合^あいでは、感情^{かんじょう}が収まらないメンバーの言葉^{ことば}を丁寧^{ていねい}に聞^きくとともに、いつも穏やかなベテランのメンバーから強^{つよ}くしっかりと口調^{くちよう}のアドバイスをもらい、メンバー間の信頼関係^{しんらいかんけい}が深^{ふか}まりました。

また、活動^{かつどう}の後期^{こうき}の終盤^{しゅうばん}に近付^{ちかづ}いたところから、担当^{たんとう}者が筆談^{ひつだん}の支援^{しえん}に取り組^とむようになり、話し合^{はな}いのテーマが家族^{かぞく}や仲間^{なかま}への思い、いのちの間題^{もん}まで広がり、成果発表会^{けいこはつひょうかい}の台本作^{だいほんづく}りに結^{むす}び付きましました。

「ゆめのつづき（劇・ミュージカル）コース」では、どんなテーマでミュージカルを作^{つく}るかを話し合^{はな}い、最初^{さいしょ}に2018年度^{ねんど}の活動^{かつどう}で完成^{かんせい}した熊^{くま}とやまゆりの花^{はな}が登^{とう}場^{じよう}するミュージカル「踏みしだかれたやまゆり」のビデオを見ることからスタートしました。このミュージカルは「津久井やまゆり園^{えん}」の事件^{じけん}についてコースのメンバーで話し合^{はな}いを重ねて作^{つく}ったミュージカルです。

ミュージカル^{ミュージカル}のテーマをめぐ^{はな}る話し合^あいでは、事件^{じけん}のあつた津久井やまゆり園^{えん}を舞台^{ぶたい}にして、刑事^{けい}事^いが登^{とう}場^{じよう}して犯人^{はん}人を捕^{つか}まえることを劇^{げき}にしたいという意見^{いけん}が出^でました。

10月に実施^{がつ}された合宿^{じっし}ではムードメーカーの女性^{じょせい}のメンバーが働^{はたら}くパン屋^やさんにカフェが併設^{へいせつ}されたお店^{みせ}に行^いって食事^{しょくじ}をとり、夜のキャンプファイヤーではコース発表^{はつひよう}表^{ひょう}がされました。

一般就労^{いっぱんしゅうろう}をしてい^るリーダー格^{かく}の青年^{せいねん}が

刑事役^{けいじやく}として登^{とう}場^{じよう}し、不気味^{ぶきみ}な笑^{わら}い声^{こえ}で演^{えん}じる犯人^{はん}人を逮捕^{たいほ}し、怒^{いか}りと悔^{くや}しさがあふれるセリフをかた語り^{かた}、犯人^{はん}人の肩^{かた}を抱^だいて退場^{たいじよう}していきましました。最後に事件^{さいご}で亡^{じけん}くなられた仲間^{なかま}に届^{とど}くように「365歩^ほのマーチ」を歌^{うた}いました。

合宿^{がっしゅくご}後も筆談^{ひつだん}も交^{まじ}えて話し合^{はな}いを行^{おこな}いました。が、後期^{こうき}は青年学級^{せいねんがっきゅう}のような活動^{かつどう}を通して、事件^{じけん}に負^まけずに豊^{ゆた}かな人生^{じんせい}を築^{きず}いていること、しっかりと伝^{つた}えることを大切^{たいせつ}にしたいという意見^{いけん}が出^だされました。

合宿^{がっしゅく}で尋^{たず}ねたメンバーの職場^{しょくば}をイメージして事件^{じけん}から長^{なが}い時間^{じかん}が経過^{けいか}し、豊^{ゆた}かな人生^{じんせい}の拠点^{きょてん}となっている「ベーカリーやまゆり」を舞台^{ぶたい}に、かけがえのない仲間^{なかま}の大切^{たいせつ}さや命^{いのち}の輝^{かがや}きをテーマにしたミュージカル^{ミュージカル}のシナリオと2曲^{きよく}のオリジナルソング^{かんせい}が完成^{かんせい}しました。

なお、筆談^{ひつだん}で聞^きき取^とったメンバーの詩^しや話し合^{はな}いでの発言^{はつげん}が歌詞^{かし}になったり、ピアノ^{ピアノ}が得意^{とくい}なメンバーは作曲^{さつきよく}にも挑^{ちょう}戦^{せん}しました。

4. 社会^{しゃかい}への発信^{はつしん}を意識^{いしき}した活動^{かつどう}へ

今年度^{こんねんど}の活動^{かつどう}がスタートする直前^{ちよくぜん}に第19回^{だい}目^{かいめ}となるわかそよを開催^{かいさい}しました。そして青年学級^{せいねんがっきゅう}を語る会^{かた}では、コンサートコースの継続^{けいぞく}について話し合^{はな}われて、青年学級^{せいねんがっきゅう}以外^{いがい}の場^ばで青年学級^{せいねんがっきゅう}で生^うまれた歌^{うた}や、話^{はな}し合^あって生^うまれたメッセージを^{はつひよう}発表^{もくてき}することを目的^{もくてき}にしました。

わかそよがまだ回^{かい}を重ね^{かさ}ない時期^{じき}に、福祉関係^{ふくしかんけい}の雑誌^{ざっし}やラジオ局^{きよく}からの取材^{しゆざい}を受^うけるにあたつて話し合^{はな}いを行^{おこな}ったときに、「わかそよは自分^{じぶん}たちが作^{つく}ったからいいけれど、勝手^{かって}に取材^{しゆざい}されるのは嫌^{いや}だ」という強^{つよ}い意見^{いけん}がメンバーから出^だされま

した。

時間^{じかん}が経過^{けいこ}し、「とびたつ会^{かい}」が様々^{さまざま}な機会^{きかい}に歌^{うた}とメッセージを發表^{はつぴよう}していることに刺激^{しげき}を受け、第19回^{だい}を迎えたわかそよでの積み重ね^{つみかさ}を経て、障^{しょう}がいがあるメンバーの思い^{おも}を社会^{しゃかい}へ発信^{はつしん}することを意識^{いしき}したコースが生まれ、公民館^{こうみんかん}学級^{がくきゅう}全体^{ぜんたい}にその雰囲気^{ふんいき}が醸成^{じょうせい}されました。

これは、出生前^{しゅつせいぜん}診断^{しんだん}によるいのちの選別^{せんべつ}が広^{ひろ}がっていることや19名^{めい}の尊^{とうと}いいのちを奪^{うば}った津久井^{つく}やまゆり園^{えん}の事件^{じけん}について深く傷^{ふか}つけられた当^{きず}事者^{とう}としてたくさんの話し合^{はな}いを重ねてきたことと無関係^{むかんけい}ではありません。

また、社会^{しゃかい}に対しての発信^{たい}を意識^{はつしん}したときに、青年学級^{せいねんがくきゅう}から発信^{はつしん}しようとするメッセージは大^{おお}きく変わりました。沈痛^{ちんつう}な思いにかられ、悲惨^{ひさん}な事件^{じけん}のことを口^{くち}にするのもためらわれた中^{なか}で、必死^{ひつし}に社会^{しゃかい}や事件^{じけん}に向き合^{むあ}い、歌^{うた}やメッセージを届^{とど}けていった状^{じょう}況^{きよう}から、「純粋^{じゆんすい}にいのちの輝^{かが}きをうたにしたい」、「青年学級^{せいねんがくきゅう}の大切^{たいせつ}さを伝えたい^{つた}」というような思い^{おも}に昇華^{しょうか}しました。

第 3 部 ひかり学級

第 1 章 コース活動

ひかり学級 イートチョコパイ青空コース

活動の流れ

6月9日	開級式
6月23日	自己紹介、係・コース名決め、日帰り旅行話し合い、ボッチャ
7月7日	日帰り旅行話し合い、ボッチャ、七夕
7月21日	ミートソーススパゲッティとポテトサラダ作り、風船バレー、ボッチャ
9月8日	日帰り旅行話し合い、ペットボトルボーリング
9月22日	江ノ島日帰り旅行
10月13日	台風の影響で中止
11月3日	ゼリー作り、日帰り旅行振り返り、忠生公園へ外出
11月17日	クリスマス会話し合い、中庭でスポーツ
12月1日	クリスマス会話し合い、スエヒロ館で昼食、忠生公園へ外出
12月15日	ツリー作り、クリスマス会
1月12日	年末年始の振り返り、すごろく作り、淡島神社へ初詣
1月26日	お好み焼き作り、1年の振り返り、ペットボトルボーリング
2月9日	成果発表会話し合い、ボッチャ、バレンタインティータイム
2月23日	成果発表会の小道具作り、リハーサル、ボッチャ
3月8日	コロナウイルスの影響で中止

1. イートチョコパイ青空コースの特徴

男性 10 名、女性 5 名から構成されるコースです。料理とエクササイズに興味を持った青年が集まっており、「料理をしたい」「身体を動かしたい」「どこかへ出かけたい」「健康になりたい」といった意見が出ることが多いです。新入生が 1 人いましたが、学級歴が 20 年を超えている青年が多いためか、コース全体で目をかけたりサポートしたりする様子が見られました。

2. 活動のねらい

料理活動を通して集団活動の中でひとりひとりが役割分担をすることで、自立や責任感を持ち、社会性につなげていくことをねらいとしました。またスポーツ活動に関しては、外出や運動することに関心を持つこと、そして楽しさを知り積極的に参加することで、健康維持や体力増進への繋がりをねらいとしました。

3. 活動の様子

(1) スポーツ

① ボッチャ

やりたいという要望が 1 番多かったため初回から行いました。初めて行う青年もいましたが、ルールが分かりやすいものであることや、ボッチャの経験がある青年がリードして行っていたため、すぐ慣れることができました。ボールが小さく投げやすいので、普段スロープを使って投げる青年もしっかりつかんで投げています。

② ペットボトルボーリング

毎回候補には挙がるものの今年度はそこまで人気は高くなく、初ペットボトルボーリングは夏休み後となりました。個人によってボールの飛距離が変わってくるため、投げる位置を変えるなど工夫をしています。1 度に 1 球なのか 2 球なのかと、ルールの確認がその都度必要です。

③ 風船バレー

ボールの代わりに風船を使ってバレーを行います。

した。CDをかけながら行い、1 試合 1 曲終わるまでとしました。担当者も中に入り、あまり触れていない青年にパスを回すなど全員が参加できるようにしています。それでもスポーツが得意で積極的に動く青年のみで試合を進めてしまうこともあったため、同じ人が続けて触ってはいけない、全員椅子に座って行う、などといったルールを作る必要があります。



④ 中庭レク

中庭も使っていいということを知った担当者が提案し、中庭で活動をしました。活動内容はボッチャやペットボトルボーリングといった普段から行っているものばかりとなってしまいましたが、環境が少し変わるだけでいつもとは違った雰囲気となり、とても盛り上がりました。



(2) 創作活動

① 七夕

学級日が七夕当日だったため、短冊や七夕飾り

を作りました。短冊には仕事や日常生活での願い事など様々なことを書き、それを通じて個人個人の思いを知ることができました。七夕飾りははさみで切り込みを入れるだけの簡単なものだったためたくさん作ることができましたが、折り紙の色味が少なく単調になってしまったのが残念でした。

② ボーリングのピン作り

担当者の提案で1人1本ペットボトルボーリングのピンに絵を描きました。楽しそうに色を塗る青年もいたが全く興味を示さない青年もあり、活動に差ができてしまいました。しかし自分たちで作ったカラフルなピンでのボーリングはとても盛り上がりました。

③ クリスマスツリー作り

クリスマス会に向けて何がしたいかの話し合い時に多数の青年が提案、支持したため作成することになりました。11月の活動日には段ボールで作ることになっていましたが、他のコースと被ってしまうためペットボトルで作ることに変更しました。ペットボトルは1人1本ずつ絵を描いたり中に綿を詰めたりしてカラフルに仕上げ、それらを重ねてツリー状にしました。中にLEDライトを入れたことでキラキラ光り、明るいツリーが完成しました。また松ぼっくりでもツリーを作成、松ぼっくりにモールを巻き付けたり色を塗ったりしてツリーに見立てました。簡単な作業で可愛らしいツリーができたため、もっと作りたい、と意欲を見せる青年も多かったのですが、時間と材料と担当者の関係から応えることができず残念でした。

④ すごろく作り

新年の活動としてすごろくが多数決で選ばれ、せっかくなので自分たちで作ろうとなり作成しました。マスには1人ずつ今年の目標を書き、余ったマスに〇マス戻るなどのイベントを加えました。コマは小さく切った画用紙に絵と名前を書き使用しました。マスに書いた目標は「すごろくをがん

ばる」といった小さなものから「オリンピックに出る」といった大きなものまで様々でしたが、担当者が読み上げていくと「いいね!」「すごい!」などと声が上がり、新年らしい明るい活動となりました。ただ使用したさいころが紙で作った簡易的なものだったため、青年の握力や投げ方によってすぐ形が崩れてしまい、途中で作りなおすことになってしまったため、そこは工夫が必要だったと感じました。



(3) 料理活動

① ミートソーススパゲッティ、ポテトサラダ

1番要望があったのはそうめんだったのですが、より作りごたえのある2番目に多かったスパゲッティを作ろうということになり、多数決でミートソースに決まりました。ポテトサラダはある青年の強い要望により、全員の賛成を得たため作ることになりました。野菜を洗う、切る、フードプロセッサーにかける、炒めるなどたくさんの作業工程があったため、全員が何かしらの作業に関わることができました。しかし当日の担当者が少なかったこともあり、作業がスムーズに回せず手持無



沙汰になってしまうこともあったため、しっかりと料理活動を行うときは担当者体制の確認が必要であると感じました。



② ゼリー

桃とみかんでゼリーを作りました。1人ずつ自分の好きなようにカップにフルーツを入れました。「届かないから入れて」「次みかん貸して」など青年同士でコミュニケーションをとり助け合う様子がみられました。思ったよりたくさんの量ができたので、おかわりはほぼ全員がしました。外出後のおやつとしてちょうど良かったです。



③ お好み焼き

多数決により決定しました。大量のキャベツをフードプロセッサーにかけなくてはならなかったため、順番にほぼ全員がフードプロセッサーを使用しました。ホットプレートで生地をひっくり返す際はフライ返しを2本使い行いました。1度に焼ける数が限られてしまうため時間差ができ、出来立てのものを食べられない人が出てしまいました。しかしとてもおいしくできあがり、またやり

たいといった声が多く上がっていました。



(4) 日帰り旅行

台風が来ていたための天候の心配や集合が公民館だったためなどで5名が欠席、10名が参加しました。朝遅刻した青年がいたため、予定より1本後の電車に乗って出発しました。電車内では慣れている様子の青年が多く、持参した本を読んだり担当者と話をしたりしてのんびりと過ごしました。

江ノ島到着後すぐ昼食会場に向かいましたが、途中で車椅子を借りたり参道へ行ってしまふ青年がいたり到着まで時間がかかりました。昼食は江ノ島ならではの海鮮を使ったメニューを食べた青年が多く、全員が完食しました。

午後はまず参道へ行き、お土産を物色しました。イルカショーに間に合わせるため少しの時間のみでしたが、家族や自分用のお土産を買ったりアイスを食べたりと、思い思いに過ごしていました。江ノ島水族館ではまずイルカショーを見ました。人が多く1番後ろからの立ち見となってしまうましたが、各々場所を見つけ楽しんでいました。館内ではコースでまとまってではなく、歩くのが速い組、遅い組とばらけて回りました。

帰りは何事もなく町田まで到着しましたが、改札で青年を1人置いて行ってしまいました。無事に発見されましたが、要所要所での青年の確認をしっかりするべきであると感じました。



(5) 食事(外食)

近くにあるスエヒロ館で外食をしたい、という意見から実現しました。事前に担当者が電話予約をし、少し広めの他と仕切られているスペースで食事できました。メニューも事前に注文していたため、あまり待つことなくスムーズに食事をとることができました。ドリンクバーやパンの食べ放題を頼む青年もおり、ボリューム感のある食事になりました。この日も担当者が少なく、少しバタバタしてしまった部分もありましたが、そんな担当者を見かねてか青年同士でハンバーグを切り分けるなど、助け合う様子が見られました。ただ、子ども連れが多く多機能トイレがほぼずっと使用中の状態だったため、車椅子の青年のトイレ利用がなかなか困難でした。また、食後に薬を服用する青年の薬をカバンごとひかり療育園に忘れてきてしまう、ということがあったため、持ち物の確認は怠らないようにしないといけない、と感じました。



(6) クリスマス会

午前はクリスマスツリー作りを行いました。途中からお昼に食べるケーキを買いに、立候補した4人の青年と担当者ひとりが近くのケーキ屋さん

に向かいました。小さいケーキを人数分買いましたが、事前に担当者が予約をしていたためあまり時間をかけずに買うことができました。お昼ごはんはケンタッキーのフライドチキンとサンドイッチを食べました。普段小さく切り分けられない青年もチキンは切ってほしいという人が多く、切り分けに時間がかかったため、食べ始めるのが少し遅くなってしまった青年もいました。食後のケーキは事前に自分が選んだものと違うケーキを食べる人が続出しましたが、そのことに文句は一切出ず、全員おいしい！と完食しました。

午後のクリスマス会では、午前中に作ったクリスマスツリーを披露しました。ひとりずつ自分が作った松ぼっくりのツリーを手に持ち、合図で一斉に上に掲げました。真ん中にはペットボトルのツリーを置き、LEDライトを点灯させると他のコースの青年から綺麗！と声が上がりました。時間的にはとても短くあっという間に終わりましたが、自分たちで作ったツリーを披露でき褒められたことが嬉しく、満足そうな表情をしていたのが印象的でした。

(7) 係決め・コース名決め・話し合い

係決めは、班長と副班長はスムーズに決まったものの、その他の係はお弁当係に集中してしまう、ということが起きました。お弁当、という名前や前の人の発言に引っ張られてしまう青年が多かったため、改めてゆっくり係の説明をしたり、担当者が多少誘導したりして決定しました。

コース名はひとりずつコース名に入りたい言葉を挙げていき、その中から多数決で多かったものを組み合わせて決定しました。「りょうりアンドスポーツおまかせコース」や「メインディッシュエクスポコース」など最初からしっかりとコース名になっているものを挙げる青年もいれば、「トーマス」や「ボッチャ」など単語でコース名に入りたいものを挙げる青年もおり、たくさんの案ができました。多数決の結果「イート」と「チョコパイ」が多くを集めたため、「イートチョコパイコース」になろうとしましたが、ひとりの青年から、これ

だとスポーツの要素が無いからスポーツの意味として「青空」を入れたい、と提案があり、全員が賛成したため「イートチョコパイ青空コース」となりました。

話し合いの場では班長や副班長が中心となり、話を進めていきました。話がそれたり班長自身の意見の主張が強かったりするときは、冷静に周りを見ることができる青年がフォローに入っていることがありました。自分で意見を出すことが難しい青年は、他の青年が出した意見の中から選択する、という形をとりました。紙に選択肢を書き出しその中から指差しで選択したり、担当者が選択肢を読み上げる中で自分の意見のところで反応をしたりと、その青年に合ったやり方で意見を聞きました。

4. 課題と展望

今年度のスポーツコースはスポーツだけでなく、料理も全面に押し出したコース作りとなりました。これは、料理コースを作るとそこに人数が偏ってしまう、ということを考慮し、料理コースを謳うコースを複数作ったからなのですが、結果としてこのイートチョコパイ青空コースに人数が多く集まる、ということが起きました。人数の多さに対しての担当者の不足が目立ち、青年が希望する活動ができなかったことは反省点であり、担当者の体制を整えることは今後の課題であると言えます。またその料理活動に関して、毎年スポーツコースに入っている青年からは料理よりスポーツの案が出ることが多く、スポーツ活動に偏りがちになってしまいました。料理、と言うとお昼ごはんのようなしつかりとした料理メニューが挙がるが多く、時間や担当者の関係から希望に沿うものができないことがありましたが、おやつなどの簡単なものを担当者側から提案しても良かったのではないかと思います。料理活動がしくてこのコースを選んだ青年もいるため、活動がスポーツに偏りがちになってしまったことは反省すべき点です。

スポーツ活動に関しては前述の通り料理より多

く行ってきましたが、こちらにも偏りがあり、ボッチャやペットボトルボーリングなどよく挙がるスポーツを行いがちな傾向にありました。毎回盛り上がりはするもののやはりマンネリ化は否めないため、パラリンピックが近いのでできそうなパラスポーツに目を向け取り入れるなど、今後はレパトリーを増やす工夫が必要であると感じます。そんな中で今年度初めて行った中庭に出ての活動は、活動内容はいつもと同じものでも環境が変わるだけでとても新鮮な活動になったため、今後も行っていきたいです。中庭はひかり療育園内ですが外に出られるため、気分転換にも最適なのではないかと思いました。中庭ならではの活動を探し取り入れることは今後のスポーツコースにおいて新たな発展に繋がるのではないかと感じます。

ひかり学級 サルビアダンスコース

活動の流れ

6月9日	開級式・
6月23日	自己紹介・コース名決め・係決め・取り組みたいこと
7月7日	七夕飾り・七夕ゼリー作り・ダンス
7月21日	日帰り旅行についての話し合い・手作り楽器を鳴らしてダンス
9月8日	日帰り旅行についての話し合い・近況報告・バッヂ作り
9月22日	日帰り旅行
10月13日	台風13号接近のため中止
11月3日	話し合い（クリスマス会、近況報告）・新曲作り・楽器作り
11月17日	話し合い（クリスマス会）・新曲作り・JAまつりへ外出
12月1日	クリスマス会の話し合い・ディキディキダンスの練習、ダンスの衣裳作り
12月15日	クリスマス会・ケーキ作り・衣裳作り・ダンスの発表
1月12日	話し合い（近況報告）・どんど焼きに参加・お団子作り
1月26日	成果発表会の準備（ダンスのリズム、歌詞、録音）
2月9日	カレー作り・ダンスの練習・手形でサルビアの花を作る
2月23日	成果発表会の準備・成果発表会リハーサル
3月8日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

1. サルビアダンスコースの特徴

男性4名女性6名の計10名のメンバーで活動しました。車いすを利用している青年が6名でした。音楽に合わせて体を動かすのが好きな青年や、料理が好きな青年が集まりました。

2. 活動のねらい

- ①青年の個性を活かしたオリジナルの音楽やダンスを創る
- ②皆で一緒に美味しく食べられるように(嚥下に困難のある青年も一緒に食べられる)工夫した料理を作る
- ③季節のイベントに関連して、楽しさを増すように、手作りの作品を創り自己表現をする。作る楽しさを味わい、仲間と助け合い、集団意識を高める

3. 活動の様子

(1) 歌とダンス

毎回ダンスを楽しみに、CDを持参する青年がいたり、担当者からの呼びかけで好きなCDを持って来てもらい、バラエティーに富んだダンスを楽しむことができました。担当者の手作りの楽器をならしたり、車椅子をリズムに合わせて担当者が動かしたりして楽しみました。ある日、活動中に楽しい気分になった青年が振りの付いた歌を歌いだしました。「ディキディキディー」…担当者が調べても何の曲か分かりませんでした。とても楽しかったので、これを基にしてダンスの得意な青年の振りを入れ、七夕に書いた願い事を盛り込んだオリジナルの歌「ディキディキダンス」が出来ました。クリスマスバージョンの歌詞を創り、クリスマス会で披露しました。成果発表会バージョンの歌詞も作りましたが、発表会は中止となり、残念ながら披露できませんでした。

(2) 調理

七夕の日に、寒天に食紅を入れて、赤、青、黄、緑に着色し、星やハートの形を型ぬきしました。赤はハート、青は天の川、黄色は星、緑は笹です。色粉を入れた時に寒天液が変化する様子を楽しむ青年もいました。フルーツも飾り、豪華でおいし

い「天の川」が出来、七夕を楽しみました。

クリスマス会では、ロールケーキをタワー状に積み上げ、思い思いに生クリームを塗り、フルーツやチョコレート、旗を飾り、スタッフが想定していたのとは違ったダイナミックなクリスマスタワーケーキが出来上がりました。

1月の活動では新年会を兼ねて、おしるこを作りました。おしるこのお団子を一工夫しました。白玉粉にお豆腐を入れ、それをビニール袋に入れ、皆で順にギュギュウ押しして、お団子の種を作りました。お豆腐を混ぜることで、喉を詰まらせることなく、おいしく安心しておしるこをいただきました。

カレー作りは、担当者から肉団子にすれば、皆でおいしく食べられとの提案がありました。みんなで力をあわせて作った肉団子のカレーは、おいしく出来上がり材料費も安く出来上がりました。

その他、かき混ぜるだけで出来るフルーチェ等も楽しみました。

天の川ゼリー



楽しい調理活動



ダイナミックなクリスマスタワーケーキ



(3) もの作り

①七夕作り

模造紙に貼り絵のように、色画用紙やシールを貼り、それぞれの願い事を書いた短冊を貼り七夕飾りを作りました。短冊に書いた願い事は、ディキディキダンスの歌詞に挿入しました。

②バッジ作り

日帰り旅行に行くにあたって迷子にならないように、バッジを作りました。絵心のある青年は、舞妓さんの後姿を細かいビーズを貼って素敵なバッジを作りました。作業の苦手な青年は、色や飾りの好みを聞いて、担当者が手助けしながら、オリジナルバッジを作りました。日帰り旅行の日に、胸や肩に付けて出かけました。

③クリスマス会衣裳作り

白い大きなビニール袋を冠頭着にして、キラキラモールやリボンやマスキングテープ、シールを貼り飾りました。アニメ風の絵を書いた青年もいました。

④サルビアの貼り絵作り

青年が「友情を育みたい」と言ったことから、成果発表会に向けて、みんなで手形を取ってサルビアの花を作りました。このコースの名前は、町田市の花「サルビア」にちなんでいます。情熱と優しさをイメージして決めました。成果発表会に向けて、各自の手形を取りサルビアの花を作りました。2メートル×4メートルくらいの大きな画面に、それぞれの切り取った手形を並べて貼りつけ、サルビアの花に見立てました。サルビアの葉は、ハートの形をしているので優しさ友情を表現しました。緑の画用紙を切って、力をあわせて一生懸命糊を付け貼りつけていくと、見事なサルビアの花が出来上がりました。

迷子防止ワッペン



手形で作ったサルビア

七夕飾り



(4) 外出

①日帰り旅行

江ノ島水族館に行きました。七夕の短冊に「日帰り旅行がお天気になりますように」と短冊に書いた青年の願いが叶って、お天気に恵まれました。ロマンスカーに乗りたいと全員が希望して、行きはロマンスカーに乗りました。水族館では単独で行動できる青年は、応援の担当者について、いろいろな魚を楽しむことが出来ました。車いす利用の青年は、イルカ・アシカショーの見やすい場所を取り、みんなでアイスクリームを食べながら、たっぷりショーを楽しみました。

②JA まつりとどんど焼き

近隣地域の農協祭りに参加しました。30分程度の外出でしたが、室内活動が多いコースなので

気分転換になりました。ギターと歌のユニットで、ジャンベ(楽器)の演奏もあり、リズムに合わせて体を揺らして楽しみました。帰りに風船を貰ったり、担当者が買った焼き芋をみんなで食べ楽しいひと時を過ごしました。どんど焼きでは、隣の広場に作られた大きな木囲いの炎に圧倒されたり、ふるまいの豚汁や甘酒をいただきました。

日帰り旅行 新江ノ島水族館にて



(5) クリスマス会

午前中にダイナミックなタワーケーキを作り、午後の出し物に向けて、衣裳作りを頑張りました。ゲストのパワフルな踊りと音楽に、テンションが上がって車椅子から乗り出すように体を動かしていました。出し物では、作った衣装を着けてきちんと並んで、人間クリスマスツリーになる予定でしたが、気分の悪くなくなった人がいたり、うまく体制を作ることが出来ず、バラバラになり人間クリスマスツリーの形を表現することはできませんでしたが、オリジナルの「ディキディキダンス」クリスマスバージョンを披露し楽しいクリスマス会を過ごしました。

衣裳を付けて「ディキディキダンス」を披露



(6) 生活づくり

グループホームで生活している青年が多くなってきました。きちんと部屋を片付けることが出来る青年もいます。母の足が良くなりますようにと短冊に書いた家族への思いを伝える青年、昼夜逆転してしまう青年は、家族が青年学級を楽しめるように、日中起きられるように工夫をしてくださっています。平素は車で移動が中心になってしまいましたが、日帰り旅行で電車に乗ったことを家族がとても喜んで下さったり、豆腐入り白玉団を家で作ってみると言われたり、また、家で頑張っているリハビリをみんなに見せてくれたりする場面もありました。青年学級の活動と家庭やグループホームとの双方向のやり取りで、少しでも心豊かな生活につながればと、思います。

(7) 集団作り

同じ職場や、前年度同じコースだった青年がいて、コミュニケーションは、うまく取れていました。

年度始めお休みをされていて9月から参加した青年も、自然にコースに加わる事が出来ました。自らの発言が難しい青年は、お互いに笑顔で会話を楽しんでいる微笑ましい場面もありました。出席当番は特に希望が無かったので、順番制にしました。発語のできない青年は、全員で声をそろえて名前を呼びました。「かずき～、ち～え～、ま～き～」と親しく名前と呼んだり、個性を活かした出席コールで、活動を楽しく始めることが出来ました。

青年に新年の抱負を聞いた時、「友情を育みたい」という言葉が出て、サルビアの花作りや「ディキディキダンス」成果発表会バージョン歌にも取り入れました。仲良く心温かな集団作りが出来ました。

4、課題と展望

創作、調理、音楽ダンスと、変化に富み充実した活動ができたと思います。車いす利用の青年が多いので外出が難しいコースですが、ミニ外出ができて活動に変化を付けることが出来ました。

特に、青年の歌った歌から生まれた振り付きの

「ディキディキダンス」は、クリスマス会用や、成果発表会用(発表できませんでした)の歌詞も作り楽しむことが出来ました。

しかし、活動を展開するにあたって、安心、安全な活動をするのに、様々な工夫が必要でした。

日帰り旅行では、みんなの希望でロマンスカーを利用しましたが、たくさんの車椅子が乗れる車両はありません。車椅子に載せたたくさんの荷物や座布団などあり、電車の乗降が大変でした。1コースの車椅子利用者の人数調整が必要ではないかと思いました。

調理では、ペースト食や刻み食の青年も一緒にみんなで食べられるように、ふわふわ柔らかいもので、喉が詰まらない食材を基本にしました。創作活動では、手作業は苦手な青年も多く、素材を工夫しましたが、青年の好みを聞きつつ担当者が作るケースもありました。

活動の中で発言できる青年が少なく、青年の意思をくみ取るのがとても難しいことが多かったと思います。家族と青年の気持ちが一致しているとは限りませんが、好みを聞いたり、体調の変化や生活の様子を知るためにも、家族やグループホームとのコミュニケーションが大切です。

毎回、コース活動の絵入りレジメを作り、一日の流れが分かるようにしました。一日の流れの見通しを持つことは、青年の行動の安定につながると同時に、応援者、担当者にも有効でした。青年で文字の標記のできる人には、ホワイトボードにみんなの意見をまとめてもらいました。活動をどうすればよりわかり易くするかも、大切な課題と思います。

今後は、青年の加齢による機能低下が起こってくる可能性もあり、注意深く見守っていく必要があります。

今回、新型コロナウイルスの感染拡大で成果発表会が出来なくなりました。捲りやパンフレット、台本の読み合わせや、歌や踊りの練習もして、楽しみにしていたのに、大変残念でした。

来年度は、みんなの笑顔が集まる成果発表会が出来るようになることを、祈ります。

ディキディキダンス

歌詞 サルビアダンスコース

ディキディキディ ディキディキディ
ディキディキ ディキディキ ディキディキディ
ディキディキディ ディキディキディ
ディキディキ ディキディキ ディキディキディ
(2小節間 自由に踊る)

サルビアの赤い花 太陽の光浴びて
燃える思い輝く みんなの心も輝く
パワー完璧 準備オーケー
ワン ツー スリー フォー

ディキディキディ ディキディキディ
ディキディキ ディキディキ ディキディキディ
ディキディキディ ディキディキディ
ディキディキ ディキディキ ディキディキディ
(2小節間 自由に踊る)

短冊に書いた 私の願いが届くよに
夜空の星に届けよう
母の足が 良くなるように
お仕事しっかり がんばります
ロマンスカーで 江ノ島に行くよ
天気になるように

(クリスマスバージョン)
クリスマス クリスマス
ハッピーハッピー クリスマス
サンタさん トナカイさん
プレゼントもって やってくる
(くりかえす)

(成果発表会バージョン)
今日は 成果発表会
みんなで 友情育んだ
ダンスに料理 楽しんだ
サルビアダンスで がんばった

ディキディキダンス ササルビアダンス

28 Am Em F Dm G G7
わたしのねがいがかうよに よぞらの ほしにとどけよー

32 C G/D Am7/E Dm/F C/G G7
ははのあしがよくなるように おしごとしつかりが んばります

34 C/G G7 D/F# C
ロマン スカーで えのしまにいくよ てんきにー なるように

38 C6
クリスマスは クリスマス ハッピーハッピークリスマス
きょうに せいいり ばっ たの しん かい だ

40
サンタさん トナカイさん プレゼントもって 来てく
さるなで づん ぶる が ん ぼ た

4 C6
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ

6 Dsus4
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ

8 C Dm7 G7
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ

12 Am C7 F D7 D/F# G7
おサルビアの あかいはな たいようのひ
かりあびて もえるーおもいが やく みんなのころも かが やく

17 D7 G G7
パワー かんべき じゅん びおッー ケー せー のー ツー スー フォー

21 C6
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ

23 C6
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ

25 Gsus4 C G
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ
ディキディキディキディキディキディキディキディキディ

28 Am Em F Dm G G7
わたしのねがいがかうよに よぞらの ほしにとどけよー

32 C G/D Am7/E Dm/F C/G G7
ははのあしがよくなるように おしごとしつかりが んばります

34 C/G G7 D/F# C
ロマン スカーで えのしまにいくよ てんきにー なるように

38 C6
クリスマスは クリスマス ハッピーハッピークリスマス
きょうに せいいり ばっ たの しん かい だ

40
サンタさん トナカイさん プレゼントもって 来てく
さるなで づん ぶる が ん ぼ た

ひかり学級 GoGo みずいろスターズコース

活動の流れ

6月9日	開級式
6月23日	自己紹介・コース名決め・係決め・ハンドベル
7月7日	七夕飾り・新曲作り・ハンドベル
7月21日	大賀藕絲館蓮祭・鎌倉パスタ外食
9月8日	日帰り旅行についての話し合い・調理（サンドイッチとデザート作り）
9月22日	日帰り旅行
10月13日	台風13号接近のため中止
11月3日	話し合い（クリスマス会、近況報告）・新曲作り・楽器作り
11月17日	話し合い（クリスマス会）・新曲作り・JAまつりへ外出
12月1日	クリスマスケーキ作り
12月15日	クリスマス会・シュークリームツリー作り
1月12日	話し合い（近況報告）・どんど焼きへの参加
1月26日	成果発表会の準備
2月9日	成果発表会の準備
2月23日	成果発表会の練習
3月8日	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

1. 集団の特徴

男性9名、女性3名の計12名で活動を行いました。歌作りや楽器を弾くこと等の音楽活動に興味のある青年と、音楽以外の活動（外出、外食等）に興味のある青年が集まりました。

今年度から学級に仲間入りした青年以外は、学級歴20年以上と長く、青年同士の関係性も良好です。青年同士がお互い助け合う場面が多く見られるコースでした。

2. 活動のねらい

次の3つのねらいを掲げて一年間の活動に取り組んでいきました。

（1）音楽活動、創作活動を通して青年の得意なことや好きなことを活動に活かし、一人ひとりが輝く場面を作る。

（2）青年一人ひとりの思いを歌や作文等で表現する。

（3）活動を共有することや話し合いを通して、お互いに感じたことや思いを表出し、青年同士の仲間意識を深める。

3. 活動の様子

（1）音楽活動

①オリジナルソング作り

毎年、創作コースではオリジナルソングを作っていることから、複数の青年から「今年もオリジナルソングを作りたい」と要求がありました。

一人の青年が「菜の花を咲かせよう」という題名の詞を考え、開級式後の初めての活動日に、他の青年たちに披露したことをきっかけに歌作りが始まりました。

青年が書いた歌詞の持つイメージを大切にしながら、青年たちにどんな歌にしたいか、丁寧にヒアリングを行いました。青年からは、「明るい曲調がいい」「命の大切さを伝えたい」、「菜の花を大切にしたい気持ちを伝えたい」、という意見や、「みんな」や「あなた」というキーワードを歌詞に入りたいと様々な意見が話し合いで出されました。

また、作詞をした青年からは、「わかそよのときに、菜の花を手にとって歌いたい」のような先を見据えた考えも出されました。

こうした青年たちの意見を踏まえ、曲の歌詞やメロディーの修正を繰り返し行い、新曲「菜の花を咲かせよう」が完成しました。

（資料）青年が書いた歌詞

菜の花を咲いてほしい
菜の花を咲いてほしい

命を大切な菜の花を 咲かせよう
土の中に生まれてきたんだよ
楽しい音楽を聴いて喜んでいる

菜の花を咲いてほしい
菜の花を咲いてほしい

新しい花を生まれて響かせよう
菜の花を揺られて気持ちそうね
夢の中に出てきそうよ

菜の花を咲いてほしい
菜の花を咲いてほしい



②楽器作り

青年から「牛乳パックでリサイクルのコップを作りたい」と話があったことをきっかけに、リサイクル容器を使い、楽器を作ることになりました。ペットボトルを使ったマラカス楽器や牛乳パックと輪ゴムを使ったギターなどを制作しました。音を確認しながら素材をこだわって選ぶ青年、自身で作業を行うことは拒否したものの、かわりに作業を行った担当者に使うマスキングテープの色

の好き嫌いをしっかりと伝える青年、自分の楽器を作り終えた後に「今日休みの人の分も作る」と話し、作業に取り組む青年など、様々な青年の様子が見られました。

③楽器演奏

「ハンドベルをやりたい」という意見がいちばん多かったことから、一年間を通してハンドベルの演奏を行いました。

6月は「あめふり」や「キラキラ星」、7月は「七夕さま」、12月は「きよしこの夜」と季節に合わせた選曲をしました。

何度も繰り返し練習をし、音が揃ったときには青年たちが嬉しそうな表情を浮かべました。

クリスマス会当日にはコースで「きよしこの夜」の発表を行うこともできました。

2月以降の活動では、成果発表会に向けて新曲「菜の花を咲かせよう」の前奏に合わせてベルを鳴らす練習を行いました。

（2）調理活動

①サンドイッチとデザート作り

青年から提案のあったタマゴ、ベーコンチーズレタス、ツナ、フルーツを具材にしたサンドイッチを作りました。また、デザートにはオレンジゼリーと抹茶プリンを作りました。

ゆで卵をつぶす、ベーコンを焼く、レタスを洗ってちぎる、ツナ缶を開けてマヨネーズと混ぜるなどの作業を青年が分担して行いました。

デザート作りでは、いつも活動を引率する二人の青年が中心となって抹茶を作り、ゼラチンを入れ容器に流し入れる作業を行いました。オレンジゼリー作りの際には、他の青年たちもゼリー容器にみかんを入れる作業を手伝いました。

自宅では料理をすることがほとんどない青年も仲間と一緒に取り組むことで、積極的に行動し楽しんでいる姿が見られました。

②クリスマスケーキ作り

クリスマスケーキを作りたいと複数の青年たちから要求があり、フルーツタルトを作ることになりました。

当日はカスタードクリームを作る係とフルーツを準備する係に役割を分け、調理に取り組みました。車いすの青年が作業を行うときは、他の青年たちがサポートを行う姿がありました。

フルーツのカットは担当者がフォローに入りながら進めていきました。

家で調理を行っている青年は、苺のへたを器用に切り、準備を進めていました。

タルト生地にカスタードをのせ、フルーツを盛る作業は全員で行いました。

全員が食べ終わった後、お皿やフォークを下げ、担当者と一緒にコップとフォークを洗う青年もいました。



③シュークリームツリー作り

シュークリームでツリーを作るのはどうかと担当者から提案し、クリスマス会当日に作るようになりました。

市販のミニシュークリームを青年が順番に段になるよう重ねていき、隙間を生クリームで埋め、ハートのチョコレートなどで飾りをつけ、最後にサンタクロースをてっぺんに乗せ完成しました。

（3）創作活動

①七夕飾り作り

短冊に願い事を書きました。文字を書くことが難しい青年は、担当者が代筆を行いました。折り紙で七夕飾りも作り、大きな笹に飾りました。

自分の名前を書く青年や、夢を書く青年、同じコースの仲間が幸せであるように等、短冊に書いた願い事を通して、青年たちの思いをお互いを知る事ができた活動になりました。

(4) 外出とイベント

①大賀藕絲館蓮祭りと外食

一人の青年から「蓮祭りと鎌倉パスタに外食に行くのはどうか」と提案があり、行くことになりました。

この日、今年度から活動に参加した青年は、初めての外出だったため、班長の青年と手を繋ぎ一緒に歩いて移動をしました。

リーダーシップをとることが得意な青年は、移動の際にみんながついていけているか確認をし、ペースがゆっくりの青年に声を掛けながら移動していました。バス停から蓮田までの長距離を暑い中歩き、大変でしたが、きれいな蓮の花を見ることができました。そのあと昼食を食べながら、一日の感想を話しました。

②日帰り旅行（江ノ島水族館）

今年の日帰り旅行は、電車で江ノ島水族館へ行きました。

イルカのショーや魚との触れ合いコーナー、ウミガメやカピバラのエリア、潜水艦エリア、フウセンウオをはじめとするたくさんの魚をみてまわりました。魚との触れ合いコーナーでは、初めて触る海の生き物を怖がる青年もいれば、「気持ちいい！」と感触を楽しむ青年もいました。

帰りの電車で今日一日の出来事を振り返りました。水族館が楽しかったことはどの青年も共通していましたが、車いすの青年たちからは「電車に乗れたことがいちばん嬉しかった」と感想がでました。音楽が好きな青年からは「かわいいフウセンウオの歌をみんなで作りたい」と提案もありました。青年たちにとって良い思い出になった一日でした。



③JA まつり

活動日に近くで JA まつりが開催されていたため、見に行くことになりました。

特設ステージでは踊りや 1Zen という団体が発表を行っており、「一緒に踊りませんか？」と声を掛けられ、複数の青年がステージに出て、ソーラン節と一緒に踊ることになりました。

ステージに行かなかった青年は、踊る仲間へ歓声を送りながら、客席で楽しんでいました。また、自分の好きな曲が流れると楽しそうに踊る青年の姿もありました。発表が終わった後、客席で見ていた方に「上手だったよ」と声を掛けられる青年もいました。



④クリスマス会

毎年行っているビンゴ大会やプレゼント交換のほか、今年は踊りや 1Zen さんをゲストに呼び、クリスマス会が行われました。会場いっぱいのパフォーマンスに盛り上がりました。

コース発表では、ハンドベルで「きよしこの夜」を披露しました。ボッチャ対抗戦の際には、過去にスポーツコースを経験したことのある青年が積極的に動きました。ボッチャを初めて行った青年もおり、「とても楽しい」と感想を話していました。

⑤どんど焼き

年明けの活動では、ひかり療育園の近くで開催されていた、どんど焼きを見に行きました。燃え上がる炎を楽しそうに見ている青年や、じっと眺めている青年もいました。豚汁やお餅を食べることもでき、青年たちも「楽しかった」「炎が暖かった」と感想を話しました。

(5) 成果発表会の練習

成果発表会では新曲「菜の花を咲かせよう」の披露と一年間の活動報告、作文の発表を行うことになりました。

ハンドベルをやりたいという意見も青年から出されたため、「菜の花を咲かせよう」の前奏部分にハンドベルの演奏をつけることになりました。

また、複数の青年から「一年間の活動写真をスライドショーで流したい」、「模造紙に写真を貼って、来てくれたお客さんにみてもらいたい」などの提案があり、その作業にも取り組みました。

一年間の活動写真を、一枚の大きな模造紙に貼りつけ、スペースに感想やイラストなどを書き込んでいきました。作文を書いた青年らは「家族への想い」、「グループホームでの生活について」など、成果発表会で伝えたい自身の想いについて書きました。今年度から学級に入った青年は、写真を見ながら「蓮祭りと江ノ島に行けたことが楽しかった」と振り返り、「また来年もひかり学級に行きたい」と話しました。

成果発表会は昨今の情勢を鑑みて中止となってしまいましたが、最後の活動日に一年間を振り返ることができたことは、青年たちにとって良い思い出になったのではないのでしょうか。



4. 課題と展望

青年主体の活動にするために、担当者から次のような配慮を行いました。

(1) 青年同士の良い関係性を作っていくために、担当者から責任感の強い青年や、面倒見の良い青年に「〇〇さんに～を教えてね」のようにお願いをして任せる。

(2) 青年の発言や学級活動中での頑張り、青年

一人ひとりの良さを多面的に認める。

・言葉で自分の思いを伝えることが難しい青年の意見をとりあげ方の工夫をする。

(3) 発言が難しい青年へは提示する選択肢を増やし、より本人の思いを聞けるようにする。

(4) 自分以外の青年の発言や意見に、共感を示し、異なる意見を伝えることのできる話し合いの場を作り、お互いのことを認め合う環境を作る。

(5) 青年一人ひとりの個(好きなこと、苦手なこと)を理解し、活動内容に反映していく。

(6) 活動に参加することへの困難さを軽減するための支援や配慮を行う。(一日の活動内容の見通しを立てる等)

そのほかにも、送迎の際にその日の青年の頑張っていたことや楽しんでいた様子、気付きなどを写真や口頭で伝えるよう努めました。同時に、自宅やグループホームでの様子も伺いました。ひかり学級で過ごす様子と、家庭、職場、それぞれで違う一面があったことに新しく気付くことができました。

コースの中には言葉で自分の意見や気持ちを表出することが難しい青年がいます。

そのため、話し合いの際にはホワイトボードに選択肢を書き、指をさして選んでもらい、話し合いを進めていきました。

活動内容を決める際に、発言の多い青年だけの意見に偏らないようにすることと、一年間を通して全員のやりたいことが実現できるように、意見の取り上げ方の工夫も行いました。

話し合いや近況を話す場面では、「〇〇さんの意見いいですね」、「〇〇さんはこの話を聞いてどう思いましたか?」のように他の青年に投げかけるようにし、自分の話を聞いてもらうこと、相手の話を聞くことで仲間意識を深めていきました。

活動へ参加せず、一人で過ごすことが多い青年は、初めに一日の活動内容を伝えることで、自分の好きな活動のときにはみんなの元へ戻り、参加することができました。

課題として、担当者の体制不足が挙げられます。外出時の安全性の確保はもちろん、充実した活動を行うためには担当者の体制を整える必要があると感じます。

菜の花を咲かせよう

♩=100



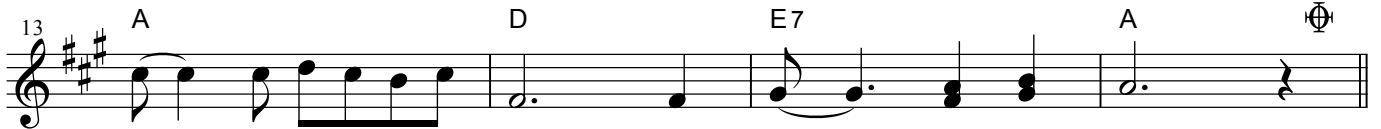
1. 菜 の は な を 咲 か せ よ う
2. 菜 の は な を
3. 菜 の は な を



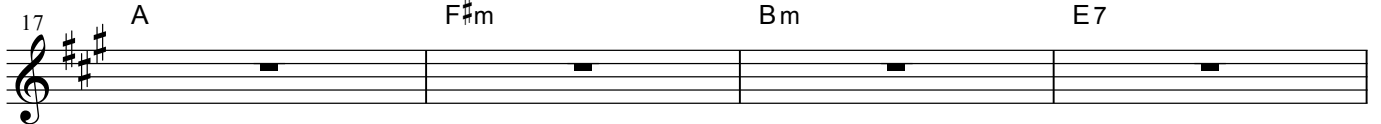
菜 の は な を 咲 か せ よ う 菜 の は な が さ



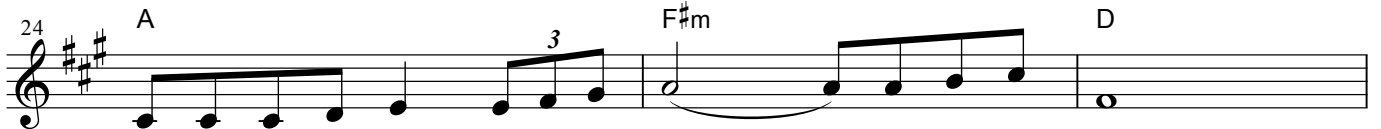
い た な ら き っ と わ た し の こ こ ろ に も
あ な た の



ち い さ い は な が 咲 く で し ょ う
ひ か り の は な が 咲 く で し ょ う
あ た ら し い う た が 生 ま れ る で し ょ う



つ ち に こ ぼ れ た ち い さ な た ね た の し い お ん が く
ゆ め を み な が ら な の は な は ー か ぜ に ゆ ら れ て



き き な が ら い の ち は よ ろ こ び に
き も ち よ く あ た ら し ー い は な を



ふ る え て い る
さ ー か せ た よ

ひかり学級 あじさいコース

活動の流れ

6 月 9 日	開級式、自己紹介
6 月 23 日	自己紹介、描画活動、係・コース名決め、話し合い（今後の活動、バスハイク）
7 月 7 日	話し合い（バスハイク）、七夕飾りづくり
7 月 21 日	冷やし中華づくり、話し合い（日帰り旅行等）、風船バレー&ボッチャ対決
9 月 8 日	カラオケ外出、近況報告（夏休みの話）
9 月 22 日	江の島日帰り旅行
11 月 3 日	話し合い（日帰り旅行思い起こし等）、描画活動（江の島の思い出）
11 月 17 日	話し合い（クリスマス会について）、忠生市民センターまつり見学
12 月 1 日	話し合い（クリスマス会等について）、クリスマスツリーづくり
12 月 15 日	ケーキづくり、クリスマス会
1 月 12 日	近況報告（年末年始）、餅つき・どんど焼き・初詣
1 月 26 日	ホットケーキづくり
2 月 9 日	横浜新聞博物館への外出
2 月 23 日	話し合い（横浜外出の思い起こし、成果発表会について）

1. あじさいコースの特徴

あじさいコースは料理や創作活動といった「ものづくり」の得意な青年が多く集まったコースで、男性9名、女性5名の合計14名で活動しました。

学級歴が20年以上ある比較的学級経験の長い青年が多かったことから、当初から仲間意識がある程度できあがっているコースでした。

2. 活動のねらい

あじさいコースでは、次のような3つのねらいを掲げて一年間の活動に取り組んでいきました。

- ① 料理や外出等の活動を通して、ものをつくる楽しさ、体を動かすことの楽しさを感じる。
- ② 共に活動をつくることで、思い出を共有し、仲間意識を深めていく。
- ③ 一人ひとり得意なことを生かし、みんなで一つのものをつくっていく。

3. 活動の様子と評価

(1) 素材について

①創作活動

i) 絵を描いて自己紹介

コースの自己紹介で今年どんなことをやりたいか話し合い、ものづくりや絵を描きたいといった希望を出した青年が多かったことから、担当者からの提案で自己紹介も兼ねて絵を描いてみました。

特にテーマを決めずに、一人ひとり好きなものを画用紙に描いていきましたが、描いた絵を通して青年の興味や関心をお互いに知ることができました。

手に障がいのある青年は自力で絵を描くことが難しく、本人の好きな事や活動でやりたいことなどを絵で表現することはできませんでしたが、今回の描画活動で、担当者の描いた動物にその青年が毛並みを描き足すことで作品を作ることにつながりました。

ii) 七夕飾りづくり

何人かの青年から七夕飾りづくりが提案され、7月の活動で七夕飾りをつくることになりました。青年一人ひとり折り紙で七夕飾りをつくった

り、短冊に願いごとを書いたりしていきました。ある青年は「グループホームに入れますように」、また別の青年は「より多くのことがしたい」「安心して安全していきたい」と願い事を短冊に書きました。

今回の活動で、コース全員で協力して七夕飾りという一つの作品を作るとともに、短冊づくりを通じて青年の思いを知ることができましたが、あまり時間がなく作った作品をみんなで丁寧に観賞するまでには至りませんでした。



iii) クリスマスツリーづくり

何人かの青年からクリスマスツリーづくりの提案があり、クリスマス会前の活動でクリスマスツリーをつくることになりました。当日は、段ボールと模造紙でツリーをつくる担当の青年と、折り紙等で飾りをつくるそれ以外の青年に分かれて活動に取り組みました。

ある青年は松ぼっくりを使って飾りをつくったり、外出好きの青年が広場で拾った小枝を使って星やドラえものの絵の飾りをつくったりするなど、一人ひとり個性を生かした飾りを作ることができました。また、モールづくりでは手に障がいのある青年がひもを引っ張り、担当者が折り紙を張り付け、別の青年が切り込みを入れる等協力して飾りを作る場面もありました。

短時間ではありましたが、みんなで協力して一つの作品をつくることができ、最後にクリスマスツリーを囲んでみんなで記念撮影をしました。



②料理活動

i) 冷やし中華づくり

青年からカレーライス等の料理をつくりたいといった意見が多く出されましたが、カレーライスの苦手な青年がいることがわかり、最終的に冷やし中華と杏仁豆腐をつくることになりました。

活動では調理をメインとするため、前回の活動で食材について話し合い、食材については事前に担当者が買っておくことになりました。

冷やし中華はゆでずに作れる流水麺を使いました。青年と担当者と一緒に協力しながら玉子をゆでたり、キュウリ、ハム、トマトなどを切ったりし、最後にもやしとわかめを盛りつけてつくっていききました。

料理の得意な青年も多く、また食材を切って盛りつけるという簡単な調理だったこともあり、ほとんどの青年が積極的に調理に関わることができました。また、青年二人で一緒にミニトマトのヘタをとったり、ある青年がゆで卵の皮をむいて、別の青年が二つに切ったりするなど青年どうし協力しながら調理することができました。



ii) クリスマスケーキづくり

クリスマス会の話し合いで多くの青年からクリスマス会の日にケーキをつくりたいとの意見が出され、取り組んでみました。ケーキのスポンジやクリームトッピングの食材を事前に担当者が用意し、当日はみんなでケーキの飾り付けをしていききました。

スポンジケーキの上にクリームを塗る、果物を切って飾る、チョコペンで飾り付けるというわかりやすい作業だったこともあり、みんなで協力して取り組むことができました。手を使っただけの作業が苦手な青年も、手にへらを持って担当者がケーキのスポンジ台を回すことで、ケーキ作りに参加することができました。また、あまり調理活動に参加したがない青年も、絵を描くことが好きなことから、チョコペンでデコレーションすることで活動に参加することができました。



iii) ホットケーキづくり

青年からホットケーキをつくりたいという提案がありみんなでつくることになりました。当日は午前中、全員で材料を確認してから近くのスーパーマーケットに食材の買い出しに行き、午後から調理に取り組みました。

ホットケーキは「ホットケーキの粉」を使い、生地づくりから、生地を焼くまで青年を中心に作っていききました。ある青年は、とても作るのを楽しみにしていたのか、誰よりも先にエプロンや三角巾を身に着けて活動が始まるのを待っていました。生地づくりでは卵を割ったり、牛乳を入れ混ぜたりするなど、青年どうし代わる代わる作る

ことができました。また、生地を焼きひっくり返す過程も青年全員で交代しながら焼きましたが、ひっくり返す過程が楽しかったのか、ある青年はフライ返しを持ってホットプレートの前で待機していて、交代するのが待ちきれない様子でした。最後の盛り付けには、蜂蜜、生クリーム、みかん、バターを用意し個々の好みに合った盛り付けを行いました。

材料のホットケーキミックスに牛乳と卵を混ぜ、ホットプレートの上で焼き、バターやはちみつ、クリームを塗るというシンプルな作業行程だったこともあり、ほぼ全員が作業に集中して参加することができました。2台のホットプレートを使いましたが、1台のホットプレートを数人の青年で囲んで焼くことで、互いに調理の様子を見ることにもつながりました。

③外出活動

i) カラオケ

何人かの青年からカラオケに行きたいとの提案があり、外出の好きな青年も多いことから、ひかり療育園近くのカラオケボックスに行って一人ひとり好きな曲を歌ってみました。曲については事前に担当者が家族等と連絡をとって確認しました。

あまり人前では歌わない青年もいましたが、ほとんどの青年が自分の番が回ってくると楽しそうに歌っていました。松任谷由実の曲を歌う青年や L' Arc~en~Ciel の曲を歌う青年など、一人ひとりの青年がどのような曲が好きなのかお互いに知ることができました。また、「となりのトトロ」のテーマ曲の「さんぽ」の曲や、「翼をください」、「サザエさん」、「大きな栗の木の下で」といったみんなが知っている曲については、リクエストした青年だけでなく、他の青年も一緒になって歌うことができました。

ii) 江の島日帰り旅行

例年行っているバスハイクに代り、ひかり学級全体で電車を使って江ノ島に日帰り旅行に出かけました。台風が近づいていたこともあり、当初の予定を変更して午前中、江ノ島のヨットハー

バーで昼食をとって周辺を散策した後、午後から、新江ノ島水族館を見学し、最後に湘南の海を見ながらみんなでお菓子を食べて帰ってきました。

ヨットハーバーでは一人ひとり事前に食べたものを確認して注文していましたが、窯が壊れていて、当日ピザが食べられなかった青年は少しがっかりした様子でした。

江ノ島水族館ではイルカショーを見学した後、ペンギンやクラゲ、大水槽の魚などを見ました。熱心に見学をする青年も多く、3連休の中日ということもあり観光客で混雑していたため、はぐれそうになってしまう場面も何度かありました。

久しぶりに電車に乗って興奮する青年や、昼食後の江の島の散策でニコニコしながら笑顔で歩く青年など外出の好きな青年にとって、とても印象に残る活動となりました。



iii) 忠生市民センターまつり

青年から外出したいといった意見が出されたことから担当者の提案で忠生市民センターまつりに行くことになりました。

当日はひかり療育園から歩いて忠生市民センターまで行き、ホールで沖縄のエイサーやフラダンスを見た後、各サークルの展示等を見学しました。ステージの踊りを楽しむ青年や、サークルが描いた絵の展示を熱心に見る青年、サークルが作ったフラワーボールやマグネットなどの買い物を楽しむ青年など、それぞれ興味のあるものを楽しんでいました。

iv) 餅つき・どんど焼き・初詣

青年からの提案で初詣に行くのにあわせて、たまひかり療育園隣の広場で開催されていた

地元自治会の餅つき大会とどんど焼きに参加しました。

餅つきではほとんどの男性陣が体験させてもらい、自治会のご厚意もあり、お餅を分けてもらって、みんなで食べることができました。どんど焼きは普段見ることのできない高い火に夢中になる青年が多くいました。ある青年は一年間の活動で一番印象に残っている活動がこの餅つきだと感想を述べていましたが、青年にとって印象に残るお正月らしいイベントとなりました。

初詣は近くの神社に出かけましたが、神社が改修中でスロープが使えず、車いすの青年を何人かの担当者で担いで階段を上ったり、車いすから降りて手すりにつかまりながら頑張って階段を上ったりする青年など、何人かの青年にとって移動が課題となる活動となってしまいました。

他のコースもたまたま一緒に初詣に出かけたため担当者が確保できたからよかったのですが、今後は事前に外出先を下見するとともに、外出時の担当者体制をしっかりと確保して外出する必要性を改めて感じる活動となりました。

v) 横浜・新聞博物館

青年から横浜の新聞博物館に行ったことがないから行ってみたいとの提案があり計画しました。

生涯学習センターに集合し、電車で町田駅から目的地の関内駅へ移動し、そこから徒歩で新聞博物館へ向かいました。新聞博物館では期間限定の写真の企画展示や、常設の「新聞」に関する展示や体験コーナーを回った後、新聞づくりを体験しました。展示では、熱心に見て回る青年と、早々に飽きてしまう青年に分かれてしまいましたが、新聞づくりではほとんどの青年が楽しそうにオリジナルの新聞づくりに取り組んでいました。また、新聞という形で手元に思い出が残ることにもつながりました。

新聞博物館を出て、JICA 横浜にあるポートテラスカフェで昼食を取りましたが、事前の予約ができず、みんなでまとまって座って食事することはできませんでした。今年度の活動で二度目の外食活動でしたが、多くの青年が楽しんで食事をと

っていました。

昼食後は桜木町駅まで歩いて移動しましたが、途中ランドマークタワーなど多くの観光名所を見ることができ、一人の青年は自分のカメラで熱心に写真を撮っていました。また帰りの桜木町駅では、職場やグループホーム、家族などにお土産を買う青年もいました。

今回の外出活動は、青年 1～2 名に対して担当者 1 名といった体制で移動をしましたが、関内駅に到着し改札を出た後、一人の青年と一時はぐれてしまうといったアクシデントもありました。車いすで移動する青年 2 名を含む 11 名の青年に対して、担当者 7 名という体制での外出は決して不可能ではありませんが、トイレや食事の介助などで担当者が席を外している間、担当者がフォローできない青年が出てきてしまうことなどから、担当者の人数にもう少し余裕があると、さらに活動が充実するのではないのでしょうか。



④その他

i) 風船バレー・ボッチャ対抗試合

冷やし中華づくりの後、時間があつたことから担当者の提案でイトチョコパイ青空コースと風船バレーボールとボッチャの対抗試合をすることになりました。

風船バレーボールでは青年が持ってきていた「となりのトトロ」の曲のCDをかけながらコース対抗で試合をしました。なるべく担当者がフォローしようとしたのですが、風船を積極的に追いかける青年とそうでない青年に分かれてしまい、なかなか風船に触ることのできない青年がでてしまいました。

またボッチャでは一人ずつボールを投げるこ

とで、青年一人ひとりにスポットがあたる活動をつくることができました。

（２）生活について

コースで近況報告や夏休み、お正月の話をする中で、仕事のことや家庭・グループホーム等での生活の様子のお話をすることが何度かありました。青年から職場の旅行で海外旅行に行ったことや、家族と旅行や夏祭りに出かけたことなど近況報告を聞くことができました。

また、職場での出来事を話題に青年どうしで会話をしたり、担当者も交え盛り上がる事もありました。その他、コース活動で作ったものを入居している施設で飾ってもらえた等、学級での活動の成果を発表できる場があることも近況報告等を通して知ることができました。

外出やおしゃべりがしたいと言って学級に参加している青年は、職場では工作中、私語を話すことができないなど、いろいろと制約があるようですが、学級では大きな声を出して担当者や他の青年と話をする等のびのびとしている様子が見られました。江の島の日帰り旅行では「大きな声でおしゃべりしてよかった」と話していました。

２～３人の小集団だと話ができて、大勢になるとなかなか話ができない青年もいます。そうした青年の思いをもう少し丁寧に聞いていって、活動につなげていくことができれば、また違った活動ができたかもしれません。

（３）表現活動

あじさいコースは料理や創作活動といった「ものづくり」が得意な青年が多く集まったコースで、話し合いの活動ではあまり積極的に発言しない青年も、描画の活動には集中して取り組み、個性的な作品を描いていました。また別の青年は、ドラえものの絵を書くことが好きで、画用紙とペンを用意すると、何枚でもドラえものの絵を描いていました。

反対に、描画等の表現活動にあまり積極的でない青年や、制作の意欲はあるものの想像したことを作品にすることが苦手な青年もいました。

料理の活動では、例えばクリスマスケーキの飾

りつけでは、「お菓子」や「果物」など、すでに形として出来上がっているものから「ケーキ」という作品を作っていきます。このことを参考にし、て描画活動を振り返ると、個人の力のみで白紙のゼロの状態から作品をつくるのが、いかに難しいことがわかります。

手先の作業が難しい青年や、絵を描くことに興味関心はあるが、何を描いていいかわからない青年も、今年度、担当者が協力して作業をすることによって一緒に創作活動を楽しむことができました。

今年度、外出やイベント後に絵を描いたりすることで、青年たちが楽しかったと感じた出来事を目に見える形で作品として残すことができました。また、年明けに横浜の新聞博物館に出かけ一人ひとりオリジナルの新聞を作りましたが、時間もなく、それ以上発展させることはできませんでした。

今後、外出後に描いた絵をつかって新聞をつくるといったことも活動として考えられます。新聞づくりの方法として、一人ひとりの新聞をつくる方法や、みんなで描いた絵を模造紙に貼って壁新聞のようにする方法などがあります。

外出後の活動で、絵を描くと同時に感想等も聞いていたので、新聞に絵だけでなく感想等も一言加えるようにすれば、より充実した新聞になると思われます。また、横浜の外出ではカメラを持って来て写真を撮っていた青年もいたので、そうして撮った写真を新聞に載せたり、パソコンを使える青年はパソコン等で文章を打って記事を書いて新聞に載せるなどすれば、今後より充実した活動になっていくのではないのでしょうか。



第2章 自治活動

1. 班長会

(1) 班長会とは

コース間の情報交換や情報交流をする場であり、またバスハイクや成果発表会、クリスマス会など学級全体に関わる議題について話し合う場として班長会が行われます。例年、午後1時から1時半まで行っていますが、外出等で複数コースが不在の場合は夕方に行うこともありました。

また、その日の班長会での出来事をまとめた班長会ニュースを持ち回りで執筆し、他の学級生への情報共有に努めました。各コースからは班長が、コースによっては副班長も参加し、班長会を進めていきました。

(2) 活動の流れ

6月23日

自己紹介、コース名の確認をしました。

7月7日

日帰り旅行の行先について話し合いました。

7月21日

日帰り旅行の行先について話しあい、水族館に行くことに決定しました。

9月8日

日帰り旅行のスケジュールについて確認しました。

9月22日

日帰り旅行のため班長会は休みでした。

10月13日

台風13号接近のため中止でした。

11月3日

今年度はクリスマス会か新年会かどちらをするのか話しあい、クリスマス会に決定しました。ゲストに誰を呼ぶか話し合いました。

11月17日

各コースから希望を募り、クリスマス会で歌う曲を決定しました。また、プレゼント交換を行うことに決定しました。ゲストも決定しました。

12月1日

クリスマス会の司会、初めのことば、終わりのことば、歌の順番を決定しました。

12月15日

午後のクリスマス会の流れの確認を行いました。

1月12日

クリスマス会の振り返り、成果発表会の招待状について（スケジュール、作成時期、宛先）話し合いました。

1月26日

成果発表会の発表の順番、コースの実施内容を確認しました。

2月9日

成果発表会の発表の順番、コースの実施内容を決定しました。

2月23日

成果発表会で歌う歌と、班長の役割分担を確認しました。

3月8日

成果発表会の予定でしたがコロナウイルスの影響で中止になりました。

(3) 課題と展望

司会はコースごとの輪番制としました。

積極的に発言する青年の意見が班長会の総意となるケースもありがちでしたが、成果発表会の発表順の決定などの際は、公平にジャンケンで決めるなどしました。

今年度は副班長も積極的に参加するコースもあり、活発な意見交換がされました。

昨年度に引き続き、毎回班長会を行い、細かな事でも情報共有に努めることができましたので、来年度においても継続します。

第3章 考察

1. 今年度の活動について

2019 年度は、「料理エクササイズ」、「ダンスミュージック」、「クリエイティブミュージック」、「ものづくり料理」の 4 コースに分かれて活動に取り組みました。

年間を通した継続的な活動となるテーマについては、4 月の「青年学級を語る会」での意見と事前アンケートにもとづいて編成しました。外出を希望する青年たちが半数以上に上がることを考慮し、各活動の中で、外出を取り入れての活動も視野に入れました。

昨年度と同様、今年度においても、ひかり学級では担当者不足等の理由から、4 コースで活動をおこないました。また、新しく 2 名の学級生を迎え入れました。新たな仲間を学級に迎えることにより、学級生の刺激となり、共助の部分をとおし、活動の幅を広げることができました。なお、担当者不足の状況は改善されておらず、今後も積極的な募集活動が必要になっています。

ここ数年、ひかり学級の秋の行事を合宿か日帰り旅行かのアンケートを取り決定しています。2013 年度からはバスハイクがアンケート、また、学級日での話し合いで優勢です。今年度も話し合いの結果日帰り旅行になりました。行先は江の島周辺となり、現地で名物のシラスを食べたり、水族館で生き物と接したり、江の島参道の散策でお土産を購入したりしました。終了後の感想では、「また来年も行きたい」や「お昼がおいしかった」などの意見がたくさん挙がり、とても好評でした。

しかし、近年合宿に行っていないこと、また、合宿に行きたいという意見もあることから、多数決だけで決定していくのではなく、少数意見にも耳を傾け、合宿と日帰り旅行を組み入れていくなどの工夫も必要になってきそうです。

2. 担当者の役割について

慢性的な担当者不足により、毎回土曜学級を中心とした他学級の担当者にも応援に来てもらいました。しかし、多い回数ではありませんが、コース活動にて近隣公園でのスポーツ活動やカラオケ、横浜周辺の散策など外出を組み込むことができました。

担当者間での情報共有を重視し、活動後は応援担当者や当日担当者、ボランティアの方と振り返りの場を持つようにしました。担当者の役割として、青年の求めに応じた支援や、学級活動の環境づくりがありますが、「ともに活動をつ

くりあげていく人であること」が前提にあります。

また、青年が活動に参加しやすくなる工夫の一つとして、ニュース作りを行っています。毎回の活動報告と次回の活動予定を各コース 1 枚ずつ便りにして、活動日前に送ります。文章はわかりやすい表記で、活動時の様子が思い浮かぶような書き方を心がけました。また、青年の絵や作品の写真を一緒に載せることもありました。

今年度は、新たに 1 人の担当者を迎え入れることになりましたが、依然、厳しい担当者体制ではあります。

3. つどい

活動の始まりと帰りに学級全体で行う「つどい」の司会進行は、始まりは例年同様コースごとに順番で、帰りは「つどい・歌係」で行いました。リクエストにより、活動の中で作られてきた学級ソングを数曲歌いますが、曲のリクエストは当日その場で青年たちに聞き取りをしていくため、リクエストをする人と選曲に偏りが出てしまいました。リクエストをする人や選曲の偏りを改善するために、帰りの「つどい」を担う、「つどい・歌係」を各コースから 1 名ずつ選出し、昼休みに、帰りの「つどい」で何を歌うかを決定しました。そうすることで、各コースの中で担当者のフォローの元、普段、リクエストをしない青年の声にも耳を傾ける工夫をしました。

4. 喫茶「のぞみ」

学級活動後の他コースのメンバー間の交流の場として、活動後にひかり療育園の調理室で行った喫茶活動です。2001 年頃の開始後、しばらく休止していましたが、2012 年から再開しています。メンバーは有志の青年で構成され、今年度は 2, 3 人の青年と担当者 2 名が定例的に参加していました。活動内容は、昼休みにお茶やお菓子の買い出しをし、活動後に喫茶の支度をし、一人 50 円の会費で開店しました。お茶出しが落ち着くと、お金の計算、出納帳に記録、状況報告などを共有しています。

ここ数年、同じ形態で行っていますが、以前、ひかり学級の今後を見据えて、一度話し合いをする必要性などの意見も挙がっていますが実現できていなく、それが課題と言えそうです。

第 4 部 土曜学級

第 1 章 班活動

土曜学級 星空ドルフィンスポーツ班

活動の流れ



6月8日	開級式、自己紹介。長年スポーツの班に参加している学級生が多い。今年やりたい活動は卓球・ボッチャ・ダーツ等。
6月22日	班名・係・班長決め。班名は希望をつなぎ合わせて決定。班長に2年目のHSさん立候補。ボッチャでは力加減が難しい学級生が多かった。
7月13日	【調理①】冷やし中華づくり。買い物組と準備組に分かれて開始。おかわりをめぐって食事制限の学級生への対応が課題になる。
7月27日	【外出①】班のメンバー2人が働いている「喫茶けやき」に行く。事前にメニューをもらい注文。食後は芹が谷公園を散策。二人三脚に挑戦。
9月14日	夏休みの思い出。秋の日帰り旅行は横浜。ラーメン博物館と崎陽軒のシウマイ工場見学に決定。ボッチャの紅白戦とペットンダーツで盛り上がる。
9月28日	【外出②】メンバーの1人が働く「シャロームの家」へ徒歩で行く。パンを製造販売しているので、思い思いのパンを購入して昼食。日帰り旅行の計画。
10月12日	台風のため急きょ中止。メンバーの1人が働く「花の家」のお祭りに行く予定だった。
11月9日	【外出③】学級全体で横浜に日帰り旅行。電車移動。コスモクロック・昼食・海上保安庁資料館・大道芸等。帰りにタピオカを飲んで帰る。
11月23日	日帰り旅行の思い出を絵にする。コスモクロックやタピオカが多かった。近くのお祭りに行きアイドルの歌に熱狂。班でクリスマス会を行うことに決定。
12月6日	クリスマス会の時の昼食はマックとお寿司から選ぶことになったが、ほとんどのメンバーはマック。新年会のビンゴゲームのルールについて話し合う。
12月21日	小さなツリーをひとり1個作製。クリスマス会で飾った。お昼のマックは5分で完食する学級生もいた。成果発表会の発表の内容について話し合う。
1月11日	お正月の過ごし方を発表。ビンゴゲーム用の小道具を作成したが、ハサミの使い方に戸惑う学級生もいた。新年会はアイドルの歌に笑顔があふれた。
1月25日	【調理②】ソースとあんかけ焼きそば作り。大量に作ったが完食。食事制限の学級生には事前におかわりの回数を相談して納得を得る。
2月8日	成果発表会の練習とプログラム・めくりの作成。めくりには全員の写真を貼り付ける。4回目のボッチャは慣れてきて点数も上昇。
2月22日	午前リハーサル。昼食は崎陽軒の弁当。午後、本番のステージはお客さんも巻き込んでの発表で和気あいあい。終了後の反省会では、「緊張しなかった」「うまくできた」と青年から感想が出る。

1. 集団の特徴

班の構成は、昨年もスポーツ班だった学級生が6名、ものづくり班から3名、イベント班から2名となりました。年齢も20歳代～50歳代まで幅広く、学級歴も2年目から30年以上の経験者までとこちらも幅広い分布になっています。昨年の音楽班からの参加者がいないというところに、インドア派對アウトドア派に分かれる土曜学級の特徴が出ているとも考えられます。

2. 活動のねらい

活動では

○「身体を動かしたい」という希望で集まった学級生なので、様々なスポーツや外出を多く取り入れていく。

○過去、スポーツ班で活動した学級生が多いことから、過去の活動の踏襲ではなく、経験を広げる意味も含めて新しい素材を取り入れていく。

○集団を意識した活動を取り入れ、お互いの関係を強めていく

をねらいとした。

3. 活動の様子

（1）新たなリーダーづくりと自治活動への支援

当初から活動の中心は、ここ数年継続してスポーツ班に参加している学級生で、これは班の中で会話でのコミュニケーションが可能な学級生と一致し、長年の経験から開級式の次は「班名決め」

「係決め」「中心となる活動決め」・・・と、かなりの見通しを持っていました。

班長決めでは、毎年立候補しているTH2さんが必然的な雰囲気ですべてに決定しました。そうしたなかで「どうしようかな」「できるかな」と迷っているHSさんに対し、TH2さんが「私が助けるから大丈夫」と背中を押したことから「頑張ります」とHSさんが班長に立候補した場面がありました。TH2さんは、単に長く班長をやっているというだけでなく、気配りや見通しといった組織を動かす力を持っています。2年目のHSさんに対しては、こうしたTH2さんの動きを日常活動の中から学び

取れるような、そして、新たな土曜学級のリーダーとして成長していくような支援が必要と考えられました。

新しい力が育つのは、学級生相互の関りの中で自然に習得していくことが重要で、その意味から「新たなリーダーづくり」と、そのリーダーを中心としながらもベテラン学級生の力を加えた自治活動づくりを意識して活動しました。

新たなリーダーと考えたHSさんは、職場（シャロームの家）ではパン作り作業のリーダー格であることから、班活動をリードすることは比較的容易ではないかと思われました。しかし、班活動はパン作りのように一定の動きではなく、活動の進行や学級生の意見によってまとめ方も変化することから「僕はまだ2年目だからわからない」という発言が次第に目立つようになりました。繰り返しのようになりますが、班の構成はスポーツ関連の班活動経験者が多いため、HSさんの知らない過去の活動を下敷きにした意見が出ると対応に困ってしまい担当者に「どうしたらいい」と質問するなど、経験の差が出ることもありました。

「新しい力が育つのは、学級生相互の関りの中で自然に習得していくことが重要」と位置付けましたが、今年度の担当者の働きかけでは経験の差を埋めるまでには至りませんでした。最後の活動でHSさんは「家に帰る時間が遅くなるので次は班長にはならない」と言っていました。今年度の活動で嫌気がさしたのではないことを願うばかりです。

また、毎年班長に立候補するKN2さんは、「今年はやらない」と立候補せずにいました。しかし、活動が進んでいくと班長会が気になって「班長会に出たいな」と言うようになったことから、KN2さんは班長の役割を理解し実行することよりも「班長会」という集団の一員になることが目的かもしれません。このような役割の理解不足は、他の学級生にも当てはまることで「係り」は決まっても名ばかりになっていることなど、集団作りや自治づくりをもっと担当者が意識して関わっていくことが必要でしょう。

青年学級がめざす「生きる力・働く力」の獲得

には、目先の活動を追いかけるだけではなく、じっくりと集団作りをすることが重要なことと考えられます。

（２）素材から

①スポーツ活動

（ボッチャ・ペットタンダーツ・卓球・二人三脚等）

今年度の班を構成する学級生は、活動に際して身体的な援助を必要とする方が少ないことから、外出やスポーツの種目の幅も広がっていくことが予想されました。

最初のスポーツ活動は、ボッチャを中心に組みました。ボールを「狙いを定めて投げる」という微かな力加減が必要とから、はじめは「ただ投げる」学級生が多く、ゲームに至りませんでしたが、数回練習をしているうちに徐々に投げ方や力加減がわかりはじめ、ゲームで対戦できるようになりました。これは「慣れること」「経験を重ねる」ことで可能となったものと考えられます。

ペットタンダーツ（卓球のボールにマジックテープを巻いて、くっつきやすい布に的を書いて当てる）もそうですが、目で見て勝敗がわかるようなゲームは、学級生にとって分かりやすく、ただ打ち合う卓球と比べて盛り上がりが違いました。

次に取り組んだのは、これまで学級活動で取り入れたことのない「二人三脚」でした。全員があまり経験したことのないものであったためか、最初はまったく歩調を合わせることができなかったため

- ・担当者と学級生が組む
- ・掛け声を合わせる
- ・最初に出す足を決める

など事前に打ち合わせ、動きを決めておくと徐々に歩けるようになり、「いちに、いちに」と声を出すことでリズムが出て、ほとんどの学級生が長く歩けるようになりました。ただし、これは担当者が学級生の動きに合わせたことも一つの要因であって、学級同士が組んで歩くことは難しく、担当者がリードすることでできたと言えます。

こうした担当者の支援・援助のレベル（量）は、話し合いの場面でも同じように考えられることで、

時としては学級生のみで進め、方向修正の必要な時やどうしても話し合いが進まない時など最小限に担当者が支援することにつながっていくと考えられます。

②調理

調理は、学級生の好きな活動です。調理活動が好まれるひとつの要因として、美味しいものが食べられるということですが、それ以外でも「買物に出かける」「買うものを選ぶ」、実際に「切る、煮る、盛り付ける」等、様々な場面で関わることや完成に近づいていく姿が間近で見られることにあると考えられます。

ただ、調理を行うときに考えておかなければならないのが「作る量」です。

最初の調理活動で「冷やし中華」を作りましたが、調理を行うときは多めに作ることが常で、全員に分けてもかなりの量の麺があまっていました。また、盛り付けも学級生自身が自由に盛ったことから大量に盛った学級生がいたにもかかわらず、さらに「おかわり可能」としたこと、健康面から食事制限をしている学級生が、おかわりをしようとする姿がありました。その学級生に「おかわり無にしましょう」と言っても、他の学級生が次から次へとおかわりする姿を見ているので「なんでダメなの！」と、普段の温厚な姿からは想像ができないような強い口調となったため、健康面のことを伝え、時間をかけて話し合い、最終的に「おかわりは１回だけ」となりました。

「食」については食べることも大切な反面、量や内容の制限等が学級生にあることも忘れず、事前に約束や調整をしておくことが必要でしょう。



③外出

最初の外出で TH2 さんと KM さんが勤務する「喫茶けやき」に行きましたが、それを契機に学級生の働いている職場訪問が活動の一つとして位置付けられました。

喫茶けやきに行った後、HS さんより「自分の働いているシャロームの家にも来てほしい」との要望が出されました。シャロームの家訪問を計画すると、HS さんが働いている職場の職員さんや仲間たちに「土曜学級の班活動で学級生を連れてくる」と話しているとの情報が入り、本人からも「土曜学級に参加していることを職場の仲間たちに伝えたい」「自分の働いている職場を学級生に紹介したい」との想いが出てきました。参加して 2 年目、HS さんの中での土曜学級の位置づけを垣間見るとともに、次第に活動の楽しさが広がっていることも分かりました。

障害のある方たちの余暇、休日の過ごし方はまだまだ限られたものになっています。文部科学省が最近になって「障害者の生涯学習」等と声高に宣伝していますが、現実の社会資源はとても少なく青年学級のような活動がさらに広がることを願うばかりです。

また、喫茶けやき、シャロームの家を訪問した後、これも HS さんから「もっとみんなの職場に行ってみたい」という要望がありました。運よく「花の家まつり」が学級日と重なっていることから、SM3 さんの職場である「花の家」に行くことを担当者が提案すると全員賛成し、さらに HS さんからは「花の家の次は NH さんと OM さんの通うダリア園」というところまで発展していきました。すると「僕のところにも来てほしい」と KN2 さん。この話し合いから、みなさん職場に誇りを持っている事とともに 2 年目・班長の HS さんが、青年学級の活動に対する見通しを持ち始めていることがわかりました。残念ながら「花の家まつり」は台風のため中止となりましたが、SM3 さんのご家族からも「働く姿を見てほしかった」というコメントが寄せられました。

④クリスマス会

☆プレゼント代

今年度は土曜学級全体で新年会を開催するので、クリスマス会はありませんでしたが、班でクリスマス会を行いました。

クリスマス会の話し合いでプレゼント交換をすることになりましたが、プレゼントの価格についてはすんなり 500 円以内となりました。金額の設定をめぐって担当者の間では「この金額が学級生にとって安いのか高いのか」「1 か月働いて 1 万円くらいの給料の学級生の金銭的な物差しはどこにあるのか」ということが話題となりました。そこで次の活動日に給料の使い方について話題にいくと、全員「親に渡している」ということがわかりました。幼少期より「お金」については親から厳しく制限されている学級生が多いようで、「欲しいものは親に相談」「買物は親と一緒に行く」といったことも明らかになりました。給料の使い方についてそれ以上の展開には至りませんでしたが、自身の給料の使い方や年金について話し合う機会を作ることも必要な事でしょう。

☆昼食・お弁当選び

「クリスマス会の昼食はいつもと違う食事にしたい」との意見から、食べたい物を聞いていくと、「マクドナルドのハンバーガー」(マック)を提案する学級生が多く、担当者の提案した「のり巻き」とどちらかを選ぶこととなりました。事前にマックとのかき揚げ両方のパンフレットを取り寄せて、どちらが良いか写真を見て選ぶことにしましたが、これは視覚からの情報がより伝わりやすく判断しやすいということからで、言葉の出ない OM さんも「フウ」と発語しながらハンバーガーを指したことや、マックの写真を見たとたん「ワー」と叫んだ SM3 さんの姿からも分かるようにパンフレットを見て食べたい物を選ぶことは正解でした。最終的に学級生は、ダイエットをしている KM さん以外全員マック、比較的年齢の高い担当者はのり巻きを選びました。

このように、「食」一つとってもそれぞれの好みは異なり、また、年齢差等からくる生活や価値観の違いも大きく、この差を埋めるために担当者が一層の努力をしないといけないということを再確認しました。

⑤新年会

新年会のゲーム大会では、イベント班からの依頼で「ビンゴゲーム」を担当することになりました。ビンゴゲームは学級生も良く知っているゲームで、ルールもそれなりに理解しているものの、マスの数や数字に関しては即答できる学級生はいませんでした。そこで具体的なマスの形をホワイトボードに書き、実際のビンゴカード形に近づけていくとマスの数が $5 \times 5 = 25$ であることがわかりました。そこで「大勢でやるから 10×10 で 100 マスにしよう」と担当者が提案すると TH2 さんから「数が多すぎて時間がかかる」との反対意見が出ました。これはマスの数とゲーム時間が結びついていることであり、見通しを持った意見であると捉えられ、その意見に合わせるように他の学級生から一斉にブーイングが出てきました。このブーイングは「時間がかかる」という言葉からの反応なのか、単に流れからなのかははっきりしませんが、いずれにしても「時間のかかるものはできない」ということが共通した意見であることがわかりました。

また、ビンゴカードは全部の班のものが遠くからでも見やすく進行がわかりやすいように、ドルフィンスポーツ班が模造紙で作製して配布し、1～25 の数字を各班が記入することとしました。しかし、昨年度の担当者会議で「マスの大きさに釣り合った大きさの字を書くことが難しい学級生が多い」との話があったことから、数字を書くのではなく「1～25 のシールを配布してそれを貼り付ける」こととしました。さらにシールの貼り付けに関しても「貼るものの表面に糊を塗る学級生がいた」と会議で出ていたことから、各班に注意



して貼り付けることをお願いしたことで、各班同一形式でのビンゴカードができ上がりました。

このように、担当者会議での反省点や学級生の行動特徴を頭に入れておくと、次の対応のヒントになることも多いので、担当者会議の内容についてきちんと理解し、それを実践に活かすことが重要です。

また、新年会では昨年に引き続いてまだだガールズクワイアのコンサートが催されましたが、全員ノリノリ、KM さんのようにうれし涙をみせていた学級生もいました。

こうしたノリノリで「うたを聴く」ことと反対の位置にあるのが「自身でうたを歌う」ことです。土曜学級生全体に言えることですが、大きな声を出して歌う学級生が少なく、どうしても「朝のつどい」や「帰りのつどい」といった歌う場面では盛り上がりが出ていないことは事実です。今年度も朝のつどいの前に発声練習を取り入れたことがありましたが大きな結果を生むことはできませんでした。朝のつどいは、『今日一日頑張るぞ！』を引き出すための「歌』』ということが過去の総括や実践報告集で解説されてきましたが、果たして今の土曜学級の朝のつどいで“うたうこと”が「頑張るぞ」を引き出せているかどうかは疑問の残るところです。また、朝・帰りのつどいでは「学級ソング」と言われるもオリジナルソングを歌う習慣になっていますが、そうした歌そのものも含めて、朝・帰りのつどいの意味を再確認し、参加している学級生に見合った表現方法を取り入れていくことも必要なことと考えられます。

4. 課題と展望

①調理をめぐっての対応から

活動の様子で述べたとおり調理は、当初の要望に出さされていたように学級生の好きな活動の一つです。

が、今回、調理活動で作った「焼きそば」をめぐって大きな課題が見つかりました。

「どんな焼きそばにするか」との問いかけに、ソースや塩といった意見以外に KM さんから調理名は分からないものの、作り方が具体的に出されました。具材の内容から担当者は「あんかけ焼

きそば」と判断して KM さんに「あんかけ焼きそばですね」と問いかけたところ「そう」との返事が返ってきました。そこで、あんかけを作ったところ、出来上がると「これじゃない」と KM さんからの抗議を受けました。「何が違うの?」「家でお母さんが作るのと違う」「スープがない。こんなの食べない」との涙の訴えを受けて、少しずつ話をきいていくと、どうやら「スープ焼きそば」だったようです。これは、担当者の知っている範囲内で物事を決定した、いわゆる「思い込み」による間違いであって、きちんと意見を言った KM さんからの抗議で気づかされたことで、意見を表に出しづらい学級生だったら担当者の思い込みを「押しつけ」たままだったこととなります。また、じっくり意見を聞かないということは、担当者が解決を急ぐために都合の良い解釈をしていることもあるのではないかとということも考えられ、特にことばの出ない学級生への対応で「思い込み」や「押しつけ」に注意し対応することを全体で確認する必要があるでしょう。

②外出をめぐる対応から

外出時は集団から離れる学級生は少ないので、移動もスムーズにいきましたが、KA さんへの対応をめぐる情報共有の必要性が明らかになりました。

KA さんは「外出時、自分の知らない場所に行く」と担当者の後ろに回ってしまうので動きが見にくくなる。コンビニを見つけるとチョコレートを買って行ってしまうので、なるべく KA さんが見える状態で歩くようにした。こうした学級生特有の動きや対応方法は実践活動のなかから得たものであって、次の年の担当者に確実に「申し送り」してゼロからスタートしないようにしなければいけないし、ご家族との信頼関係を強めるためにも担当者によって違った対応をしないことが必要です。さらに、KA さんは朝一番に薬を飲むことやコンビニに買い物に行くといったルーティン行動によって一日安定するので、こうした行動も班で共有しておく必要があり、主担当が休んでも一定の対応ができるようにしないといけないことはもちろんのことで、新たな班活動が始まる前にきちんと文

書等で伝えることが望まれます。

KA さんのように行動にこだわりのある学級生は少なくありません。基本的にはすべての学級生の「申し送り」や「行動特徴」をきちんと担当者側が伝達することで対応がスムーズにいくこととなりますが、現段階できちんと伝えられていないのが現状です。



③成果発表会から

成果発表会は、学級生の気合いの入れ方が違ってきます。これは、親や友人、職場の方等が見に来ることもあり、12 月ごろから成果発表会を意識しはじめます。かつては、後期 10 月ごろになると成果発表会を目ざした活動になり、最後の 2~3 回の学級日はどの班も成果発表会の練習となっていました。

最近、特に今年度はシナリオを当日に渡して読み合わせて、午前中 2 回のリハーサルで午後の舞台発表というものでした。本番の舞台はそれなりに進行して、結果的には大きな失敗もなく終了し、学級生たちは満足げな顔つきで、お茶を飲みながらの反省会では「うまくできた」「職場の人に褒められた」「楽しかった」等の感想が出ました。少ないリハーサル（練習）で発表ができたのは、学級生が成果発表会のイメージをきちんと持っていること、そして担当者がそのイメージに沿った内容で構成していることがあげられると考えられます。しかしこれは、ともすると進歩の無いものとも評価でき、もう少し話し合いや練習を重ねて成果発表会に向かうことも必要なのではないでしょうか。

土曜学級 みんなのイベント班

活動の流れ

日付	活動内容
6月8日	開級式 班メンバー顔合わせ
6月22日	係決め、班の名前、年間活動計画話し合い
7月13日	年間活動計画話し合い、町田駅周辺散策と買い物
7月24日	台風接近のため、町田リス園外出予定を中止。秋の日帰り旅行について話し合い
9月14日	なないろ作業所にて行われた、まちだガールズクワイアのミニコンサート鑑賞
9月28日	横浜外出（秋の日帰り旅行）の行程話し合い
10月12日	台風接近に伴い、土曜学級中止
11月9日	横浜日帰り旅行、放送ライブラリ、山下公園、みなとみらい散策。JAICAにて昼食
11月23日	横浜日帰り旅行の振り返り、新年会企画、内容検討
12月7日	新年会詳細検討、ゲームルール作成
12月21日	新年会小道具作り、町田駅周辺散策
1月11日	新年会開催
1月25日	成果発表会での発表内容検討
2月8日	成果発表会準備
2月22日	成果発表会

1. 印象に残った場面

AD の合図「本番 5 秒前」「4、3、2、スタート！」
「土曜学級にしやがれ〜」ステージ上の皆が大きな声を出しました。

これは、某民放テレビ番組を真似て「土曜学級にしやがれ」という成果発表会当日だけのテレビ番組撮影風景を醸し出しながら一年間の成果を発表した時の様子です。

ラジオやテレビのナレーションが好きな NKさんはアドリブでスポンサーの紹介をしました。

スポンサーの紹介に続いて司会役の HHさんが、今回のテーマ「みんなのイベント班 今年の 10 大ニュース」を紹介しました。

ステージ上には、10 個のニュースが大きな字で書かれて貼りだされていますが、所々付箋で隠されています。事前に出演者から今年の 10 大ニュースを聞いて、それひとつずつ発表していきます。では、一つ目のニュース紹介です。紹介するのは KT さん、付箋をはがしたのは IR さんでした。

ニュースを読み上げ、これを書いた出演者にインタビューして、もう少し詳しく状況を聞きました。10 個のニュースを発表したあと、班のみんなで揃って印象的な出来事ということで、OJ さんが本を出版して Amazon で販売したこと。まちだガールズクワイアの皆さんが新年会に来てくれて、とても盛り上がったことでした。この二つが選ばれました。

2. 集団の特徴

青年は、女性 2 名、男性 8 名。担当者は、女性 1 名、男性 1 名で構成されています。以前にも企画づくりの活動を経験した青年が半数と、今年は企画をしてみたいという青年が集まっています。しかし、青年 10 名と担当者 2 名で安全で円滑な活動支援を維持することは難しく、毎回応援担当者に参加していただき活動を進めてきました。

3. 班活動のねらい

土曜学級参加者の親睦を深められるような活動を、考え意見を出し合うこと。

お互いの意見が違って話し合いによって解決する過程を経験すること。

企画の内容を詰める過程で、自分とは違う様々な障がいや特徴など他者への配慮を学ぶこと。

4. 活動の評価

(1) 集団づくり

家で外出の計画を考え、それを土曜学級のみんなで行うことが夢の HH さん。

彼は、毎回の学級日に計画を班の中で説明します。しかし、費用、所要時間、移動手段など、様々な障がいをもつメンバーが計画通りに事を進めることは難しい内容です。

そのような外出計画を大きな声で、話し合いに割って入り主張する姿には、心理的な距離をとるメンバーも多く、敵対的な発言が出てしまう場面も幾度かありました。HH さんに外出計画を立てる理由を尋ねると、彼は「みんなで外出して、そこで楽しい時間を過ごしたい」と答えていました。「みんな！〇〇に行くと楽しいよ！」そんな想いを彼なりに仲間に伝えることはこれからも続くと思いますが、担当者として彼の計画にある問題点など丁寧に指摘しながら、彼の計画実現に向けて支援を続けたいと思います。

今年度も同じ班となった IN さんと KT さん、二人とも十年以上の学級参加者です。

二人の考え方には似ているところがあり、話し合いにおいても同じ意見となるが多かったのですが、今年度は二人の関係に変化を感じました。変化があったのは IN さんのようです。例えば、KT さんが班の皆に発する意見に対して IN さんは「KT さんの意見通りには出来るわけじゃないじゃん、失敗するに決まっているよ」という具合です。

IN さんの生活拠点が自宅からグループホームへ変化したことや、ご自身の体調変化も影響しているようです。KT さんの方は否定されることについて特に気にしていないそうですが、これまでのような友好的な関係が崩れないよう見守って行きたいと思います。

(2) 生活づくり

話し合いの多い班なので、時には昼食を買いに、西友やマルエツへ出かけました。その際、いつも外出計画立てている HH さんが地元の駅周辺のどこにどんな店があるのかを知らないことを知りました。彼の説明によると車や電車での移動は多いが、町田駅周辺の市街地を歩いたことがないということでした。西友での買い物から帰ってきた HH さんは、多数の商品が陳列されている様子がとても新鮮だったようで、楽しかったと話していました。

その一方で、外出に消極的になってきたのは、IN さんと NK さんです。加齢や体調の変化により歩行が楽に出来なくなってきたことも影響しているようですが、以前は積極的に外出をしていたお二人は、昼食の準備やその後の活動で使う小道具制作などに取り組んでいました。

①まちだガールズクワイアのミニコンサート

9 月のなないろ作業所訪問では、まちだガールズクワイアのミニコンサート鑑賞というみんなが楽しみにしているイベントがあり、当日は欠席者もなく全員で出かけることができました。

この日は、青年の新たな一面が皆に披露され、彼にとっての宝物もできた日でした。学級経験の長い ET さんですが、これまで、アイドルに対する興味は薄い印象でした。しかし、なないろの 2 階フロアに設けられた特設ステージに向かう“まちだガールズクワイア”が、開演を待つ ET さんの脇を通り過ぎ、目の前のステージで歌い踊る姿はやはりプロです、圧巻でした。

その様子を ET さんが、涙を流して見ていたのは印象的でした。ステージ後、ET さんへ泣いていたかどうか、そしてその理由を尋ねると「みんな可愛くて、歌が上手くてとても感動したの」と嬉しそうに話していました。

ミニコンサート終了後は、握手会や写真撮影、CD や DVD の物品販売がはじまり、NK さん、OJ さん、ET さん、KT さんそれぞれが“まちだガールズクワイア”との記念写真を撮影していました。

この時の経験から、新年会のゲストとしてまちだガールズクワイアをゲストとして招く提案がありましたが、反対意見は出ませんでした。

②横浜日帰り旅行

横浜放送ライブラリは、NHK や民放各社で過去に放送されたテレビやラジオ番組が多数所蔵されており、それらを自由に視聴することが出来る施設です。各席には利用者が操作できる端末が置かれその操作説明も係員が丁寧に教えてくれました。

メンバーは思い思いに検索して、子供の頃に見ていたテレビ番組、聴いていたラジオ番組、あるいは見たかった番組を視聴していました。彼らが選んだ番組を見ていくと、いずれも今日の学級での言動はここからきているのかと再確認することができました。

(3) 文化創造

新年会でのゲームとして企画したぺったんダーツは、参加者が楽しめるように、ルールを班の中で工夫し考えました。アイデアが出ればそれをその場で試し、微調整をしながらゲームのルールを作り上げました。

オリジナルのルールは以下の通りです。矢はピンポン玉へ変更、ピンポン玉にはベルクロを巻き、的はベルクロのつきやすい布を使うことにしました。

ピンポン玉を投げる位置の検討では、2 メートルくらいの的から離れた所から投げてみたところ、力強く腕を振らないと的にピンポン玉が届かないことがわかりました。徐々に距離を詰めて、70 センチくらいが届いたり届かなかったり、ある程度の難しさを残しつつ楽しめる距離だと考えました。また、同じデザインの的を用意するよりも、4 種類の難易度が異なるデザインで的を用意した方が、的を選ぶところからゲームになり面白いのではないかと、ということでカーテンのような波状の的にしたり、点数配置を幾何学模様にしたたり、メンバーで思い思いのデザインで的が作られました。

新年会当日、ぺったんダーツの的を選ぶところからゲームが始まり、みんなで楽しめるゲームと

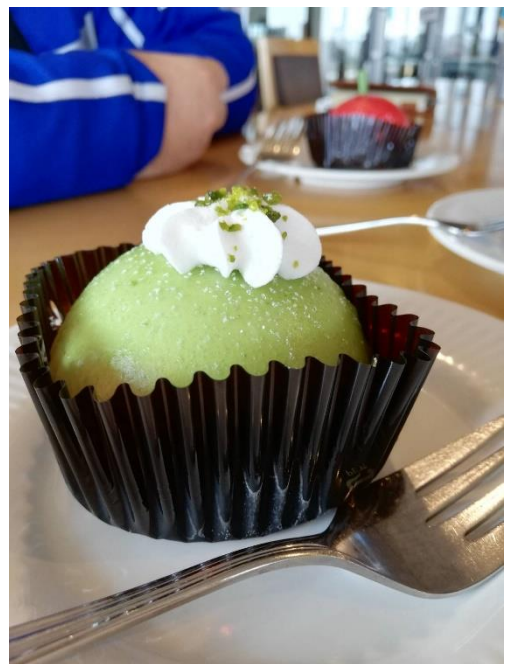
なりました。

5. 課題と今後の展望

学級全体の行事や活動を企画し実行する責任をもつ班なので、活動の多くは話し合いの時間でした。とはいえ一日にわたる話し合いは、集中力も途切れてしまい、メンバーの負担になっている様子でした。話し合いをやめようと言うメンバーはいませんが「時には外出しようよ」という意見もあり、今年度は、気分転換を兼ねて、外の空気を吸う活動も取り入れてきました。

田さんが持参してくる外出計画についても、その内容について良い点や改善すべき点をフィードバックする取り組みを継続し、いつか彼が考えた企画が学級全体で採用されることを目指していきたいと思います。

KHさん注文のケーキ@横浜



土曜学級 美術工芸（あじさい）班 2019 年度
活動の流れ

6 月 8 日	開級式
6 月 22 日	話し合い（班名、係り）。七夕飾りづくりで、それぞれ短冊に願いを書く。
7 月 13 日	板目紙や発泡スチロールで魚作り。クリップをつけて磁石で釣りあげられるようにする。話し合い（秋の日帰り旅行）。
7 月 27 日	調理（ラーメン）。割りばし飛行機づくり。今年度の初参加。
9 月 14 日	粘土細工。散歩（市民文学館、喫茶店ラ・ドロン）
9 月 28 日	カレーとナンづくり。午後からは横浜の紹介ビデオなどを見ながら秋の日帰り旅行についての話し合い。
10 月 12 日	台風の接近のため中止。
11 月 9 日	横浜日帰り旅行。
11 月 23 日	クリスマスリース作り。
12 月 7 日	金子さんを家庭訪問。前回作成したクリスマスリースを届ける。
12 月 21 日	カルタ作り。カレンダー作り。
1 月 11 日	新年会で使うビンゴカードとカルタの取り札作り。学級全体で新年会。
1 月 25 日	昼のお弁当を買いに外出。書初め、節分の鬼のお面作り。
2 月 8 日	焼きそば、ホットケーキ作り。東急ストアに食材買い出し。成果発表会練習。
2 月 22 日	成果発表会。打ち上げ、公民カフェからケーキセットの出前。

1. 集団の構成、特徴

男性 10 名、女性 2 名が参加し計 12 名と、土曜学級の中では平均的なサイズの集団です。このうち 5 人が前年度の「ものづくりブリヂストン班」からの継続参加でした。

ある青年は「ヘルパーが見つからない」との理由から昨年度から一度も参加したことがありません。一昨年度に一回来た時には、数十年前を知る担当者と旧交を温めたこともありましたが、その後はときどき電話で近況を聴くのみでした。

全体的に言葉のコミュニケーションが難しい青年が多く、話し合いを行うときには担当者の適切な関わりが欠かせません。

また例えば落ち着いて座っていることが苦手です。外へ出て行ってしまう青年もいて、担当者がその都度の対応を求められることが多い集団です。

これらから、ひとつの作業に全員で参加することは難しい面があり、素材の選択や班活動の運営に工夫が求められます。

2. 活動のねらい

- (1) ものづくりの活動を通して、お互いに認め合い、落ち着ける集団作りを目指す。
- (2) ひとつのものを完成させる取り組みを通じて分担や協同を学ぶ。
- (3) 話し合ったことを目に見える形にしていく過程で作ることの喜びを体感する。

3. 活動の様子

(1) 班名決め

話し合いでは様々な案が出ました。最初にある青年が“あじさい”を提案。それに影響されてか、別の青年から自分の名前から一字取った花の名前、また他の青年から“ひまわり”、など花の名前が続きました。さらに他の青年から“半分青い”、“岡本太郎”などのユニークな提案も出されましたが、多数決の結果「あじさい班」が賛成を集めて決定となりました。

ところがその日の班活動を終わって班長会では、自ら“ひまわり班”を提案した青年が、班名が「ひまわり班」に決定したと誤って発表し、その時点で担当者が直ちに訂正をしなかったことから、そのまま誤った班名がしばらく使われることになっ

てしまう一幕もありました。自分の主張とみんなの話し合いの結果とを正しく区別する社会性を涵養する場面だったといえます。

(2) 係り決め

毎年どの班でも班長に立候補する積極的な青年と、初めて立候補した青年、二度目の立候補の青年の 3 人が班長候補となりました。

ここで①候補者全員を班長にする、②定員を 2 人とした上で投票により決するという方法もありえましたが、話し合いや意思表示が苦手な青年が多いことを考慮して、担当者の提案により、じゃんけんで決めることにし、その結果、2 人の青年が班長になりました。

班長という役目の理解を共有し、自分たちが選んだ代表者を周囲が支持するという民主的な過程が求められますが、その支援の難しさを改めて実感する場面でした。青年たちの主体性を尊重する支援が、担当者による誘導や介入、引き回しにならないよう自制や検証が求められます。

班長のほか、出欠係、お茶係、お弁当係、テーブル拭き係を話し合いで決めましたが、こうした係分担を活動の中に定着させていくことも目標になります。

(3) 七夕飾り作り

担当者が用意した笹竹に、青年たちが色とりどりの短冊に願いことや自分の名前を書いて、飾り付けました。



(4) 紙と発泡スチロールでサカナ作り

まずこれから作るものをイメージしやすいようにホワイトボードに魚の絵を山根さんに描いてもらうなどして、紙や発泡スチロールにハサミやカッターを入れていきました。

青年たちの多くが普段、刃物をあまり使い慣れ

ていないこともあつてか、思い思いに形を作り出すことはむずかしい様子でしたが、担当者が要所所で手伝いながら、それぞれ取り組みました。

できあがった魚には金属製のゼムクリップをとりつけました。磁石を糸で吊り下げそれを竹の枝に結んで釣り竿に見立て、その紙の魚を釣り上げました。

(5) 調理（ラーメン）

青年たちから要望があったラーメン作りに取り組みました。

学級活動として行う調理にはどのような意義があるか、あらためて考えてみます。

- ・洗う、剥く、切る、火を使う、混ぜる、盛り付けるなどの指先の動き
- ・計量する、等分するなど数の概念
- ・清潔、加熱などの衛生観念
- ・昼に食べるために計画的な時間配分
- ・効率的な分担と協力
- ・食材が食事になるまでの工程理解
- ・量と栄養のバランス
- ・出来上がったものを食べるときの作法
- ・食事が終わったあとの片付け

こうして要素に分解してみると、どれもこれも社会人として必須の「生きる力・働く力」ということができます。私たちが、ほとんど意識することなく毎日こなしていることでもあります。

この「食べる」という共通目標に向けて、状況に応じ青年たちには困難なことには担当者が手を出し、または代わってすることにより、「ともに活動する」とができますが、しかし青年たちがこれらスキルを獲得することは、現実には相当に困難が伴います。

例えば“切る”という動作をとっても、その伝え方や支援の仕方は難しい面があります。青年に薬味用のネギを切ることを声掛けするとスムーズに応じてはくれても、小さく刻むのではなく数センチの長さにつつ切りして終わってしまうこともあります。

一方で、調理をすること自体が現代の社会では生活の最重要部分とはいえなくなっている状況もあります。好きなものをその都度コンビニエンスストアで買う、または弁当の宅配を利用することが普通のスタイルになりつつあります。

現代人が鶏や豚を飼育したり野菜を栽培することが少なくなっているように、「生きる力・働く力」も時代とともにとらえなおす必要があると感じさせられた活動でした。

さらに今後、例えばスーパーの無人レジが普及し現金での買い物がむずかしくなったら、知的障害のある青年たちはどのようにして生活必需品の買い物をし、自立生活を目指すのだろうかというようなことも考えさせられます。世の中の進歩とともに社会参加が困難になる面がないか、知的障害のある人の生きにくさや暮らしにくさが増す心配はないかなどを考える必要もあります。



(6) 粘土細工

クッキーの型抜き星型やハート型をあらかじめ用意し、粘土の形を整えます。

そうした定型だけでなく、思い思いの造形を期待し声掛けもしていますが、しかし具体的なモノをイメージしてそれを指先の動きを通して粘土の形を変えていく作業は、担当者が想像する以上に難しいようです。青年たちが作りたくなるようなものを提示し、その動機付けとなるような流れが活動を組み立てるうえで欠かせません。

(7) カレーとナン

前回の粘土工作でひとりの青年の作品がインド料理のナンに似ていたことから、実際にカレーとナンを作ってみようと、調理に取り組みました。

小麦粉を練ってホットプレートに載せることで食べるものができることに青年たちも集中していました。

カレーの具材を用意することは担当者が中心にはなりますが、青年たちに声をかけるとスムーズにその作業に参加できています。家庭でも食事の定番メニューということもあり、作って食べると

いう目標と見通しが持ちやすい活動でした。



この日の午後からは散歩。

市民文学館の“おぼまこと展”を見に行きましたがすでに開催期間が終了していたところから、展示されていた縄文式土器を見ました。あまり興味をひかれた様子ではありませんでしたが、外出そのものは楽しめた様子です。

そのあと市民フォーラムの3階の「ラ・ドロン」で休憩しました。コーヒー、紅茶など好きなものを選びました。

食券の購入や注文などは青年たちには相当難しく、担当者が采配することになりますが、他のお客さんたちが店内にいる中で、おおむね平穏に休憩をともにすることができました。社会経験を積むことの重要性を考えて、このような外出を活動に取り入れることの意義が再認識されました。

(8) 横浜日帰り旅行

どこへ行き、何をし、食事はどこでなど計画段階の話し合いを大切にしたいと考え、ただし言語による表出や相互の意見交換が難しいことから、ガイドブックを見たり、インターネット上の動画をプロジェクタで投影するなどしてイメージを持つことを企図しました。これらがどこまで青年たちの心に残ったかは検証が難しいのですが、少なくとも青年たちと担当者が視覚を通して同じイメージを共有し、また旅行に向けて気持ちを高めることはできたのではないかと考えられます。

実際の行程は担当者が考案しました。本来ならば青年たち自身が交通機関や観光スポット、具体的な時間配分などを組み立てることが望ましいことですが、そうした抽象的な作業は相当分が担当者主導になってしまいます。ただそうした現実はあるにせよ、旅行の計画段階で青年たちの主体性の尊重に軸足を置きつつ、青年と担当者の協同の

一場面でもあったと評価できます。

当日、実際に横浜に行ってみて、港を遠望するレストランでの食事や、みなとみらい地区の散策、湾内のクルーズなど、青年たちの楽しそうな表情が印象的でした。

青年たちの多くが平日の日中は福祉サービスを利用し、また休日には家族と過ごし、あるいはガイドヘルパーさんと出かけるなどそれぞれの生活をしていています。このように青年たちをめぐる社会環境は徐々に整えられてきていますが、そうした中でも仲間たちと観光に出かける機会はまだまだ少ないのが現実です。日帰り旅行が青年たちの経験をより広げる意味は大きいことをあらためて感じさせられます。



(9) クリスマスリース、ツリー作り

市販の材料を使い本格的なクリスマスリース作りに取り組みました。経験ある担当者の技術指導を受けて、ひとりが一つ、思い思いの飾りつけをして作成しました。

また、出席者の分以外にもうひとつを作り、長期の欠席が続く青年に届けることとしました。翌々週の活動日、班の全員でバスに乗り、木曽住宅で独り暮らしをするその青年に会いに行きました。初めて会う人も少なくなかった一方で、“かたつむり”と一緒に働く同じ班の青年の名前を嬉しそうに声で呼びかけたのが印象的でした。

青年たちの仲間意識づくりのきっかけとするとともに、担



当者も青年の生活実態を知る意味で家庭訪問を今後も考えたいものです。

その翌週にはツリー作りに取り組みました。リースもツリーも、完成したものを家に持ち帰り、ご家族からも好評でした。

(10) カレンダー作り、カルタ作り

12月最後の活動で新年用のカレンダーをひとり一つ作成しました。自分の誕生日や土曜学級の活動予定日に印をつけて1年間の見通しをもつことを意識するきっかけとしました。

カルタでは、伝統的な「犬も歩けば棒に当たる」ではなく、班員ひとり一人を題材とした句を案出してオリジナルの作品を作成しました。その人の頭文字を句の冒頭に折込み、その人のキャラクターを読んで親しみやすさを押し出しました。

うれしそう いつもニコニコ ○○さん
めんこも得意な ○○さん
いつも看護師 がんばる ○○さん
焼肉 大好き ○○さん
さあ行こう リズムに合わせて ○○さん
笑ってる 絵が上手な ○○さん
ふと見ると いろいろ上手な ○○さん
たったかと 元気に歩く ○○さん
うれしそう 笑顔ステキな ○○さん
きみはなぜ 茶碗をまわす ○○さん
胸張って 我が道をいく ○○さん
かるやかに 帰ってきてね ○○さん

(11) 新年会

学級では普段は班を単位として活動していますが、クリスマス会や新年会では他の班とともに学級全体で活動に取り組むことにも意義があります。ひとり一人が班に帰属し、同時に学級の構成員でもあることをお互いに意識する機会でもあります。

あじさい班では、オリジナルカルタを使って、取り札をホールの壁面に掲げ、それを他班の学級生に探してもらうゲームを行いました。

いつも目立つ人だけでなく、ほとんど目立たない人に対しても、学級全体の関心がその人に集中し主人公となる貴重な機会をつくることができました。

また、町田ガールズクワイアの公演も大いに楽しむことができました。普段テレビの向こう側にいるひとの華やかな衣装、歌声に直接ふれあうこ

とができ、心を開放できる貴重な機会となりました。



(12) 成果発表会

一年間の活動を写真で紹介しながら、青年たちがその写真を説明する構成のパワーポイント資料を使って発表を行いました。プロジェクターでステージ上に大きく投影し、青年たちはステージ上に全員が上がり、担当者が支援しながらセリフを読み上げました。

セリフは、言葉を発することができない青年でも「このひとならこういう思いだろう、こういうことを言いたいだろう」ということを青年たちがみんなで考えて作成しました。

この方法は次のような利点があると考えられます。

- ・青年たちの説明がそのまま文字としてステージ上に投影されることから、観客が理解しやすい。
- ・説明と写真が連動しているので1年間の活動を具体的にイメージしやすい。
- ・担当者会に参加していなくても、また他学級からの応援担当者もその場の流れを理解しやすい。

4. 全体として

(1) 外出への取組

散歩や買い物などの外出に積極的に行っていました。例えば調理の食材を購入するためにデパートの食品売り場に行くと、青年たちの中には売り場を走り回る、所在不明になる青年もいて、それらに目を配る担当者の力量が問われる場面でもあります。

せっかくの休日を生涯学習センターの部屋の中で話し合い中心で過ごすだけでは、平日に施設や作業所で過ごすこととあまり変わらないようにも思われます。

地域社会と広く接点を持つことも社会教育として行っている青年学級の意義の一つではないかと思われます。

(2) 工作の素材

工作の素材としては、カルタやクリスマスリースなど身近なものを多く取り上げ、それを家庭に持ち帰り日常生活でも使ってもらえるものを取り上げました。芸術性や商業価値を目指すこととは違うかもしれませんが、こうした庶民文化に根差すものを自分の手で作り出すことも、青年たちが社会に参加する一場面と評価することが出来ます。

土曜学級 青空いなずま班

活動の流れ

6 月 8 日	開級式、自己紹介
6 月 22 日	班の名前決め、役割決め、短冊作り 今後の活動でやりたいことの話し合い
7 月 13 日	楽器演奏、フォークダンス、音楽演奏
7 月 27 日	カホン教室、音楽演奏
9 月 14 日	調理（中華風冷やしそうめん）
9 月 28 日	弁当の購入、音楽演奏、横浜の話し合い
10 月 12 日	台風接近に伴い、土曜学級中止
11 月 9 日	横浜への日帰り旅行
11 月 23 日	横浜の思い出話し クリスマス会の話し合い
12 月 6 日	クリスマス会の話し合い クリスマスツリー作り クリスマスカード作り
12 月 21 日	クリスマス会 ペットボトルボウリング
1 月 11 日	年末年始の話 新年会
1 月 25 日	成果発表会の話し合い 成果発表会の練習
2 月 8 日	成果発表会の練習 パンフレット作り
2 月 22 日	成果発表会

1. 集団の特徴

青空いなずま班は男性 9 名、女性 5 名の計 14 名で活動しました。

全体としては音楽を聴いたり歌をうたったり好きな楽器の演奏に挑戦する集団です。

過去音楽班自体メンバーがある程度固まっていますが、青年同士の繋がり希薄に感じられます。そのために担当者を介して活動を継続していった中で仲間意識を育むことに取り組んでいきました。

2. 活動のねらい

- ・音楽を通じて青年の適性を見つけ出し、活動を明るく楽しいものにしていく
- ・また必要によって音楽以外の要素も取り込み幅広く活動する。

3. 活動の評価

(1) 話し合い

青空いなずま班としては、活動の見通しを立てるため、今後の活動を定める手段として行いました

意見を言う青年もいるが、自己表現の難しいと思われる青年に対し担当者がどれだけ意見をくみ取れていたかが課題です。

スケッチブック等を活用して意見を引き出すことも行いました。例えば○×というのを担当者が書いて青年に指をさしてもらったり、あがった意見をそのまま書いて指をさしてもらったりもしました。

(2) 音楽活動

青空いなずま班の活動の主軸になります。

公民館の楽器を使用しピアノにあわせて演奏したり歌を歌ったりしました。前期途中までピアノを弾ける担当者がいたためピアノに合わせて発声練習をしたり、またトーンチャイムをみんなで演奏したりしました。

また、担当者が携帯用スピーカーを使用し、音楽を流したりもしていましたが、青年の好きな音楽を自由に流すことができるので受け入れられていました。

前期ではカホンが扱える青年がカホン教室を開催しましたがカホンが扱える青年は終始緊張し、

全員が楽しめるよう担当者の配慮が必要だったように思えます。

(3) 調理

青空いなずま班での調理活動は一度やりました。

内容は「冷やし中華風そうめん」いうもので、ある青年が「ごまそうめん」、またある青年が「冷やし中華」をリクエストし担当者が意見をまとめて「冷やし中華風そうめん」になりました

調理は全員が参加できるように担当者が工程をホワイトボードに書き記しました。

全員が完食しましたが、すべての工程において担当者が率先してやりがちな部分もあります。調理工程において可能なところは青年がやるようにする必要があるのかもしれませんが。

(4) 日帰り旅行

事前に担当者が横浜へ下見に行きました。食事をする中華料理店に直接交渉を行うなど、円滑に旅行が進められるよう入念に行いました。

結果として、時間にゆとりを持ったスケジュールをとり、予約したお店も 1フロア貸し切り、あかいくつバスにもスムーズに乗ることができました。



公共交通機関での移動でしたが、社会への障害のある人たちへの理解が浸透してきたのか対応がとてもスムーズでした。

また、担当者が分担して行動したが連携をしつかりと取ることができ、事故を起こすことはありませんでした。

思い起こしに関してはイラストとスライドの閲覧を併用して行いました。

青年にとってはイラストや作文のほうが思い出が形になるのでわかりやすく思い起こしはしやすいと思われます。

（５）クリスマス会

クリスマスカード、クリスマスツリーの作成を行いました。

クリスマスカードは絵をかいたりシールを貼ったりして作成しました

クリスマスカードは青年たちがイラストを描いたりするので形になりとても分かりやすく好評で作成したクリスマスカードは各自持ち帰りました。

クリスマスツリーは大きめの段ボールに緑の模造紙を貼って作成しましたが、段ボールを切ったりするのは刃物を使用するのでとても危険なため担当者が行い、完成したものの飾りつけは青年が行いました。

飾りつけはモール、シール、ベルなど。貼る作業は青年に分かりやすくとても好評でした。

クリスマス会当日はクリスマスの音楽を事前に担当者が用意しました。クリスマスの音楽を聴きながら食事をしました。



（６）ペットボトルボウリング

みんなのイベント班から新年会でゲームをしてほしいとのことで委託を受けて行いました。

２リットルのペットボトルを 24 本用意。青年はビニールテープで飾りつけをしました。

貼る作業はとても分かりやすくシンプルに成果が分かります。ビニールテープを張り付けるところは青年の個性が出ていました。

完成したものでシミュレーションを行いました。水を入れるか？どの距離から投げるといいか？などのシミュレーションを行い、結果としては３メートルの位置で水を入れなくてもきれいに倒れるということが分かりました。



青年と一緒にシミュレーションするのは青年にも担当者にも参考になりますが、同時に一緒に活動を創り上げる喜びにもつながります。

（７）成果発表会

まずは１年間の思い起こしを行いました。

青年から出た意見を基にまずはスライドを作成しましたが、文字数も多く、背景も簡素なものでした。

話し合いと練習を進めていきスライドと台本を何度も作り直し、どちらも簡素化していきました。

スライドも活動内容と青年が写るシンプルなものに変更しています。

流す音楽も決めましたが、青年の盛り上がり加減を見て決定しました。「青いイナズマ」と「パブリカ」が特に盛り上がり採用しました。



成果発表会の流れとしては出席を取り、1年間の思い起こしを行い、パブリカで盛り上がるというものでした。

とても分かりやすい形で、パブリカでとても盛り上がりました。

成果発表会は1年間の発表をするのはもちろんですが、今は楽しく盛り上げるのも重要だと思います。

4. 課題と展望

J-POP や演歌などのなじみのある音楽を流すととても雰囲気明るくなるため、音楽を流す活動は膨らませました。

また成果発表会を見ていると今は「学ぶ」ことよりも「楽しむ」や「新しいことに取り組む」にシフトしているのかもしれませんが。「学ぶ」と「楽しむ」を上手に両立させる方法を模索したいと思います。

活動も今年は「楽しむ」方向で進めました。今の青年のライフスタイルとしての最適解を常に模索をする必要があるのかもしれません。

第2章 自治運営

1 班長会

(1) 班長会とは

班の代表者である班長、副班長が各班の意見を持ち寄って、学級全体に関わることについて話し合います。また各班の活動を報告し情報共有する場でもあります。

青年学級歴は2年目からの青年、20年目を超えるベテラン、また学級歴が長いながら初めて班長を行う青年まで幅広い層の青年が集まりました。

(2) 討議内容

6月22日	班名紹介、班長紹介、朝と帰りのつどいを当番制にして順番決め
7月14日	秋のイベントを日帰り旅行に決定
7月28日	大雨のため班長会なし
9月14日	日帰り旅行の話し合い
9月28日	日帰り旅行の各班の行先の報告
10月12日	台風のため学級活動中止
11月9日	日帰り旅行のため班長会なし
11月23日	日帰り旅行の振り返り、新年会の話し合い、みんなのイベント班より各班へのゲーム大会の委託
12月7日	新年会のプレゼントの協議、ゲーム大会の話し合い、新年会の招待状作成
12月21日	台風で中止になった学級を行うかどうかの話し合い、新年会の進行決定
1月25日	成果発表会の順番決め、成果発表会の招待状作成
2月8日	成果発表会の役割決め、歌ううた決め
2月22日	成果発表会の流れの確認

(3) 取り組みと評価、今後の展望

①新年会について

今年度も昨年度に引き続きイベント企画の班が立ち上がったため、班長会ではイベントを立ち上げることはありませんでした。11月の班長会ではみんなのイベント班から、昨年にも引き続きまちだ

ガールズクワイアを呼ぶこと、新年会の準備を各班で分担して行うことの2点に関しては、昨年のクリスマス会で行ったノウハウがあり、昨年度と比較してスムーズに行えたと思われます。

当初は、まちだガールズクワイアのミニコンサートの次にゲーム大会を行う予定でしたが、まちだガールズクワイアのスケジュールの都合でゲーム大会を最初に行うことになりました。普段の活動では午後になるにつれて疲労が濃くなり集中力が切れてしまいがちになりますが、この日はまちだガールズクワイアが最後になったことで皆はとても楽しい気分で行った新年会を終えました。

②つどいについて

青年学級で朝と帰りに行う「つどい」は、1日のスタートと終わりになる、とても重要な行事になっています。土曜学級では2016年度に決めた、各班持ち回りの当番制で運営しています。

つどいのルールは2018年度に決定したことにより、つどいを行っていききました。

- ・ホールは飲食禁止なので、飲み物を飲んでいる人がいたら注意する。

- ・つどいは全員参加なので時間になったらホールに入るようにする。

- ・帰りのつどいが終わるまでは帰らない。迎えが来ても最後まで参加すること。

今年度は夏休み前まで、発声練習を取りいれたりして、盛り上がるつどいを目指していききました。出てきた提案に関しては、各班の班長の報告のもとで、班長会で協議してよりよいつどいを目指していききます。

③振り返りについて

班長会がはじまると、まず各班長が当日の活動で何を行ったのかを報告しあいます。各班がどういう活動をやったのか情報共有するのはもちろん、各班の班長が何を行ったのかの思い起こしにもなります。

担当者がサポートに入って報告する班もあれば、班長だけで活動の報告する班もあり、報告にも各班の個性がでていきます。

④今後の展望

今年度の班長会は自然災害等の影響もあり、中止の回数が多く、より有意義な話し合いの時間を

十分に割くことができませんでしたが、班長会としての本来やるべきことにうまく集中して話し合いができたように思えます。

学級全体に関わるような場合は班長会や班の中だけで解決するのではなく、相互で話し合い、班長会で各班の意見をもとに最終決定を下すという班長会と土曜学級の流れを作る機関として機能しました。

班長会は青年学級が目的とする自治運営の要であるため、今後も班長ひとり一人が班の代表であることの自覚を持ち参加していけるよう、担当者や職員も班長会に関わり続けられるようにしていく必要があります。

また今年度は初めて班長を行う青年が2名いましたが、初めて班長を行う青年から新しい視点の意見があり、新しい活動の種になりました。

一方で既存の班長の意見も落ち着きがあり、よりよい活動の進め方に関しては熟知しているのでそれらの意見も尊重しつつ、班長会にも新しい風を吹き込むべく、班長を経験していない青年も参加しやすい班長会を目指していきたいです。

第3章 考察

1. 土曜学級の概要

1997 年度より、第 2・第 4 土曜日に町田第二小学校の開放教室を利用して、公民館学級、ひかり学級に次ぐ第三の学級として土曜学級がスタートしました。

土曜学級開級当初は 30 名という規模の集団でしたが、30 名で 1 つの集団として活動するには、自治活動の視点から見て規模が大き過ぎ、活動が行いにくいという点から 3 グループに分かれることにしました。

その 3 グループの形成方法についても、第三の新しい学級ということで、公民館学級やひかり学級のコース制ではなく、土曜学級では、各回の活動の中で出される青年の様々な要求を取り上げ、様々な素材に取り組む班活動の形態を取り入れてスタートしました。

公民館学級やひかり学級では、活動の素材を大よそ設定し、それをコースとして集団を形成していますが、そのコース制の良いところは、同じ要求を持った青年での集団が作りやすい点だと考えています。

一方、土曜学級では異なる要求を持った青年で集団を形成するので、多様化するニーズへの対応も可能となります。コース活動の良い点、班活動の良い点、それぞれ異なりますが、現在も班活動の形態を維持して活動を続けております。

(1) 体制づくり

毎年 2 月頃成果発表会を行いその年度の活動を終え、3 月から 5 月頃は前年度の次年度の体制を整えるための準備期間としています。

毎年 4 月～5 月にかけて、前年度の班長や副班長、担当者、生涯学習センター担当職員で集まり、次年度どのような土曜学級としたいか「学級を語る会」を開催しています。

土曜学級 4 年目となる 2001 年度、参加青年の数は 47 人となり、三つの班それぞれの人数が多くなってきたため、3 班から 4 班体制に再編成することになりました。

また 2002 年度からは「学級を語る会」で取り纏められた、次年度の活動要求を数パターンのグループ案として作成し、それをアンケートという形で青年に提示します。そのアンケートは回収し、アンケート集計結果から次年度の支援体制を整えています。

開級式当日は、アンケート結果をもとに大よその集団を構成し、最終的には当事者である青年の意見で、各班の構成を確定させています。

2003 年度には学級の規模もさらに拡大しました。1997 年度から活動場所として使用していた

町田第二小学校では、青年学級が使える部屋も限られていたため、より部屋数の多い生涯学習センター（まちだ中央公民館）に活動場所を変更しました。

2005 年度には、青年の人数も 60 名となり、それまでの 4 班体制維持が困難となったため、5 班体制に再編成し活動を行うこととなりました。

2014 年度までは、参加する青年の増加に対応する形で班構成も増やしてきましたが、支援体制の要となる担当者不足が顕在化しはじめ、2015 年度には、5 班体制を維持する担当者が確保できず 4 班体制での活動となっています。

活動は 6 月の開級式から 2 月の成果発表会まで（毎年 8 月は活動なし）、毎月原則第 2・第 4 土曜日に行われました。タイムテーブルは、以下のとおりです。

- 09 時 20 分～会場準備、
- 09 時 30 分～担当者打合せ（情報共有）
- 09 時 40 分～送迎者受入
- 10 時 00 分～朝のつどい（活動開始）
- 10 時 30 分～班活動
- 12 時 00 分～各班にて昼食
- 15 時 30 分～帰りのつどい（班活動終了）
- 16 時 00 分～班長会
- 17 時 00 分～班長会終了

主な活動場所として、プレイルーム、音楽室、美術工芸室、調理実習室、ホール、学習室を使用しました。

(2) 2019 年度体制

2019 年度は青年 47 名で活動が始まり、昨年度に引き続き 4 班体制で活動を行いました。

- ・ 班の名称
（事前アンケートで記した素材）
- ・ 青空いなずま班
（音楽と歌と楽器）
- ・ あじさい班
（美術工芸）
- ・ 星空ドルフィンスポーツ班
（ウォーキングや軽スポーツ）
- ・ みんなのイベント班
（外出とイベント企画）

2. 今年度行われた行事

(1) 日帰り旅行

補足）この活動を多くの青年が“日帰り旅行”と呼び、それが学級内で定着しているため、本実践報告集でも旅行という表記を用います。

例年 9 月から 11 月頃開催している合宿について、6 月の班長会で討議しました。その結果今年度は合宿ではなく、日帰旅行となりました。その後の班長会で行先についても話し合いが行われ、今年度は、11 月 9 日に横浜市桜木町駅周辺を拠点に各班が活動を行うこととなりました。

た。ここまでは班長会にて討議し、活動の詳細は各班へ任せることとなりました。

それぞれの班は、桜木町周辺のウォーキング、テレビ番組制作設備の見学、大道芸から歌踊りの素材研究、レストランでの外食、公園散策、写真撮影などを行い、14時頃桜木町駅前へ集合、土曜学級全体で記念撮影後、町田へ戻りました。

（２）新年会

昨年度のスマイルイベント班がクリスマス会へ招待したまちだガールズクワイア。ご当地アイドルとはいえ、そのパフォーマンスはやはりプロフェッショナルであり、青年にはとても強烈な印象となったようです。多くの青年から今年度も是非とも来て欲しいという声が多く上がっていました。

今年度は生涯学習センターの担当職員と担当者代表が“まちだガールズクワイア”の事務所と交渉を行いました。

交渉の結果、新年会へゲストとして参加していただくこととなりました。

土曜学級新年会には、ゲストとしてまちだガールズクワイアが参加することを、公民館学級やひかり学級、とびたつ会にも告知し、皆で彼女たちのパフォーマンスを楽しむことが出来ました。

３．担当者の役割

青年の参加人数は年度により多少の増減はありますが、総じて横ばい傾向で推移しています。一方、担当者の人数は減少を続け、今日ではかつてのような青年をサポートする体制の維持が困難な状況が続いています。

このような状況ではありますが、担当者の役割について考察していきます。

（１）青年への電話かけ

学級日前の木曜日に各班で電話かけを行い、出欠席の確認や近況を聞きます。

近況を聞くことで、言葉でのコミュニケーションが難しい青年も話し合いに参加する支援が行え、また他の青年にとっても仲間の近況や意見を知ることができます。

電話かけでは、青年の体調に変化がないか、トイレ・食事介助方法や服薬状況、体調などを確認することもできるので、これは保護者と担当者で情報を共有するための貴重な活動といえます。

（２）青年に寄り添う

活動中、青年がどんな表情で参加をしていたか、どんな発言をしていたか、どんな様子だったのか、など青年に寄り添い、しっかりと見て聴いて感じる必要があります。

言葉でのコミュニケーションが難しい青年も

多いなか、青年の思いを知り、どのようにしたらその思いを皆へ伝えることができるか、どのようにしたら学級の活動などにつながるかを一緒に考えることが大切です。

私たち担当者は、青年学級の主体者は青年であること。活動の準備などで青年が携われることは一緒に行うこと、青年の主体性を損なうような指導や指示をしてはならないこと、一方で、安全を確保するためには指導や指示が必要であること。

終始、青年と共に活動と一緒に作り上げていくことが大事です。

（３）担当者同士の情報共有

担当者会で活動日の様子や青年の様子、次の活動がスムーズに行えるよう準備や情報の共有をします。

当日担当者は木曜日の担当者会に参加せず、当日の活動日のみ参加します。

どのような活動を行うか、タイムテーブルなど事前にメールや電話などで伝え、班の担当者が同じ方向を向き、活動を行うことが必要です。また、活動後に当日の青年の様子などを担当者間で話し合い、共有することも必要になります。

近年ではSNSを用いた、情報交換も盛んになってきました。

（４）ニュースづくり

ニュースは、当日の活動の内容を青年と振り返るとともに、家族にも活動の様子を伝えるものです。

また、特定の担当者が書くのではなく、班の担当者が持ち回りで書くことや編集作業などニュースづくりは協力して行うことが必要です。

ニュースを作るためには、活動中も青年のことをしっかりと見る力や考える力が求められますが、これらは今後の活動を支援するうえで大切な観点を身につけることにつながります。

４．課題と展望

（１）班長会の役割と活用について

各班の代表が集まり学級の運営にかかわる班長会は、青年学級の「自治」のうえで欠かせない大きな役割を持っています。

班長会は、別の班の青年同士が活動の情報を共有できる場です。時間配分などを検討し、より良く活用していく必要があります。

また、ここ数年班長になる青年が固定化しています。これについては経験が豊かになり会が進めやすいメリットとともに、意見や活動が固定化し易くなるデメリットも生じます。今まで本人の希望制で決めていた班長についても、班長の役割や求めるものを再度確認したうえで決

め方について検討していく必要があると思われます。

（２）担当者の青年とのかかわり方

三つの学級の中で一番歴史の浅い土曜学級ですが、とはいえ 20 年以上の歴史を積み重ねてきました。青年も担当者もベテランとなっていて、何も言わなくても自然と学級活動で動けるようになってきています。そのため、経験則による円滑な活動のみを重視して、突発的な考えや偶発的な活動から生まれる新しい試みを軽視することになっているのではないかという危機感もあります。

青年学級の求める「生きる力」「働く力」「文化創造」「生活づくり」についても 40 年、50 年経ってもその時代に合わせた変化をさせていくこと、方向性を見出すことが今後も青年学級を支援する人々の課題になります。

（３）コロナ禍における新しいスタイル

この原稿を書いている今、コロナ禍における新しいスタイルが課題となっています。青年学級における新しいスタイルとは何かを関係者全員で模索中です。

オンラインで青年学級という意見もあり、試験的に実践もしてみました。オンライン青年学級に参加するには、IT リテラシーが求められます。コロナ禍においては IT リテラシーも生きる力、働く力なのか。それを獲得するためには端末の用意、通信環境の整備といった経済的な障害はもちろん、端末を操作するためには身体的なハンデが正に障がいとなってしまいます。

あるいは、感染予防策を行った状態で生涯学習センターに集まり、これまでの様な活動しようという意見もあります。常にマスクをつける、ソーシャルディスタンスを保つ、不用意にものを触らない、こまめな手洗いとうがいを行行する。これら感染予防策を理解しても実践できないことも知的な障害によるものだと考えています。

一方で、この状況で青年学級に参加することは、感染リスクを考えて見送る。このように判断される方もいらっしゃると思います。

まだまだ、最適な答えは見いだせていませんが、大きな課題だととらえ関係者とともに乗り越えたいと思います。

第5部 地域への広がり

第1章 サークル活動

1 おなべの会

(1) 会の歩み

1980 年度青年学級成人班で調理を中心に活動したメンバーからの「青年学級以外でも調理をしたい」「調理を続けたい」という思いがきっかけになって 1981 年にはじまった料理サークルです。

ほぼ月に一回のペースで青年学級の無い土、日、祝日に、おもに調理実習室で活動しています。

(2) 活動の流れ

午前中の活動を例にとると、9 時 30 分にロビーに集まり、受付で利用料（午前中は 1780 円、午後 2030 円）を支払い、鍵を受け取り調理実習室に向かいます。部屋に入るとまず、メンバーの一人が当日の会費 300 円を集め、ホワイトボードにその日のメニュー、必要な食材や調味料をみんなで確認しながら書き出していきます。メンバーの一人がボードを見ながら熱心に手帳にメモを取ります。

次に買い物に行く人と残って食器や調理用具の準備やご飯を炊く人に分かれます。

買い物は、公民館隣のデパート地下のスーパーへ、10 時の開店にあわせて出かけ、店では、必要なものをメモした青年が買ったものを一つひとつ丹念にチェックしていきます。レジで会計を済ませると、手分けして食材を運びます。



調理実習室に戻るとまず食材を、洗う、切る、を手分けして行っていきます。ごはんが炊き上がるまでの間など、作業が一段落した際には、再びホワイトボードに向かって、今後の活動で作りたいものを出し合います。メニューを提案した人は、なぜこのメニューを作りたいかを説明し、最終的なメニューの決定は挙手による多数決で行っています。

(3) 2019年度の活動

- 4 月 21 日（日）AM 豚肉のしょうが焼き
 - 5 月 19 日（日）AMPM チャーシュー
 - 6 月 15 日（土）AMPM 焼きそば
 - 7 月 20 日（土）AM 野菜炒め
 - 8 月 24 日（土）PM ひかりセンターまつり出店
- ジャガイモのバター焼き

9 月 29 日（日）AMPM お好み焼き

10 月 27 日（日）生涯学習センターまつり出店
ホットケーキ、コーヒー、紅茶

11 月 16 日（土）PM クレープ

12 月 28 日（土）AMPM カレーライス

1 月 18 日（土）AMPM ギョーザ

2 月 11 日（祝）PM 牛丼

3 月 29 日（土）AMPM とりなべ予定中止

(4) メンバーの入れ替わり

現在メンバー 26 名、スタッフが 7 名ですが、毎回の活動はそれぞれ約 12 名、約 4 名で、おおむね 20 名弱で行っています。

メンバー構成については、「青年学級」か「とびたつ会」に入っていて 20 年以上参加している人が中心ですが、最近青年学級に入った人や、また青年学級への入級が抽選で外れた人やロコミ、公民館からの情報などで新たなメンバーが加わっています。

一方、グループホームでの生活を始める人も増え、そこでの行事や人とのつながりができることから、おなべの会を実質卒業していく人もいます。また、この 2 月からは 40 年近くほとんど休まずに参加していたメンバーが、足のけがにより入院。長期に来られなくなっています。

スタッフでは、青年学級元担当者が 4 名のほかロコミで 3 名、また、2019 年から新たに加わった女性メンバーの母親も援助スタッフとして加わっています。一方で 9 月には公民館学級スタッフから長く関わっていた U さんが病気で亡くなりました。

(5) 活動の経費の確保

メンバーが参加しやすいよう 40 年前のサークル発足当初より参加費（材料費）300 円を維持してきていますが、実際にはこれまでもメニューによっては材料費をまかないきれない場合があります。

また、2004 年から、活動日前に案内はがきをメンバー一人ひとりに送っています。電話連絡や、活動日に次の予定を確認するだけでは忘れてしまう場合もあり、案内はがきを送ることで前もって予定が確認できるので、その日の活動に見通しを持って参加できるようになっています。その一方で、はがき代が年間 1 万 5 千円ほどかかり、スタッフやメンバーからはがきや現金のカンパをいただいています。

8 年前からは公民館施設有料化となり、さらにその後の値上げもあり、半日の活動で約 2000 円（1 日の場合は約 4000 円）の施設利用料が

かかっています。

そうした窮状のなか他のサークルから助成金についての情報を得て、2018年度から町田市社会福祉協議会より歳末たすけあい地域福祉ボランティア活動助成金を受けることになりました。そのため、材料費以外の経費は最終的に助成金でまかなうことができ、スタッフの経済的負担も少なくすることができています。

（６）会場の確保と日程

以前は活動日を日曜日に固定していましたが、場所の確保がなかなかできないことから、公民館のほかに、せりがや会館、市民フォーラムや忠生市民センターの調理室を活動場所としてきた時期もありました。しかし、活動場所を変えると、行き先がわからなくなったり、送迎が必要になる人もいることから土日祝日のうち公民館調理実習室が確保できる日を活動日としています。

午前中だけの活動では、12時30分までに退出しなければならず、調理活動が押してしまうと「食べる」「片付け」「清掃」職員による使用後点検などあわただしく活動を終えることもしばしばありました。

今年度利用料も助成金で賄える見通しとなり、経済的負担が減少したことから、今年度は、できるだけ1日通しての抽選申し込みを行うことにし、その結果、生涯学習センターまつりの日以外にも今年度は5回、1日通しての活動を行うことができ、午前午後通しでお昼の時間をはさんでゆったりした活動を行うことができました。

会場の確保は、施設予約システムの抽選への参加という形で行っています。しかし、競争率と運に左右されることから土日に確保できず、就労しているメンバーもいる祝日になってしまうことや助成金が出るようになったものの1日通しての確保ができない、スタッフが手薄の日にしか確保できないなど、相変わらず悩みはつきない状況です。

（７）2020年度に入って

新型コロナウイルス感染拡大により3月から5月まで部屋の貸し出しが中止され、6月についても自主的にお休みしました。このように長期に休むのは初めての経験でした。7月から活動が再開したものの、20年以上参加を続けていた8月のひかり療育園の納涼まつりも中止。生涯学習センターも参加の仕方が変わる方向です。

おなべの会は文字通り料理を楽しむサークルですが、障がいを持つ人にとっての大切な交流と参加の場、調理体験のできる場です。そうした大切な活動の場が、ここで再開しなければなくなってしまう。そういう危機感を持っての再開でした。

スタッフ、メンバーとも高齢化が進んでいて、

比較的に高リスクなメンバーが主流であるなかで、自宅で検温、部屋ではすぐ換気、活動中はマスク着用、手洗い、消毒、距離を取ろうを、合い言葉に活動を始めています。

２ とびたつ会

とびたつ会は、2004年にはじまった本人活動の会です。当時青年学級は180人を超える人数と担当者の不足で青年学級を希望する若い人が入れない状況でした。また、各地では本人活動の活動が活発になってきていました。そこで、本人活動の会を町田でもつくって、青年学級を卒業することで新しい若い人たちに青年学級を経験してもらおうと考えました。最初は8人でスタートしました。

（１）参加者

2019年度の活動メンバーは25人でした。女性8人、男性17人。青年学級を経験した人16人、とびたつ会の直接入った人9人。車イスを利用する人が8人。ヘルパーさんと一緒に参加する人が5人でした。

（２）活動日と活動場所

毎月第2、第4日曜日 午前10時～16時。会場は主にコメット会館5階ホールを有料で借用しました。また、公民館など公共施設も活動内容によって利用しました。1月からはコメット会館が防音工事のため、使えなくなり、公民館と市民フォーラムを使うことになりました。

（３）運営の体制

活動にあたっては、毎週木曜日18時から21時に公民館の一室で運営会議を開いて準備をしています。

本人活動ですが、支援者も10人ほど参加して活動を支援しています。

（４）2019年度の主な活動

①第19回若葉とそよ風のハーモニー

2018年度～2019年度に、公民館が受託した文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」として、取り組んだ第19回若葉とそよ風のハーモニーコンサートの全体練習・ミュージカル練習・パート練習を公民館を会場に全5回行ないました。

そして、5月11日（土）に市民ホールを会場に、約600人の来場者を得て、開催しました。

②交流ハイキング&とっておき音楽祭

5月26日（日）に、東京都勤労者山岳連盟所属「町田グラウス山の会」が主催する交流ハイキングに参加しました。今回は何度目かの弘法山に登りました。交流ハイキングに参加しない人たちは、公民館学級が参加した「とっておき音楽祭」に一緒に参加しました。

③参議院議員選挙について

7月21日投票日の参議院議員選挙について、選挙公報を見ながら、立候補者の主張を確認し、選挙の争点について意見交換しました。

④短編映画「東電刑事裁判」を観る

9月に判決がでた「東電刑事裁判」についての短編映画を見ました。取り残された双葉病院と隣接する特別養護老人ホームの悲劇を目の当たりにしました。

⑤手づくり中華麺で焼きそばと冷やし中華

恒例の夏の調理は、重曹を使った手づくり中華麺に挑戦しました。

⑥愛のほほえみコンサート

9月8日(日)には、池田公生&お洒落倶楽部の皆さんにお誘いいただき、ポプリホール鶴川で20分間のステージ発表をしました。終了後は、台風の心配はありましたが、有志で交流会に参加しました。

⑦聖心女子大学「聖心祭」出演

10月20日に行なわれた「聖心祭」にご招待いただき、30分間のステージ発表を行いました。同大学グローバル共生センター教授の大橋正明さんからの誘いで、事前に学生さんと練習を重ね、交流を深めながらの発表となりました。

⑧「青年学級の新しい流れ」発表

文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究」事業の一貫で取り組まれた「青年学級の新しい流れ」の第1部のステージ発表で、とびたつ会の活動について報告しました。

⑨15周年記念イベント&ドヤフェス

以前の学習会で「がんになっても生きる」ことについて語っていただいた「まっちゃき」こと松崎匡さんの協力を得て、1月12日にとびたつ会15周年記念イベントを開催しました。オープニングはとびたつ会。次にサンシ・モンさんのステージ。メインはギターパンダこと、山川のりをさんのステージで大いに盛り上がりました。エンディングは、全員で「自由」と「JUMP」を熱唱しました。多くの人にご参加いただき、とびたつ会を知らない来場者の方にもアピールすることができました。

⑩豚まんづくり

1月からコメット会館が使えなくなり、公民館や市民フォーラムで活動することになりました。そこで、何をするかを話し合い、調理実習室を使って豚まんをつくりことになりました。初めての取り組みとして、つくり方を動画で観て、それを参考にしてつくりました。作業の工程がイメージしやすくとても有効でした。

⑪ロータリークラブふれあいコンサート

青年学級に出演依頼のあった「ふれあいコンサート」(2月25日ポプリホール)に、いっしょに出演させてもらいました。中学生の吹奏楽なども

あり、多様なお客さんに活動を知ってもらうことができました。

⑫第25回障害児・者性教育セミナー 生涯学習分科会に参加

以前に性と生の学習会の講師をお願いした永野佑子からの誘いで、品川区にある立正大学で行われた第25回障害児・者性教育セミナーに生涯学習分科会に参加しました。分科会では、NPO法人「障がい児・者の学びを保障する会」が運営する「学び」の場「モアタイムねりま」と「i-LDK」に参加する人たちが活動の内容を報告しました。後半は分科会でとびたつ会のメンバーも自分たちの活動を報告しました。

うたづくり

第19回若葉とそよ風のハーモニーを終えて、メンバーの稲村宏美さんが感想を書きました。

同じ時間(とき)を過ごせる事の幸せ。

同じ時間(とき)を共有出来る仲間がいる事の幸せをとびたつ会や青年学級の人と話をする時、1つの物を一緒に作り上げる時、皆で笑い合う時、1つの事を成し遂げた時、いろんな所で感じます。

可能な限り時間を共有して充実した気持ちを感じる事をやっていくうちに深まった絆があれば、いつかライフスタイルの変化で、離れていく日が来たとしても、心は繋がっていられる。そう思います。

今、私の周りには熱意を持って様々な事に取り組める仲間がいて、熱く、そして時には思いが溢れて涙が出てしまう事もあるけれど、仲間の暖かい言葉と優しい手のひらにいつも支えられて最後は笑顔でまた明日から頑張ろうと思って帰路につける。その時間がいとおしく大切な物になりました。

どうか時に切なくなるくらい、いとおしい、この時間空間がいつまでも続きますように

語り合える仲間がいる事

語り合える場所がある事

その事を最近、少し切なくなるくらい、いとおしく大切に感じています。

この作文をもとに、うた「ラリルレロンでハッピー」をつくりました。(別紙参照)

(5) 活動を振り返って

2019年度の活動は、「第19回若葉とそよ風のハーモニー」にはじまり、「愛のほほえみコンサート」「聖心祭」「青年学級の新しい流れ」「15周年記念イベント」と発表の場が続き、多くの人と交流することができました。

ところが、3月に入り、新型コロナの感染が広がると、とびたつ会への参加者も半減し、4月からは緊急事態宣言が出て、公共施設が使えなくな

りました。6月下旬に公民館が使えるようになるまでの間も、とびたつ会ニュースはいつものペースで発行し、メンバーから近況の情報を集めて、発信しました。

（6）課題と今後の展望

①新型コロナをめぐって

今回の新型コロナウイルスの感染症拡大では、世界中で感染防止のために「ロックダウン」と呼ばれる強制的な外出規制、行動制限が実施されました。日本では緊急事態宣言により、外出自粛の要請が発せられ、それを受けて町田市は公共施設を使用中止にしました。それにより、とびたつ会は活動ができなくなりました。

6月下旬から公共施設が使えるようになり、これにより活動するかどうかは、私たち使う側にゆだねられました。

ここでの判断基準は、とびたつ会の活動が「不要不急な活動」であるかどうかということです。この点のとびたつ会のメンバー一人ひとりが判断することです。家族や関係者との話し合いも必要かもしれません。

とびたつ会では、再開してこの点について話し合い、「とびたつ会の活動が必要だ」というメンバーがいたことから、会場は確保することにしまして、参加するかどうかは、メンバー個人に任せることにしました。

その結果、6月から9月の活動では25人中10人前後のメンバーが参加し、そのほかのメンバーの多くは感染予防のために不参加となりました。

「3密を避ける」と言われても、とびたつ会の活動自体が3密前提の活動です。感染しないようにしながら、どのようにすれば活動ができるのでしょうか。

ア 健康を保つ。

イ 体調が悪いときは参加しない。

ウ 手洗いをする。

エ 換気をする。

感染防止と活動を両立させる方策が課題です。

②今後の活動について

とびたつ会は、青年学級を「卒業」した人たちでつくる会ですので、これからも青年学級からの参加者を募りたいと考えています。ただし、現在25人の参加で、青年学級でいえば2コース分の人数。これ以上増えると2グループ化する必要もできます。

青年学級との関係については、若葉とそよ風のハーモニーの時に交流が持てる程度になっていますので、お互いにその存在についての意識が薄れてきているところもあるのではないのでしょうか。とびたつ会から、情報を発信し、共に活動を深め、青年学級に新たな新人が入れるように、青年学級からの「卒業」を促すとともに、新たな卒業の場の創造を模索する必要があると考えています。

（文責 松田泰幸）



とびたつ会活動経過(2019年4月～2020年3月)

	月日	内容	参加人数	場所
1	4月14日	第19回若葉とそよ風のハーモニー練習2	120 人	まちだ中央公民館
2	4月21日	第19回若葉とそよ風のハーモニー練習3	120 人	まちだ中央公民館
3	4月28日	第19回若葉とそよ風のハーモニー練習4	120 人	まちだ中央公民館
4	5月5日	第19回若葉とそよ風のハーモニー練習5	120 人	まちだ中央公民館
5	5月11日	第19回若葉とそよ風のハーモニー本番	230 人	町田市民ホール
6	5月26日	交流ハイキングorとっておき音楽祭。	25 人	コメット会館
7	6月9日	若そよビデオ。2019年度の活動検討	17 人	コメット会館
8	6月23日	愛のほほえみコンサートについて検討。調理検討	24 人	コメット会館
9	7月14日	参院選について意見交換。短編映画「東電刑事裁判」	21 人	コメット会館
10	8月4日	調理＝手づくり中華麺でつくる焼きそばと冷やし中華	22 人	まちだ中央公民館
11	8月18日	愛のほほえみコンサートに向けて台本づくりと練習	17 人	コメット会館
12	9月8日	愛のほほえみコンサート本番	25 人	ポプリホール
13	9月22日	愛のほほえみコンサートのビデオを見る。聖心祭準備	21 人	コメット会館
14	10月6日	聖心祭に向けて練習。聖心女子大学の学生さんと交流	22 人	コメット会館
15	10月20日	聖心女子大学学園祭「聖心祭」出演	25 人	聖心女子大学
16	11月10日	聖心祭のビデオを見る。今後のイベントに向けて検討	20 人	コメット会館
17	11月24日	12/22「青年学級の新しい流れ」準備。サンシ・モンさんと交流	24 人	コメット会館
18	12月8日	「青年学級の新しい流れ」での発表に向けて練習	18 人	コメット会館
19	12月22日	「青年学級の新しい流れ」発表。望年会	22 人	公民館、コメット会館
20	1月12日	とびたつ会15周年イベント&ドヤフェス「ギターパンダがやってる」	150 人	コメット会館
21	1月26日	15周年イベント振り返り。	23 人	市民フォーラム
22	2月9日	調理実習「豚まんづくり」	19 人	公民館
23	2月15日	ロータリークラブ ふれあいコンサート	17 人	ポプリホール
24	2月23日	第25回障害児・者性教育セミナー 生涯学習分科会	20 人	立正大学 大崎C
25	3月8日	前回活動の振り返り。2019年度振り返りと2020年度に向けて①	12 人	市民フォーラム
26	3月22日	2019年度の振り返り 2020年度に向けて②	12 人	市民フォーラム
		合計	1266 人	

ラリルレロンでハッピー

19thわかそよを終えて

稲村宏美
2019年6月



3 スケッチ・ルーム

(1) 会の歩み

2012年4月より活動を始め、8年が経ちました。当初から参加のSHさんの提案で会をスケッチ・ルームと名付けました。短期間で青年学級を辞めたSHの母親から、好きな絵を描ける場があったら教えて欲しいと相談され、このことがきっかけで会が始まりました。

(2) 今まで参加した青年

SHさん 一般就労(2012～)

NKさん 土曜学級でスケッチ・ルームの宣伝を聞いたことがきっかけで、ほとんど母親と参加(2012～2015)

SKさん たまたま活動をのぞいたことから5回ほど参加し、その後太鼓のサークルに入る(2013)

HHさん 学級に入れなかったもので、公民館職員に紹介され、いつも父親と一緒に参加(2016～)

HJさん とびたつ会に在籍し、母親と参加
現在は、3人が参加しています。

(3) 活動の様子

土日祝日の午前か午後の半日、月に2回集まっています。今年度は、公民館に2回の他は、文学館を利用しました。創作活動は計25回、のべ157人の参加でした。SHさん、HJさんは11回の出席、HHさんは3回(職場が変わり、グループホーム居住になる)

展示

図書館 8月6日～18日

生涯学習センターまつり 10月25日～27日

活動の終わりには喫茶店に飲み物とおかしを注文してティータイム。みんなの楽しみの時間になっています。

(4) 会員について(青年以外)

当初は、学級、とびたつ会のスタッフが主でしたが、2016年には部屋取りなどの世話役2人の他は、絵が好きで加わった人たちになりました。(60～80代の10人が青年以外の会員です。)

(5) 会の運営

毎回、場所代として100円徴収しています。ま

た、今年度は町田市社会福祉協議会のボランティア活動助成金を30,000円いただきました。創作活動するためには、ある程度の広さが必要で、部屋代が支出の大きい割合を占めてしまうのですが、安心して部屋を確保することができました。

(6) 講師

昨年からはほとんどボランティアで、透明水彩画の講師を頼んでいます。年配の人たちは目標ができてか熱心に参加しています。一方、青年たちは好きなように描いています。

(7) 青年と他の会員との関わり

年配の人たちは障がいを持った人との関わりは初めてのようですが、「若葉とそよ風のハーモニーコンサート」を見て、「なんだか涙が出てしまった」と感想を言っていました。青年の作品に対しては、色がきれいだ、発想がすごい、根気がある、などほめることしきり。青年も悪い気はしないようです。SHさんは80代のおじいさんにストレッチの仕方を伝授。ついでに肩をもんであげ「力があってよく効く」と喜ばれていました。

(8) 課題と展望

高齢者が多いので、展覧会を見に行く外出はできませんでした。青年学級卒業生の受け皿を作りたいと活動を始めたけれど、なかなか難しい。しかし、居心地のいい場所として、長い年月を支え合う関係になれば、それでもいいのではと思っています。

4 風になる会

(1) 会の成り立ち

2018年に文部科学省の委託事業を受託した生涯学習センターが実施した障害者が対象の「うたの教室」から始まった会です。

coruka先生(プロのシンガーソングライターで元 岩桐永幸から改名)によるボイストレーニングとカラオケを使った歌の指導をウケています。

月に一度ではありますが、全員 実に上達しています。

喉では無い声の出し方、高音の出し方などきちんと勉強した方から教えていただく事はすごい事です。今年はコロナの影響で集まれていませんが、

昨年は町田市障がい者青年学級の皆さんと「若葉とそよ風のハーモニー」コンサートに特別枠で参加させていただきました。なんと、市民ホールの舞台に立ったのです。

緊張しましたが、貴重な体験をさせていただきました。

（２）活動の様子

coruka 先生の「風になって」は私たちのテーマ曲のように身体にしみえています。

気持ちのいいハーモニーです。

カラオケでは古い曲から、新しい曲までどんな曲でも指導してもらえます。

今は休止していますが、毎月第３土曜日の午後、生涯学習センターに集まって練習しています。

興味がある方は気軽に覗きに來てください。

お待ちしております！

（３）会の運営

１回参加する毎に 2,000 円の会費をいただいています。

（４）課題と展望

現在は健常者の方も参加しています。障がいの有無に関係なく、理解し合って「輪」を広げたいです。

第 6 部 学級を支える体制

第1章 担当者会・調整会・学習会

1 担当者会議の概要

町田市障がい者青年学級では、学級活動に参加し支援する人を「担当者」と呼んでいます。2019年度は公民館学級32名、ひかり学級17名、土曜学級17名、合わせて64名、そこに生涯学習センター職員4名が加わり、合計68名が「担当者」として学級活動に参加しました。担当者は（8月と年末年始を除く）毎週木曜日の夜に生涯学習センターに集まり、学級ごとに「担当者会」と呼ばれる会議を行っています。

担当者会では青年の活動を支援し、学級活動を充実したものにするために話し合いが行われています。学級日前の担当者会では、活動内容やそれに向けて準備すべき点などを確認し、学級日後の担当者会では、活動全体や青年一人ひとりの様子を振り返ります。

学級日に外出する際には、担当者が事前に下見を行い、車いす用トイレやエレベーターの有無、昼食場所の確認なども行い、会議の中で共有しています。

また、青年がどのようなことを求めているか、その要求の実現に向けてどのような取り組みをしていけば良いか、学級での経験を本人の生活に即したものにしていくにはどうしたら良いかということも話し合っています。活動におけるコースや班での話し合いをいかに支援していくかということも担当者会で度々話されている議題のひとつで、自分の言葉で表現することが難しい青年の思いを活動に活かしていくため、出欠確認の電話連絡時や送迎の際に家族とコミュニケーションを取り合うことも担当者の重要な役割となっています。そういった学級活動以外の場面での取り組みについても、その内容を担当者会で共有し、「全体で取り組む体制」をつくっています。

（1）公民館学級

今年度の公民館学級は、担当者32名（うち当日担当者9名）という支援体制でした。

学級活動としては、昨年度わかそよについて取り組むため増えたコンサートコースを継続し、6コース体制としました。基本は6コースでの活動ですが、担当者が少ない日には、一時的に2コースでの活動も行いました。

また、目的を持ち他コースと活動することもあります。昨年度は12月にまちカフェ、2月にふれあいコンサートに出演するなど、外での発表の機会が多くありました。発表内容についてはコンサートコースを中心に決めていきますが、歌や伝えたいことば、発表の練習などはコースを越えて活

動することで意見が広がっていききました。

担当者自身も、担当者会で各コース活動の振り返り、予定を確認することで支援体制や1日の動きの見通しが立て易くなりました。

担当者会に毎回参加できる担当者は7、8名と少人数でした。そのためコースの担当者間で活動の振り返りや打ち合わせを行うには限りがあります。コースごとにメッセージアプリでグループを作成し、活動当日までに情報の共有、確認を心掛けました。全体では、各コースでの様子について共有しました。また、合宿やクリスマス会などのイベントの計画、青年の様子など気付いたことなどを話し合ってきました。

活動日当日だけではなく、前後の振り返り、打ち合わせ、他コースの情報共有をしていくことで活動の意義や必要なことが明らかになっていきます。担当者会も学び、新たな気づきの時間なのではないでしょうか。

担当者会に出席できない担当者に向けては、引き続きメッセージアプリで情報の共有を行いました。担当者会の記録、次回の学級日の送迎担当者、学級生および担当者の出欠連絡、学級当日の緊急連絡など、多岐に渡り担当者間で相互に活用することができました。

メッセージアプリを利用していない担当者との情報共有の回り方が課題ですが、活動当日の朝に早めに集まり伝達・確認し合うなど工夫していきたいところです。

ニュース作成については、担当者会で予め作成者を決めることで、作成担当者はニュース掲載用に活動の写真を撮影したり、青年の発言を取ったりするなど、活動報告媒体として充実した内容になるよう意識を持って学級活動に臨むことができました。締め切りは翌週末に設定することでゆとりを持ち執筆・確認が行えました。

今後は、担当者会に出席できていない担当者や当日担当者を含め、担当者全員がニュースの作成担当として活躍できるよう、検討が必要です。それにより作成の負担を平準化、より高い意識を持ち活動に臨むことができます。

新型コロナウイルスの影響で大学生への周知、通常の活動ができないなどの状況が続く、来年度の支援体制も厳しいものとなります。しかし少ない人数だからこそ、担当者会で情報の共有体制の確保、担当者一人ひとりの力を最大限に活用できるよう役割分担を行っていくことが必要です。また、担当者自身が学級全体に意識を向け、気づいたこと、感じたことを共有していけるとより深い活動内容となるのではないのでしょうか。

（2）ひかり学級

今年度の体制は、職員2名、担当者と他学級等の応援の20名程で活動が始まりましたが、応援

担当者の割合が多く、昨年と同じ4コース制をしくことになりました。

担当者募集活動の地道な努力が実って、田園調布学園大学の学生をはじめ、他大学の学生の担当者も増えましたが、継続して参画していただくことは難しい状況でした。年度終わりには、職員、応援等を除き17名の担当者体制でおこなうことになり、例年以上に厳しい状況となりました。

担当者会では、主に各コースの活動の振り返りと、今回の活動予定を全体で確認することを中心に話し合いをします。振り返りでは、各コースの一日の流れや当日の青年の様子や発言、気づいたことなどを全体で共有しました。また、担当者と担当職員のグループLINEを作成し、担当者会に参加していない方も含め、全体で共有する形をとりました。また、問題点の解決策を話し合ったりして、コース活動での参考として学んだり、より良い活動をつくっていくための担当者間の大切な情報共有の場となりました。今回の活動の予定では、当日の担当者体制や、部屋割り、用意する備品、送迎などを詳細に確認していききました。この確認によって当日はスムーズに活動に入ることが出来ました。そして、職員からの連絡事項やニュース作業について、全体で確認、共有していききました。

各コースの担当者は、社会人を中心としたコースと、社会人と学生が協働するコースがありました。

担当者会に参加できない当日担当者も多く、担当者会だけでは十分な振り返りができないので、学級活動の後、ひかり療育園の退室時間の制約もあるなかで、30分程度の振り返りを行いました。活動終了後の集まりは、経験豊富な当日担当者から、貴重な意見を聞くことができ、コミュニケーションも取りあえる大切な時間になっています。

担当者会は、19時からほぼ閉館までですが、実質話し合いは、20時ごろから始める状況でした。特に遠方から参加している担当者は、帰宅時間が夜遅くなります。安全の面からも、なるべく早く終われるように、担当者会の進行、内容面での工夫が必要ではないかと思われます。

(3) 土曜学級

今年度の土曜学級は担当者17名（うち当日担当者2名）という厳しい状況が続いています。そのため昨年度に引き続き4班体制を継続しました。他学級の担当者の応援もあり成果発表会まで活動することができましたが、担当者ひとりひとりの負担が増しています。

活動直前の担当者会では出欠確認や活動内容、持ち物の連絡のため青年への電話かけを行います。この電話かけは、活動中に言葉で自分の意思を表現するのが難しい青年の自宅での様子や、長期の

休み期間（正月、夏休み）の様子などを確認することができ、また家族や青年と信頼関係を築くために重要なものだと考えています。

そのほか学級日前の担当者会では、今回の活動内容を班ごとに発表して送迎や部屋割り、応援者についてなど学級日当日の詳細を決めます。それ以外には生涯学習センターからの報告、青年の様子、連絡事項について全体で話し合いました。

学級日後の担当者会では、学級日当日の活動の振り返り、班長会やつどい委員会の様子を話しました。担当者会の中では、さまざまな話をしていききました。内容によっては一度の担当者会では決まらない時もありますが、その時は次週の担当者会に持ち越しをして継続して話し合いました。

昨年度とは担当者の入れ替わりがなく、経験の多いベテラン担当者が中心となり班活動を行いました。年間を通して新しい担当者の参加が少なく特に若手が不足しているため、担当者の募集が急務になっています。

担当者会では事務的な確認のほかにも青年との関わり方や学級活動の意義といった活動を行ううえで重要なことが話し合われ、担当者同士の経験を伝える重要な場所です。しかし夜間に行う担当者会への参加が難しい当日担当者と、いかに情報共有を行うかが課題になっています。開級式直前や日帰り旅行直前、成果発表会直前などイベント前の、情報共有や話し合いが特に重要になる会議には当日担当者にも出席していただけるように呼びかけを行っています。今後、さらに情報共有と担当者の方向性を合わせることを目的として、学級日当日に振り返りの時間を設ける、夜間に出席が難しい人のため学習会を日中に開催する、また担当者会での議論の内容をニュースに記載し、当日担当者にも知ってもらおうといったことを検討し、より充実した学級活動が行えるように努めていきたいと思っています。

2 学習会

(1) 開催実績

①映画「夜明け前」上映会

日時：9月5日（木）19～21時

場所：生涯学習センター ホール

講師：まちされん代表 小野 浩 氏

特徴：意見交換の題材として映画があり、その後に参加者を3グループに分かれ、グループワークを行いました。参加者からの声としては、他学級の担当者からの意見が聞けたことが良かったという声が多かったです。

②まちされん合同学習会

講演「本人本位の支援を改めて考える～ある

障がい者施設の姿から見えてきた課題～」

日時：10月17日（木）19～21時

場所：生涯学習センター ホール

講師：和泉短期大学 教授 鈴木 敏彦氏

特徴：津久井やまゆり園事件後、入所者や職員はどのような変遷をたどっているのかを共有したうえで、本人本位の支援とは、何かを考える場となりました。

③父母会学習会

「株式会社経営のグループホームの現状他」

日時：2月10日（月）10～12時

場所：生涯学習センター ホール

講師：株式会社ポルタオーラ代表取締役

関端氏（グループホームわおん）

Hope&Co 株式会社代表取締役

小泉氏（希望の樹まちだ）

アイワサービス株式会社事業統括部

長 山崎氏（あいわホーム）

特徴：父母会主催の学習会では、これまでグループホームに係る学習会が実施されてきましたが、近年社会福祉法人ではない法人による経営が始まっていることを受け、実際に運営している代表者から直接事業紹介をしてもらい、質疑の時間を設けました。

（２）課題と展望

今年度も学習会委員主催の学習会を開催することができませんでしたが、他学級の担当者間でのグループワークや、まちされんとの合同学習会が示すとおり、内外をまたぐ他組織との交流がキーワードとなりました。

このことは、近年、学習会委員が組織的に活動できていない中、社会教育の場として、担当者は青年に対する支援者であると同時に主体的な学習者でもあることを示す、ひとつの成果と言えます。

しかしながら、担当者間、そして職員と学習会の意義の再確認と、安定的な学習会を開催する仕組み作りが必要となっています。

3 調整会

調整会は担当者会の代表の学級主事（各学級 2名）と職員 3名とで構成され、青年学級を実施するにあたり、全体的な条件整備や調整を行い、担当者会に提示していく役割を持っています。学級全体のことや、これからのことを考える会議でもあります。今年の特徴としては、文科省委託事業に係る活動を調整する場ともなりました。

今年度は、6月12日、9月5日、12月12日、2月6日の4回開催しました。

初回は、各学級の主事と職員の紹介、各学級の人数やコース、今年度の予定について報告を行いました。

2 回目は各学級の近況報告と、合宿や日帰り旅行の応援依頼、生涯学習センターまつりの分担、文科省委託事業の募集などを行いました。

3 回目は、サルビアロータリークラブ主催「ふれあいコンサート」にわかそよ合唱団に出演依頼を受けたことから出演調整を行いました。

調整会という場の中では、学級を取り巻く様々な検討事項について、対処していくとともに、学級全体で取り組む事項に対応できたことは、一定の成果と言っているかと思います。

4 回目は、成果発表会や新人募集などについて調整を行いました。新型コロナウイルス感染拡大を受け、話し合われた内容通りに実施することはできませんでした。

しかしながら、現在、学級生の高齢化や担当者不足など、青年学級には様々な問題があります。現在休止中の障がい者青年学級将来検討委員会を再開するなど、父母会等と一緒に青年学級の中長期的な問題を早急に考えていく必要があります。そのパイプ役を調整会が担っていくことができれば、解決の糸口が見えてくると思われます。

今後の青年学級をより良いものとするため、調整会の役割、運営の仕方、議論していく内容について職員とともに深く考え、検討していくことが求められます。

第2章 送迎検討委員会

1 これまでの経過

青年学級では学級開設以来、一人で学級に通ってることが難しい青年の通級をどう保障するかについて、大きな問題となっています。送迎の必要な青年の通級は、現在特定の青年への自主通級へ向けての援助を除いて、ほとんど家族の送迎に頼っているのが現状です。

担当者会では1981年度に、公的な送迎保障を求めて町田市長への要望書や市議会請願書（本会議で否決）を提出し、この問題をアピールしてきました。1992年度からは「青年の生活における送迎の意味や、今、青年学級でできることは何かを考え送迎保障をめざす」ことをねらいとして、『送迎検討委員会』を組織し、担当者会メンバーに父母会の役員も加わって検討を始めました。何回かの話し合いと青年及び家族への計2回の調査を経て、1995年度より一時送迎を実施することになりました。

この一時送迎をはじめめるにあたり、ねらいを「送迎する家族の事情で学級を休むことにならないよう」、しかもそれは「送迎を必要とする青年や家族と担当者個人との関係で送迎を行なうのではなく、『青年学級全体の取り組み』として送迎を行なう」とし、確認しました。

2 現在取り組んでいる一時送迎の内容

- ① 一時送迎が必要な人は原則として、学級日前の担当者会のある木曜日までに公民館へ連絡し、担当者会で送迎を行なう担当者を調整する。（当日の送迎の要請にもできるだけ対応していく。）
- ② 送迎方法については、自家用車では事故があった場合の保障が十分でないため、できるだけ公共の交通機関を利用する。
- ③ 送迎に要した費用のうち電車代・バス代については、青年本人の交通費は全額本人負担、送迎を行う担当者の要したバス代、電車代は送迎運営費から支出する。タクシーを利用した場合は、かかった費用の2割（端数は四捨五入し、100円単位で支払う）を青年が負担し、残りを送迎運営費から支出する。自家用車を利用した場合は、送迎運営費より送迎を行なった担当者に片道200円を支払う。
- ④ 担当者と父母で一人年間300円を負担し、これを送迎運営費とする。
- ⑤ 送迎中に事故があった場合の保障として、町田市の「全市民加入型 ボランティア活動災害補償保険」を活用する。

3 現在行なわれている送迎の状況

青年学級で行われている送迎には一時送迎も含め以下のようなものがあります。

（1）自主通級を目指して行なう送迎

自主通級する力はあるのですが、道順をなかなか覚えることができなかったり、ちょっとしたことで混乱してしまったり、安全に通級することが難しいといった青年に対して、将来的に自主通級できるようになることを目指し、援助をしています。

家まで迎えに行く、通級途中で待ち合わせるなど青年の状況に応じて行なっています。

（2）家族の都合で送迎ができなくなった場合の「一時送迎」

家族の体調不良などの利用により、いつも送迎をしている家族が送迎できない場合に一時的に担当者が送迎しています。その他に慶弔や、送迎を行なう車の故障、施設の一時利用のため等の理由があります。

一時送迎の制度が広まってきたことにより、送迎者の都合などで、学級に参加できないということが減っています。

しかし、親の高齢化や本人の施設やグループホームへの入居により、継続的な送迎保障がないと学級に参加できないという青年が年々増え、実態として「一時送迎」にとどまらない現実も出ています。

（3）普段とは違う場所で活動が行われる場合の送迎

ひかり学級の成果発表会は、いつもの活動場所であるひかり療育園ではなく、まちだ中央公民館で行っています。

このように活動場所が変わる場合、「行ったことがない」「普段行き慣れないところで不安」などの理由で、直接その会場へ行けない青年が多くいます。そこで一旦通り慣れた場所（まちだ中央公民館・ひかり療育園）に集まってから会場に向かうといった送迎体制をとっています。普段は送迎を必要としない青年にとっても、送迎は共通する問題であると言えます。

4 今年度の検討内容

今年度の送迎検討委員会は、2014年度に開催して以来、時間的な都合で担当者が集まることができず、開催することができませんでした。

ただし、送迎について調整会の場でも話し合いが持つ機会がありました。その中では、ひかり学級では送迎をしているのは1名だけであること。土曜学級には送迎の必要な青年がいないこと。公民館学級では数名の送迎が行っていることその他、2年間精算できていなかった状況を精算できたことが共有されました。

の可能性を探っていくことも課題として挙げられています。

5 今後の課題

（１）担当者の費用負担軽減

送迎に対応した担当者は費用を立て替え、後日送迎検討委員会で精算をするのですが、担当者と送迎委員が会えない日が続くと時に数千円の立て替えの累積が発生し、担当者の経済的負担にもなります。担当者の負担を軽減する意味でも、迅速に費用精算できる仕組みの検討が必要です。また、学級によっては、送迎の記録がしっかり記載できていない状況もあり、送迎検討委員会の立て直しが急務となっています。

（２）送迎についての情報共有

ここ数年は当日のみの担当者が送迎を行うことが多くなってきましたが、当日送迎する担当者が担当者会に出席していない等の理由で、送迎の話をする機会をあまりつくりていないのが現状です。

「なぜ一時送迎を行っているのか」といった送迎についての意義や、送迎検討委員会が組織されるまでの経緯等について担当者間で共有していくとともに、比較的経験年数の少ない担当者や担当者会に出席していない担当者についても、送迎運営費を集める理由や送迎検討委員会の存在意義を伝えていく必要があります。

（３）一時送迎の周知

今後、青年の高齢化・家庭環境の変化により、グループホームや施設等に生活の場を移す青年が増え、送迎の必要性も高まってくることが考えられます。

その一方で、一時送迎のことを知らない家族や、送迎を遠慮している家族もいるようなので、「送迎のしおり」を作成したり、父母交流会やニュース等を通じて送迎委員会の活動を伝えることが求められています。

（４）制度の活用

最近ではガイドヘルパー制度を利用して学級に参加する青年も増えてきました。ガイドヘルパー制度も「障害者自立支援法（現「障害者総合支援法」）の施行以降、大きく変わってきており、今後ガイドヘルパー制度の利用について、その制度の内容や利用方法等を確認するとともに、一時送迎とガイドヘルパー制度の利用について、その利用

第3章 父母会

父母会長

2019年度の始まりはスムーズだったが、終わりが新型コロナウイルスの影響で、学級生の活動も、土曜学級のみ成果発表会ができたものの、公民館学級とひかり学級はできなかった。青年たちは大いに残念がっていた。父母会の活動も、学習会まではできたものの、期末の役員会や総会が開けず、書類の印刷もできず、尻切れトンボ状態だった。

7月のスタッフと父母の交流会は95名の参加があり盛況だったが、いつものことながら出欠の連絡がギリギリだったり、当日急きょ出席する方や欠席する方がでたりと、お弁当を用意する側としては、てんてこ舞いになり、役員泣かせである。ひかり学級ではお弁当が足りなくて、役員が半分ずつ食べたとの報告を受けた。余分に用意したつもりだが申し訳なく思う。班により出席者の数に差が出るのは仕方ないのかもしれないが、必死に人集めをするのもどうかと思う。出席者の顔ぶれは毎年ほぼ同じだし、参加しにくいのは、夜の会合ということも影響しているだろう。親の立場とスタッフの立場で違うのは承知しているが、そろそろ考えなおす時期なのかもしれない。

合宿の手伝いも昔に比べれば、夕食の後片付けだけで、楽になったと思うが、夜のお楽しみ会用の菓子の準備に遅くまで待たされ、障がいの子を家に残している親としては、辛かったという言葉がきかれた。

学習会は、今回はグループホームを運営している一般企業の方3名に集まっていたき、それぞれの特徴を話していただいた。社会福祉法人やNPO法人が運営するのと違い、建物への補助がないので、中古住宅を改装しているケースが多く、近隣とのトラブルを回避するためにタバコを吸う人や騒ぐ人はお断りするとのこと。動物（主に保護犬）を飼い、アニマルセラピーも兼ねる事業主や、主に軽度の精神障がいの方を預かり、ほとんど自立しているが、相談に乗ったり、ストレスのガス抜きを手伝っていたりという事業主がいた。また会場からは、会社経営なら利益を優先するために利用者が不利益を被ることはないか、世話人の人件費を安く抑えることはないかとの質問も出された。企業努力しているとのこと。住民の反対運動はなかったかとの質問には、会場から地主が建てようとしたが、反対に遭い断念したというケースが話された。口コミで会員以外の方も多数参加してくださり、用意した資料が足りないくらい盛況だった。

第 7 部 青年学級によせて

第1章 青年学級によせて

ひかり学級

朝比奈 康太

ひかり学級に約4年程、通うことが出来てとても充実していましたし、思い返すと長いようで短いようなあつという間の出来事でした。中々、うまくいかないこともありましたが、その都度一緒に考える活動はとても楽しかったです。

初めの頃は右も左も分からないままで、ただただあたふたしていましたが、ひかりの皆さんが優しく受け入れてくれたことによって、「また来よう」と思えました。皆さんはすぐに名前を覚えてくれたので、私も早く名前を覚えようとそんなことから始めていきました。でも、些細なことかもしれないけれど名前を覚えてもらうということは、「そこに居場所が出来る」といった大きな意味が込められています。だから、初日で「朝比奈さん」と言って貰えるのは本当に嬉しかったです。

何回か通っていくうちに受け身ではなく、よりよく活動するためにはどうしていこうか自ら発信していきました。いつも同じことをするのではなく、青年の皆さんがやりたいことと楽しめることを同時に考えて、新しい定番を作っていこうと努めました。特に印象深いのはボッチャを取り入れた時です。予算もかかることで大変でした。でも青年の皆さんの思いを受け取って、公民館の職員に提案して実現できたときは本当に嬉しかったです。それに青年の皆さんやご家族の皆さんも大きく賛同してくださったのも後押しになりました。4つのグループの垣根を越えてボッチャを楽しむ姿を見ることが出来たのはひかり学級にも新たな変化を生めたのかなと思っています。

最後に大学生活の中でひかり学級の皆さんに出逢えたことは大きな財産ですし良い思い出ばかりです。これからも皆さんのご活躍を期待しています。

樋田 五気

2019年度のひかり学級は、みんなで和気あいあいと楽しんだことが印象的な活動でありました。私の担当したコースが外出に積極的なグループだ

ったこともあり、室内だけに学級活動を留まらせることがない、自由で楽しい学級活動をしていました。活動場所であるひかり療育園の近くでお祭りがあった時には皆で出向き、屋台でご飯を買って食べたり、ダンスチームの発表したダンスに合わせて踊って、会場をより盛り上げるなどの元気な姿が見られました。また、レストランへの食事に行く活動の際には、車椅子の学級生も一緒に行けるレストランで楽しい食事の時間を過ごすなど、とても楽しそうな面が多く見られました。

室内でもボッチャをコース対抗で対戦して盛り上がったりと、学級生は室内でも外でも大変楽しそうな表情を見せていました。

担当者であった私は、そうした活動を学級生が実行できながら学級生の自主性を尊重するように「補助」するのではなく「寄り添う」ことを心がけてきました。そうしたことで、学級生が行う活動に私自身も楽しい思いで参加させてもらい、ひかり学級の青年たちには、人を楽しませる力があるのだと学級活動と通じて感じることができました。

2020年度は新型コロナウイルスの感染防止のために多くの物事が制限され、私の知る学級生たちがひかり学級で思い通りの活動ができないことを考えると、悲しい限りです。新型コロナウイルスが終息した時、再び学級生たちの考える皆が楽しめる学級活動ができることを心よりお祈り申し上げます。

第2章 新人担当者として関わって

公民館学級

大高 綾音

私は青年学級に出会い、青年たちから多くの感動と命の声をもらいました。青年学級は命たちが美しく光輝く場所だと私は思っています。

青年学級は私に「命を生きること」の大切さを教えてくれました。青年たちは天から与えられた唯一無二の命に誇りと感謝をもって生きています。生きることの喜びと幸せを知らながら人生を歩み

続けるその姿は私の心に感動を与えてくれました。だから青年たちの歌、青年たちが作った作品、青年たちの口から出る言葉はどれも力強い思いがありました。命を有耶無耶にすることなく真剣に向き合い自分の命を愛するならば、こんなにも人のこころに変化を与えることが出来るのかと感銘を受けたことを今でも覚えています。自分も青年たちのようにどんなことがあっても愛する命をもって強く生きたいと思いました。

青年学級に携わるようになってから「自分の居場所」があるということの大切さを知りました。

「自分の居場所」とは自分の存在を認めてくれ、気にかけてくれる仲間がいて、自分の話したいことを素直に言える場所だと思います。「自分の居場所」があるから生きること甲斐を感じ、喜びがあるのだと思います。自分にとって大切な「居場所」があるということは人の心を救うことが出来るのだと青年学級を通して、また青年たちの生き生きとした姿をみて感じました。青年学級は私にとってかけがえのない自分の居場所です。

これから青年たちと担当者の全員で一緒に歌を歌い、作品を作り上げていく思い出が自分の心に刻まれていくと思うと嬉しく思います。私も青年学級にかかわる一人の担当者として、青年たちと担当者一人一人の力強く美しい命と共に懸命に生きていきたいと思います。

日下部 洋介

ご縁あって、青年学級に関わらせてもらうことになりました。

初めて公民館学級に参加させてもらったとき、朝の集いでみなさんが学級ソングを歌っている姿を見て、安心して表現できる場なんだと感じました。まだ右も左もわからず、何をしたら良いかと固まっていたら、入らせてもらうコースの青年のかたが、手を繋いで活動がある調理室まで連れて行ってくれました。受け入れてもらったような気がして嬉しかったです。悩んでいる時には、青年のかた達から「どうしたの」と声をかけてくださったり、一歩踏み出すきっかけをもらったりと、もらってばかりです。

担当者としてできることは何かと考えると、なか

なか見えてこなくて、学級活動、担当者が終わる度に、なにもできていない気持ちと焦りで、ただ時間ばかりが過ぎていきました。

ですが、青年学級のみなさんと、一緒にご飯を食べたり、学級ソングを歌ったり、学級活動をして過ごさせてもらう中で「学び合うことに立場は関係なく、ともに学びたい」ということが見えてきてから、少しずつ自分が変わり始めたように思います。

そうした気づきと出会いながら続けていく中で、コロナウィルスによって社会が大変な状況になりました。

この状況で、青年のみなさんの居場所をどう守っていくかということ、担当者、職員のみなさんとで、お互いに信頼し合って、お互いの意見を尊重しながら話し合い、活動方法を模索する姿をみて「信頼と尊敬の気持ちを持ちながら人間関係を築いて、社会の中で生きていきたい」と思いました。

それは、大きな学びでした。

まだ自分の意見をひとに伝えることも、緊張感でいっぱいですが、そうしたところも含めて、ひととして、一から学ばせてもらえる場所、学び合える場所と出会えたことに感謝しています。

関 俊夫

「あなたの想いを聴かせてください。」

これが、本活動に参加させていただくわたしの動機です。

世の中には、自分を含めて、何らかの理由や原因があって、自分の想いをちゃんと伝えられないまま悶々としている人がいます。その中でも、周囲の差別や偏見にさらされ、大切な家族にすら理解してもらえず、ついには自暴自棄になり、非行や犯罪を犯してしまう人もいます。わたしは、矯正教育という名の下に、心理学、教育学、福祉関連の学問その他の専門的な知識や技術を活用して彼らと関わってきました。「もう大丈夫。新しい生き方してみます。」と笑顔で応えるも、社会に出ると前の自分に戻ってしまう者も多いです。どうして？何が必要？わたしにできることって何？と自問し、今でも試行錯誤しています。

「わたしの想いを聴いてください。」

家族のこと、仲間のこと、大切なこと、感動したこと、好きなこと、嫌いなこと、生きること、夢、希望、…わたしは、主に「くらし」コースの活動に参加させていただいていましたが、皆さんが、それぞれに自分の想いを伝えて、それをみんなが受け止め、共有していくことで、仲間を大切にする気持ちは一層高まり、また、新たな発見や思いへと発展していきました。わたしにとって、たいへん興味深いことです。

「きょうもありがとう」

活動が終わると、わたしを含めて、みんな感謝の気持ちでいっぱいになります。

ここには、きっと、どんな高度な知識や技術より大切なことがあります。

ここには、きっと、わたしが求めていること、わたしにできることがあります。

春山 祥子

青年学級を知ったのは、公民館の脇にあるポスターです。私は以前、(障がい者)施設に勤務していたこともあり、別の角度から幅広い年代の方とお話しをしてみたいと思い、参加しました。初めて聴いた学級ソングは、青年たちの心の中の気持ち、仲間の大切さなど表現されていると思います。

身体を動かしたり、楽器を使って楽しそうに全力で取り組まれている姿が印象に残りました。元気で明るいパワーをもらいました。そして、コース活動の中で、自分の考えをしっかりと持ち、意見を言い合い共有すること、一人ひとりの想いを大切にしていると気づきました。

学級活動に参加して、私自身の勉強になりました。貴重な学び場であり、関わらせていただいていることに感謝しております。ありがとうございました。

星野 芳朋

私と町田市障がい者青年学級との出会いは大学の生涯学習の授業の中でありました。先生や公民館の職員さんや先輩ボランティアさんたちのお話を聞いたり、学級ソングや動画を見せていただきました。それまで青年学級のこととは全く知りませ

んでした。ボランティアの経験もないし、障がいのある方々と直接関わることもありませんでしたが、とても楽しそうに活動している皆さんの様子を見て、実際に行ってこの目で見てみたいと思いその日のうちに見学を申し込みました。

私が初めて参加した日は開級式でした。事前の説明を聞いている時も緊張と不安でいっぱいでした。学級生と初めてお会いした時も何をどう接したらよいのかわからず、ほとんど話せませんでした。次の学級日から私は劇ミュージカルコースの担当になりました。最初はやはり緊張しましたが、声のかけ方、介助の仕方などひとつひとつ教えていただきながら少しずつわかるようになってきました。私は、学級生の方々の笑顔に励まされたり幸せな気持ちにさせてもらったりすることがよくあります。これからは、この思いを私が学級生の方々にお返しできるよう自分のできることを少しずつでも見つけながら努力していきたいと思っています。

今はコロナの影響で思うように活動できない状況ですが、皆さんと一緒にがんばります。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

横田 靖子

青年学級に興味を持った理由の一つに、学生時代のサークル活動経験があります。私は当時、地域の知的障がい児との余暇活動に携わっていました。子ども達と触れ合う中で、次第に、彼らの内面を理解したい欲求に駆られるようになり、足りない頭でせいぜい考えていました。

卒業後、未だに彼らへの関心が尽きなかったことと、地元の方々とかかわりたいという理由から、類似団体を探し始めました。青年学級を見つけたとき、活動内容が想像できず、好奇心がむくむくと膨らんだことを覚えています。

初めて見学させていただいたのは、わかそよを目前に控えた全体練習の光景でした。学級生の皆さんの歌声と、スクリーンに映し出された歌詞に心を打たれ、思わず目頭が熱くなったことを思い出します。なんだか形容しがたい強烈なエネルギーが、この空間には充満している。気づいたら私は、次回以降の参加連絡に二つ返事で回答してしまし

た。

参加するたびに、新たな学びや気づきがあり、とても刺激になっています。初めて筆談でのやり取りを目にした時は衝撃的で、今まで気付かなかった彼らの思いや考えが繰り広げられていく姿に釘付けになりました。私はこれまで、他者の考えを本当に理解しようとしていたのだろうか、少なからず自身の思い込みで彼らを狭めてはいなかっただろうか。再び自問する契機となり、価値観が変わった瞬間でした。

何も伝手がなかった私を、快く受け入れてくださった皆様には、大変感謝しています。このような活動は、信頼関係を築くことが何よりも重要だと考えています。環境が変わった現在、精力的な参加が難しいのですが、私なりに、細く長く関わっていけたらと思っています。至らない部分ばかりですが、今後ともどうぞよろしくお願いします。

若林 一哉

青年学級との出会いの切っ掛けは、仕事を辞め、脳に障がいがあるということを知ったことがきっかけです。

障がいについてもっと知りたい。障がいを持っている人と触れ合うことによって今までとは違う自分を発見できるかも知れない。何かしら自分の中で生まれ、そして芽生えるかも知れない。活動に参加することで福祉という世界に触れ、自分に合った世界なのか、仕事としてやれるのか確かめたい。などなど色々な思いがあり活動に参加してみようと行動を起こしました。

参加して感じたことは、「みんなスゲーな。」「みんな生きてるんだな。」です。

みなさん普段は仕事をされていて、週末になるとこの活動に積極的に参加しにくるし、この活動が無い日は自分の趣味に没頭しているし、活動日を待ち遠しく思っている人たちが多く、何でもそんなに明るく生き生きとしていられるのか不思議でなりませんし、羨ましく思います。

そんなみなさんを見ていると、障がいの重度、軽度ではありますが、障がいを抱えててもみんなそれがあたりまえで、何ら変わらないみんな一緒な

んだなと、思うようになりました。(私自身もそうですし、

世の中の人みんな一緒なのに。

一緒の場所で生きているのに、

「できてあたりまえができない人は、

まわりからは理解されない存在って何？」と、感じてしまう時があります。)

活動に参加し始めた頃は、どうやってみんなと接すれば良いのかわからない状態で参加していたのでただの見学者でしたが、その後、ものづくりコースに参加する回数が増えるにつれ、みなさんと意思疎通が出来ていった感じがあるので良かったと感じています。

そんな一年目が終わり、二年目という時に、コロナウイルスの影響で、通常通りの活動ができなくなってしまったのが痛いです。

定期的に活動に参加していかなければ、参加しなくなってしまいそうです。

始めたばかりのこの縁を何とか繋げていけるようにしていきたいとは感じています。

土曜学級

鈴木 幸江

昨年3月に町田市ボランティアセンターにて教えていただき、担当職員さんに面会に行った日は土曜学級の成果発表会の日でした。

学級生の皆さんの笑顔に触れた時「この人達と一緒に居たい！」と思いました。

丁度わかそよコンサートの練習が始まっており、即参加させて頂きました。練習から本番までの間にたくさんの学級生の皆さんと触れ合うことができました。そして、そのまま学級活動に参加。この一年、たくさんの楽しい場面に出会うことができました。これからも学級生の皆さんの笑顔の為に精一杯尽くさせていただきますので宜しくお願いします。

堀部 秀人

私が青年学級を知ったきっかけは友人の紹介でした。私自身ボランティアの経験がなく初めて

であったのでいろいろと友人に話を聞きました。
ただ私は以前民間会社に勤務していて身近に知的障害の方と身体障害の方と職場でふれあう機会があったので、一度積極的にボランティア（学級活動）に参加してみようと思い立ちました。

私は土曜学級で約半年間活動し、現在はコロナウィルスの影響により学級活動も中止せざるを得ない状況になっていますが、初めてクリスマス会、新年会で青年と触れあって、それぞれひとり一人が個性をもって生き生きと生きる姿を目の当たりして私自身勇気づけられました。

今後は青年ひとり一人の個性を尊重しつつ共にプログラムを通して相互理解に努めながら歩んでいきたいと考えています。さらに青年たちが地域の中で生き生きと健やかに過ごせるように青年たちと共に手と手を取り合いながら学級活動にいそしんで行きたいと思うしだいです。

資料

年 表

町田市障がい者青年学級の歩み

1973年
(S. 48)

- 親の要求 → 障がい者のための青年学級
 ～非行に走らないように～
 ＊育成会 ＊福祉事務所ケースワーカー
 ＊社会教育課長 ＊精薄指導員
 ＊社会教育主事
- 準備期間（社会教育主事）
 ◇ゆたか作業所（名古屋） 訪
 ◇宮津青年学級（京 都） 問

町田市障がい者青年学級準備会

- ＊青年心理研究者（1名）
- ＊人形劇研究者（1名）
- ＊社会教育主事（2名）
- ＊社会教育関係者（1名）

- ◇参加者募集
- ◇説明会
- ◇要領作成
- ◇映画上映
- ◇スタッフ募集

ねらい

障がい者青年が豊かな生活を築くため、仲間たちと話し合ったり、学習したり、思いきり遊ぶなかで、生きる力や働く力を獲得することをめざす。

1974年
(S. 49. 11)

20名

一
年
目

時 間 割			
	<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>
内 容	各自が学校卒業後の生活の中で「学びたいこと」	集団芸術活動を通しての集団化	青年自身のものとして、生きる力、働く力、自立心
	数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい ①仲間づくり ②創造する喜びを集団で ③生活の見つめ直しと表現力育成	

<担 当 者>

- ＊市内の教師（5名）
- ＊福祉施設作業職員・児童学園職員（3名）
- <行政職員>
- ＊ケースワーカー（2名）
- ＊社会教育主事（1名）
- 計11名

父母会誕生

月2回の青年学級予算が決まる

1975年
(S. 50)

32名

二
年
目

時 間 割			
	<各自の課題>	<人形劇作り>	<話し合い>
学 級 生 の 高 齢 化 30 ・ 40 歳 の 多 様 化	数 学 国 語 技術工作 美 術 音 楽 手 芸	ねらい 思いきり体を動かす。	ねらい 自分の思っている事をはっきり言う。
	☆ 小集団編成 生活班 ☆ 全員が役割 「よくばりこぐま」上演 ☆ 運営委員会		

<担 当 者>

- ＊学生・市民（12名）
- <行政職員>
- ＊社会教育主事（1名）
- ＊社会教育職員（1名）
- ＊ケースワーカー（2名）
- 計16名
- ・健常者青年学級演劇コースに初めて2名参加
 （障がい者青年学級・健常者青年学級に両方参加）
- ・障がい者に対する差別観念のたたかい
- ・K・Yさんの家出
- ・テレビ出演問題（76年2月）
 ↓
- ・文集づくり→ 文集委員 ↓

1976年 (S. 51) 37名		時 間 割			<div>・「通級可能な者」をとりはずす</div> <div>・二学級制検討</div> <div>①数的増大</div> <div>②要求多様化</div> <div>③担当者の能力限界</div> <div>父母との話し合い、青年の要求をふまえて</div> <div><担 当 者></div> <div>*学生・市民 (15名)</div> <div><行 政 職 員></div> <div>*社会教育主事 (1名)</div> <div>*社会教育職員 (1名)</div> <div>*ケースワーカー (3名)</div> <div>計20名</div> <div>・フェスティバル→学級として参加</div> <div>・生きがいコース・料理コースの検討</div>	
三 年 目	<div>数 学</div> <div>美 術</div> <div>国 語</div> <div>技術工作</div> <div>サイクリング</div> <div>音 楽</div> <div>手 芸</div> <div>↓</div> <div>手芸サークル化 (あみもの)</div>	<div>ねらい</div> <div>どうやって青年 を劇づくりの主 役にするか。</div> <div>☆要求別劇班</div> <div>①人間劇班</div> <div>一言いたい事を読み合った</div> <div>②オペレッタ班</div> <div>一へっこき嫁さん→体を動かす</div> <div>③かげえ班</div> <div>一あわて床屋</div>	<話 し 合 い>			
				☆ 運営委員会 (土曜午後)		
				☆ 実行委員会 (フェスティバル・クリスマス)		
1977年 (S. 52) 42名		二 学 級 生 実 施			<div><担 当 者></div> <div>*学生・市民 (15名)</div> <div>*地域青年 (2名)</div> <div>*人形劇団員 (1名)</div> <div><行 政 職 員></div> <div>*社会教育主事 (1名)</div> <div>*社会教育職員 (1名)</div> <div>*ケースワーカー (3名)</div> <div>計23名</div> <div>・担当者会の移行</div> <div>①任務分担</div> <div><div>・文化活動担当</div><div>・条件整備担当</div><div>・生活担当</div></div> <div>②かわり方の明確化</div> <div>③学級主事 代表者会</div> <div>設置</div> <div>・学習会 (月1回) 行なう</div> <div>・土曜学級生きがいコース</div> <div>・料理教室</div> <div>開催</div> <div>・地域へ</div> <div>①盆踊り大会→土曜学級実施</div> <div>②ゲーム大会→ゴボーの会と</div> <div>・送迎 — 教育としての送迎 職員の負担</div> <div>・父母会 — 通勤寮構想</div> <div>・公運審 — 父母等が参加</div>	
四 年 目	☆ ねらいはくずさず、二学級別々に運営する。					
	☆ 午後 (文化活動・話し合い) →生活班 四つの基礎集団 (一学級二班)					
	時 間 割					
改 築 の た め 町 田 第 一 中 学 校 へ	<div>① 手 芸 班</div> <div>→サークル</div> <div>② 手 芸 班</div> <div>① } 学 習 班</div> <div>② }</div> <div>① } スポーツ班</div> <div>② }</div> <div>音 楽 班</div>	<div>ねらい</div> <div>集団としての自 治の高まり</div>	<話 し 合 い>			
				<各自の課題>		
				<人形劇作り>		
青 年 の 多 様 化 (年 齢 障 害)	☆ 生活班としての劇づくり					
	①かしの木班「泣いた赤鬼」 —— 友情 —— 「人形劇」					
	②ラーメン屋班「むぎひとつぶ」 —— 青年の気持ちをひきだす ——					
		③くりご班「ももたろう」 —— 重たい人をどうまきこむか ——				
		④ごろね班 —— 感想をつづらせる ——				
		○素材として劇は妥当かどうか				
		☆運営委員会 (やりたいものの学級運営にたずさわる)				
		☆実行委員会 (クリスマス会) 劇会ベース (担当者) では自治活動がすみあげられない。				

改
築
の
た
め
公
民
館
↓
町
田
第
一
中
学
校
へ

青年の
多様化
(年齢障害)

1978年
(S. 53)
49名

五年目

改築後
町田第一中学校
↓
公民館へ

3つに分かれた時間割りを2つに減らす

各自の課題・劇づくり・話し合い

青年の自治活動に重点移行

班活動・各自の課題

(話し合いは班活動・各自の課題に随時入れる)

①集団的文化活動 劇づくり→行事を節に

②班→四つの基礎集団 (一学級二班)

③運営委員会 劇会→

班長会・実行委員会へ

時間割

<班活動>午前

<各自の課題>午後

前半—キャンプ

後半—班ごとの活動

①ペンペン草班

・楽しみ仲間を意識し話し合いを成立させる
・お料理

②デン助班

・仲間を意識し、班活動を青年の手ですすめる

③トマト班

・援助し合い、自治活動を高めよう
・ソフトボール

④ひやかか店班

・班員を知り、青年の手ですすめ、青年間で助け合う
・ソフトボール

手芸班

工作班

美術班

スポーツ班

国語班

算数班

音楽班

A・B学級の枠を超えて編成

養護学校生は、各自の課題のみ参加(疲れ、家族との関係の為)
→午前・午後と集団の質の違い

☆ 班長の役割の不明確、青年の手で
→担当者の援助方法・班のみの行動

☆青年たちの要求

・自分たちの力でやりたい
・ゆったりとした学級をやりたい
・学習時間を長くしてほしい

積極的に受けとめ、ゆったりとした学級へ

担当者 → 学生増

(新旧交代)

代表者会 → 調整委員会へ

(担当者会で話しきれないもの)

<担当者>

*在宅訪問事業 (2名)

*地域青年 (2名)

*人形劇団員 (1名)

*学生・市民 (14名)

<行政職員>

*社会教育主事 (1名)

*社会教育職員 (1名)

*ケースワーカー (3名)

計24名

○ 地域へ

・キャンプ → ゴボーの会

・フェスティバル → 日曜実行委員会

・クリスマス会 → 実行委員会

・ソフトボール → 健康者青年学級
ゴボーの会

・スケート → 希望者

・料理教室

○ 送迎問題 → 運動方針出す

○ 学級卒業 → 夜間中学へ1名

1979年
(S. 54)
54名

六年目

☆ A・B学級でまとまろう

☆ 青年の手による自主的な運営をめざす

時間割

<班活動>午前

<各自の課題>午後

○A学級 { フレンド班
バラ班

○B学級 { ピンクレディ班
たんぽぽ班

・音楽班

・手芸班

・工作班

・学習班

・美術班

・スポーツ班

<前期>

・キャンプを通して仲間意識、
班意識、学級意識を高める

・キャンプの準備

(班内係・メニュー決め・調理実習)

<担当者>

*地域の専門家 (2名)

*訪問事業担当者 (2名)

*青年心理研究者 (1名)

*学生 (14名)

<行政職員>

*ケースワーカー (2名)

*社会教育主事 (1名)

*社会教育職員 (1名)

計23名

○地域の専門家に広がる

	<p><後期> 学級単位の活動 A タコづくり B レク・料理等班長会主導 ↓ 各班単位へ ・ピンクレディ班 — 野外活動・ゲーム ・たんぽぽ班 — 劇づくり ☆ 自治活動をすすめる上での共通体験、生活の広がりが必要 ☆ 重度の青年の発達過程をどう保障するか ☆ 成人（30代以上）にとっての課題は何か</p>	<p>○地域への広がり→クリスマス会</p> <p>日曜学級、地域のサークル、金曜教室、 「交流会の意義を考える」</p> <p>○送迎問題→運動の視点から考える</p>
1980年 (S. 55) 50名 <div>七 年 目</div>	<div> <div> 時 間 割 </div> <div> <div> <班 活 動>午前 </div> <div> <各自の課題>午後 </div> </div> <div> <前期> A学級 コスモス班 成人班 B学級 ハ班 ニ班 喫茶店学習・ウォークラリー・薬師池ハイキング ・映画 9月合宿 </div> <div> ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 </div> <div> 生活と共にし、ゆったりした中で生活を語り合う 重度の青年と共に活動する </div> </div> <div> <後期> ☆ 重度の青年をどうするか、青年たちの投げかけ、その結論より、自主的な活動を展開していく ○ 重度の青年と共に活動していくか ↓ 「いっしょにやっぺいこう！」(全班一致) ※ 重度者グループの解体 活動内容 コスモス班 — 劇 ハ班 — はり絵 ニ班 — 劇とはり絵 ※ 成人班は独自の活動を行なう ・重度の青年に対する班、独自の課題での取り組みにおいて、課題が不明確だった ・班で中心となる青年の位置づけと、担当者の援助の問題 ・成人、重度者グループ編成の際、メンバー選定の問題 </div>	<p><担 当 者> *地域の専門家 (3名) *学生 (16名) <行 政 職 員> *ケースワーカー (2名) *社 会 教 育 主 事 (1名) *社 会 教 育 職 員 (1名) *ひかり療育園指導員 (1名) 計24名</p> <p>父母会 (学習会)</p> <p>福祉事務所ケースワーカー近藤氏を招いての講演「障がい者の足の保障」</p> <p>クリスマス会</p> <p>公民館事業からクリスマス会実行委員会主催に移行</p> <p>文集づくり</p> <p>文集委員会が中心 文集の表題に「障害者青年学級」を入れることにより問題が起こった</p>
1981年 (S. 56) 54人 <div>八 年 目</div>	<div> <div> 時 間 割 </div> <div> <div> <班 活 動>午前 </div> <div> <各自の課題>午後 </div> </div> <div> A学級(班替え) ・ひまわり班 ・シクラメン班 ※成人班の解体 </div> <div> ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 </div> </div>	<p><担 当 者> *教育心理学の専門家 (1名) *学生 (16名) *市民 (5名) <行 政 職 員> *公 民 館 職 員 (2名) *ケースワーカー (2名) *ひかり療育園職員 (1名) 計27名</p>

<p>B学級（班替えなし）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ班 ・二班 <p><前期></p> <p>話し合い 仕事の悩み 家族の様子等</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観劇 ・プール <p><後期></p> <p>↓</p> <p>劇づくり 台本委員 （自主的な劇づくり）</p> <p>○ 生活上の抱えている問題を出し合う ○ 否定的側面が強調されすぎた ↓ 広く生活をとらえ直すことの必要性</p> <p>（注1）のびのび班—障がいの重い青年に必要な課題を特に設定したグループ。これは前年度班活動の中で取り組まれた重度者（からだほぐし）グループが発展的に解消されたもの。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術班 ・スポーツ班 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">重度者グループ</div> <p>→</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のびのび班（注1） <p>班長会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・学級日 ・第4日曜日 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">地域へ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい広場クリスマス会へ参加 ・自主的な学習サークル「すぎの子」誕生 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">送迎問題</div> <p>送迎委員会の再建</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の公民館利用を考える ・公民館利用者懇談会参加 「送迎を考える会」誕生
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">九 年 目</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 1982年 (S. 57) 52名 <div> <p>☆ 生活の見つめ直し（2年目）</p> <p>☆ 表現活動への取り組み</p> <p style="text-align: right;">※ 班替えなし（班名の変更）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">時 間 割</div> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1; border-right: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p style="text-align: center;">＜班 活 動＞午前</p> <p>A学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すみれ班 「～できる」という心 劇づくり（すみれヶ丘） ・さくら班 生活を広い領域でとらえ カードを文章化していく ことで、生活の自覚化・ 共有化をはかる <p>B学級</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハ班 「夢」を通して生活を見 つめる 劇づくり（ハ班の夢） ・スイートピー班 生活場面を表現する 劇づくり（13名の同窓会） <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・プール ・合 宿 ・狛江との交流 </div> </div> <div style="flex: 1; padding: 2px;"> <p style="text-align: center;">＜各自の課題＞午後</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 <p>・班長会</p> <p>・実行委員会 （合宿、狛江との交流）</p> </div> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">・班長会、実行委員会の役割が不明確</p> </div> </div>	<p><担 当 者></p> <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家（1名） *学生（11名） *市民（4名） <p><行 政 職 員></p> <ul style="list-style-type: none"> *公 民 館 職 員（2名） *ケースワーカー（2名） *ひかり療育園職員（1名） <p style="text-align: right;">計21名</p> <p><地域へ></p> <p>ふれあい広場クリスマス会へ参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すぎの子」 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>「さなえサークル」誕生 （水曜班、土曜班、日曜班）</p> <p><送迎問題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・署名運動の展開 ・議会への請願不採決

1983年 (S. 58) 53名	<div>十 年 目</div> <div>☆ 生活の見つめ直し（3年目） ☆ 青年の手による自主的な運営をめざす ☆ 新しい班で仲間を知り合う ☆ 表現活動への取り組み</div>	<div><担 当 者> *教育心理学の専門家（1名） *学生（9名） *市民（8名） <行 政 職 員> *公 民 館 職 員（3名） *ケ ー ス ワ ー カ ー（2名） *ひかり療育園職員（1名） 計24名 <サークル活動> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・土曜学級 <送迎問題> 学級活動の一環としてとりくむ 担当者間で位置づけにバラつきがあった</div>
	<div>時 間 割</div> <div><div><班 活 動>午前 (班替え) <前期> 話し合い お互いに知り合う 仕事のこと 生活の悩み など ・狛江との交流 ・プール <後期> ・合宿 ・もちつき大会 <表現活動> ・ガチャガチャ班（15名） — 人形劇づくり — 人形をとおして、自分を語り 自分の想いをアピールする ・チューリップ班（13名） — 歌づくり — 歌によって自分の意見や、思 いを表現する ・レモン班（13名） — 劇づくり — 自分たちの職場を紹介しあい お互いの理解を深める ・考える班（12名） — 劇づくり — 職場の実態や生活、そして 「仲間とは何か」を考える</div><div><各自の課題>午後 ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 <班長会> ・各班活動の情報交換 ・学級全体のことについて 話し合う ・行事の企画運営を行なう <実行委員会> ・狛江との交流会 ・合宿 ・もちつき大会</div></div>	
1984年 (S. 59) 63名	<div>十 一 年 目</div> <div>☆ 青年の自主的運営 ☆ 2年目の班で活動内容を深める ☆ 10周年行事、「とびたとう」発行を中心活動とする</div>	<div><担 当 者> *教育心理学の専門家（1名） *学生（10名） *市民（6名） <行 政 職 員> *公 民 館 職 員（2名） *ケ ー ス ワ ー カ ー（2名） *ひかり療育園職員（1名） 計22名 <サークル活動> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会</div>
	<div>時 間 割</div> <div><div><班 活 動>午前 <前期> ・2年目の班としての活動 ・狛江との交流 ・合宿 ・プール <後期> ・10周年記念行事 パーティー ・クリスマス会 ・もちつき大会 ・とびたとう ・ガチャガチャ班（17名） ガチャガチャ新聞</div><div><各自の課題>午後 ・音楽班 ・手芸班 ・工作班 ・学習班 ・美術班 ・スポーツ班 ・のびのび班 ・サイクリング班 <班長会> ・実行委員会と合同で行事の 進行をする</div></div>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・チューリップ班（１４名） うた作り、絵 ・レモン班（１４名） 文集「レモンの友だち」 ・考える班 自己表現—思ったことを を大声でいう 	＜実行委員会＞ <ul style="list-style-type: none"> ・狛江との交流会 ・合宿 ・１０周年 ・クリスマス会 ・とびたとう 	＜送迎問題＞ <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動の一環とする ・ハンディキャップの利用はじまる
１９８５年 (S. ６０) ５７名 <div>十二年目</div>	☆ 生活づくり (コース制 １年目) ＜コース別活動＞全日 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽コース ・文化芸術コース ・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース <ul style="list-style-type: none"> ・班長会 ・狛江交流実行委員会 (行事) プール 狛江との交流会 合宿 (水元青年の家) 公民館まつり	＜担 当 者＞ <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (１名) *学生 (１５名) *市民 (６名) ＜行政職員＞ <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (２名) *ケースワーカー (２名) *ひかり療育園職員 (１名) 計２７名	＜サークル活動 ～地域へ＞ <ul style="list-style-type: none"> ・さなえサークル ・モンチッチ ・おなべの会 ・ふれあいクリスマス会参加 ・公民館まつり
１９８６年 (S. ６１) ６４名 <div>十三年目</div>	☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 ２年目) ＜コース別活動＞ <ul style="list-style-type: none"> ・音楽Ａコース ・音楽Ｂコース ・文化・芸術コース ・健康・体づくりコース ・ものづくりコース ・生活コース ・自然コース ＜班長会＞ 実行委員会と同時進行	＜担 当 者＞ <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (１名) *学生 (１５名) *市民 (６名) ＜行政職員＞ <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (２名) *ケースワーカー (２名) *ひかり療育園職員 (１名) 計２７名	＜サークル活動＞ <ul style="list-style-type: none"> ・さなえサークル ・おなべの会 ・らくだバンド ＜地域へ＞ <ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加
１９８７年 (S. ６２) ７７名 <div>十四年目</div>	☆ 生活づくり・文化創造 (コース制 ３年目) ＜コース別活動＞ <ul style="list-style-type: none"> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康・体づくりコース ・生活コース ・自然コース 	＜担 当 者＞ <ul style="list-style-type: none"> *教育心理学の専門家 (１名) *学生 (１６名) *市民 (３名) ＜行政職員＞ <ul style="list-style-type: none"> *公民館職員 (２名) *ケースワーカー (１名) *ひかり療育園職員 (１名) 計２４名	

	<p><班長会> 実行委員会と並行</p> <p><実行委員会> 狛江交流会（クリスマス会）</p> <p><行事> 合宿（山中湖）、公民館まつり 狛江交流会（クリスマス会） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート（町田）</p>	<p><地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加</p> <p>※きらきら笑顔のメッセージコンサート参加 （国立） ※若葉とそよ風のハーモニーコンサート参加 （町田）</p>
1988年 (S. 63) 83名 <div> 十五年 目 </div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 4年目）</p> <p><コース別活動> ・音楽コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・生活コース ・自然コース</p> <p><班長会> <新聞委員会> <狛江実行委員会></p> <p>（行事） 合宿（府中青年の家） 公民館まつり 狛江市青年学級との交流会 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（7名） *学生（9名） *市民（3名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園職員（1名） 計24名</p> <p><地域へ> ・公民館まつり参加 ・ひまわり号参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>
1989年 (H. 1) 91名 <div> 十六 年 目 </div>	<p>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 5年目）</p> <p><コース別活動> ・音楽①コース ・音楽②コース ・劇ミュージカルコース ・ものづくりコース ・健康からだづくりコース ・自然コース ※各コースで生活について考えていく</p> <p><班長会> クリスマス会実行委員会と並行</p> <p><新聞委員会> <とびたとう編集委員会></p> <p><行事> 合宿（府中青年の家） 公民館まつり ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p>	<p><担当者> *教育心理学の専門家（1名） *作業所指導員（10名） *学生（9名） *市民（2名）</p> <p><行政職員> *公民館職員（2名） *ケースワーカー（1名） *ひかり療育園指導員（1名） 計26名</p> <p><地域へ> 公民館まつり参加 ※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</p> <p><サークル活動> ・さなえサークル ・おなべの会</p>

<div>1990年</div> <div>(H. 2)</div> <div>99名</div> <div>十七年目</div>	<div>☆ 生活づくり・文化創造（コース制 6年目）</div> <div><コース別活動></div> <div>・音楽①コース</div> <div>・音楽②コース</div> <div>・劇ミュージカルコース</div> <div>・ものづくりコース</div> <div>・健康からだづくりコース</div> <div>・自然コース</div> <div>・生活コース</div> <div><班長会></div> <div><クリスマス会実行委員会></div> <div><新聞委員会></div> <div><行事></div> <div>合宿（水元青年の家）</div> <div>公民館まつり</div> <div>※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</div>	<div><担当者></div> <div>*教育心理学の専門家（1名）</div> <div>*作業所指導員（9名）</div> <div>*学生（7名）</div> <div>*市民（5名）</div> <div><行政職員></div> <div>*公民館職員（3名）</div> <div>*ケースワーカー（1名）</div> <div>*ひかり療育園職員（1名）</div> <div>計27名</div> <div><地域へ></div> <div>公民館まつり参加</div> <div>※若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加</div> <div><サークル活動></div> <div>・さなえサークル</div> <div>・おなべの会</div> <div><会場></div> <div>1～3月、公民館改修工事のため、町田第2小学校で通常学級活動を、成果発表会を地域センター（成瀬）でおこなう</div>
<div>1991年</div> <div>(H. 3)</div> <div>105名</div> <div>十八年目</div>	<div>☆ 生活づくり・文化創造</div> <div>☆ 二学級制（公民館学級・ひかり学級）</div> <div>*公民館学級（コース制7年目）</div> <div><コース別活動></div> <div>・音楽コース</div> <div>・劇ミュージカルコース</div> <div>・健康からだづくりコース</div> <div>・自然コース</div> <div>・生活コース</div> <div>*ひかり学級</div> <div><班別活動></div> <div>・コスモス班</div> <div>・ハチ公班</div> <div>・コンドル班</div> <div>・JR班</div> <div><合同実行委員会></div> <div>・クリスマス会実行委員会</div> <div>・とびたとう編集委員会</div>	<div><行事></div> <div>合宿（大地沢青少年センター）</div> <div>公民館まつり</div> <div><班長会></div> <div><行事></div> <div>合宿（府中青年の家）</div> <div>公民館まつり</div> <div><班長会></div> <div><行事委員会></div> <div><サークル活動></div> <div>・さなえサークル</div> <div>・おなべの会</div> <div><担当者></div> <div>*教育心理学の専門家（1名）</div> <div>*作業所指導員（9名）</div> <div>*学生（15名）</div> <div>*市民（6名）</div> <div><行政職員></div> <div>*公民館職員（3名）</div> <div>*ひかり療育園指導員（1名）</div> <div>計35名</div>

1992年
(H. 4)
118名

十
九
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制8年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (山中湖)
公民館まつり

<班長会>

*ひかり学級 (コース制1年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (山中湖)
公民館まつり

<班長会>

<合同実行委員会>

・クリスマス会実行委員会 ・とびたとう編集委員会

<担当者>

*教育心理学の専門家 (1名)
*作業所指導員 (9名)
*学生 (18名)
*市民 (6名)

<サークル活動>

・さなえサークル ・おなべの会 ・音楽サークル

<行政職員>

*公民館職員 (3名)
*ひかり療育園指導員 (1名)
計38名

<地域へ>

※共作連全国大会「うたごえ東京」(ベイNKホール)に参加

※若葉とそよ風のハーモニー合唱団「芸術祭

おまつり広場」(都庁ホール)に参加

1993年
(H. 5)
131名

二
十
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制9年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (長野県川上村)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

*ひかり学級 (コース制2年目)

<コース別活動>

- ・音楽コース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・ものづくりコース

<行事>

合宿 (長野県川上村)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<担当者>

*教育心理学の専門家 (1名)
*作業所指導員 (9名)
*学生 (14名)
*市民 (23名)

<サークル活動>

・さなえサークル
・おなべの会

<行政職員>

*公民館職員 (3名)
*ひかり療育園指導員 (1名)
計51名

<地域へ>

※第5回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

1994年
(H. 6)
141名

二十一年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制10年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・音楽コース	合宿 (水元青年の家)	<新聞委員会>
・劇ミュージカルコース	公民館まつり	
・健康からだづくりコース	クリスマス会	
・自然コース		
・生活コース		

*ひかり学級 (コース制3年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・音楽コース	合宿 (水元青年の家)	<新聞委員会>
・劇ミュージカルコース	公民館まつり	<喫茶のぞみ>
・健康からだづくりコース	クリスマス会	
・自然コース		
・生活ものづくりコース		

20周年記念行事 (昼) 健康福祉会館…20周年記念行事実行委員会
20周年記念パーティ (夜) ホテル・ザ・エルシー…20周年記念パーティ実行委員会

- <サークル活動>
・さなえサークル
・おなべの会

- <地域へ>
※第6回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担当者>
*教育心理学の専門家 (1名)
*作業所指導員 (9名)
*大学院生 (1名)
*学生 (12名)
*市民 (24名)
<行政職員>
*公民館職員 (3名)
*公民館嘱託職員 (1名)
計51名

1995年
(H. 7)
152名

二十二年
目

- ☆ 生活づくり・文化創造
☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制11年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・音楽コース	合宿 (大地沢青少年センター)	<新聞委員会>
・劇ミュージカルコース	公民館まつり	
・健康からだづくりコース	クリスマス会	
・自然コース		
・生活コース		

*ひかり学級 (コース制4年目)

<コース別活動>	<行事>	<班長会>
・音楽コース	合宿 (大地沢青少年センター)	<新聞委員会>
・劇ミュージカルコース	公民館まつり	<喫茶のぞみ>
・健康からだづくりコース	クリスマス会	
・自然コース		
・生活コース		

- <サークル活動>
・さなえサークル
・おなべの会

- <地域へ>
※第7回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担当者>
*教育心理学の専門家 (1名)
*施設職員 (8名)
*学生 (18名)
*市民 (27名)
<行政職員>
*公民館職員 (4名)
計58名

1996年
(H. 8)
162名

二十三年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 二学級制 (公民館学級・ひかり学級)

*公民館学級 (コース制12年目)

<コース別活動>

- ・音楽ハッピーコース
- ・音楽トマトバナナコース
- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・新聞づくりコース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

*ひかり学級 (コース制5年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>
<喫茶のぞみ>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

*教育心理学の専門家 (1名)
*施設職員 (8名)
*学生 (14名)
*市民 (39名)
<行政職員>
*公民館職員 (4名)

計66名

1997年
(H. 9)
169名

二十四年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制13年目)

<コース別活動>

- ・うさぎミュージカルコース
- ・チャンピオンバンドコース
- ・抱きしめたいコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制6年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース
- ・人形劇づくりコース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>
<喫茶のぞみ>

*土曜学級 (班制1年目)

<班別活動>

- ・あじさい班
- ・コスモス班
- ・スピッツ班

<行事>

合宿 (青梅青年の家)
公民館まつり
新年会

<班長会>

<新年会実行委員会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<地域へ>

※第8回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<担 当 者>
 ＊教育心理学の専門家（１名）
 ＊社会教育職員（１名）
 ＊施設職員（８名）
 ＊学生（２０名）
 ＊市民（３８名）
 <行 政 職 員>
 ＊公民館職員（４名）
 計 ７ ２ 名

1998年
 (H. 10)
 182名

二
 十
 五
 年
 目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）
 ＊公民館学級（コース制１４年目）
 <コース別活動>
 ・ものづくりコース
 ・Ｊバンドコース
 ・ブロード・スマイルコース
 ・健康からだづくりコース
 ・自然コース
 ・生活コース

<行事>
 合宿（大地沢青少年
 センター）
 公民館まつり
 クリスマス会

<班長会>
 <つどい委員会>

＊ひかり学級（コース制７年目）
 <コース別活動>
 ・劇ミュージカルコース
 ・健からオールスターズコース
 ・さんぽでけんからコース
 ・生活コース
 ・自然コース

<行事>
 合宿（大地沢青少年
 センター）
 公民館まつり
 クリスマス会

<班長会>
 <新聞委員会>
 <喫茶のぞみ>

＊土曜学級（班制２年目）
 <班別活動>
 ・ひまわり班
 ・トマト班
 ・トトロ班

<行事>
 合宿（青梅青年の家）
 公民館まつり
 新年会

<班長会>
 <新年会実行委員会>

<サークル活動>
 ・さなえサークル
 ・おなべの会

<担 当 者>
 ＊教育心理学の専門家（１名）
 ＊施設職員（１４名）
 ＊学生（２１名）
 ＊市民（３８名）

<地域へ>
 ※第９回若葉とそよ風のハーモニーコンサートへ参加

<行 政 職 員>
 ＊公民館職員（４名）
 計 ７ ８ 名

1999年
 (H. 11)
 192名

二
 十
 六
 年
 目

☆ 生活づくり・文化創造
 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）
 ＊公民館学級（コース制１５年目）
 <コース別活動>
 ・パフィーコース
 ・ミッキーコース
 ・ラビッツコース（バンド）
 ・ひまわりコース
 ・自然オレンジーズコース
 ・生活コース

<行事>
 合宿（大地沢青少年
 センター）
 公民館まつり
 クリスマス会

<班長会>
 <つどい委員会>

2000年
(H. 12)
188名

二十七年
目

*ひかり学級（コース制8年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

合宿（大地沢青少年
センター）
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>
<喫茶のぞみ>
<とびたとう編集委員会>
<行事委員会>

*土曜学級（班制3年目）

<班別活動>

- ・スイートピー班
- ・スマップ班
- ・ミッキーコースター班

<行事>

合宿（青梅青年の家）
公民館まつり
新年会

<班長会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担 当 者>

*教育心理学の専門家（1名）
*施設職員（14名）
*学生（21名）
*市民（30名）
<行政職員>
*公民館職員（4名）
計70名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

*公民館学級（コース制16年目）

<コース別活動>

- ・ストロベリーコース
- ・健康からだづくりコース
- ・キッカーズコース（バンド）
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿（大地沢青少年
センター）
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級（コース制9年目）

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

合宿（大地沢青少年
センター）
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>
<喫茶のぞみ>
<とびたとう編集委員会>
<行事委員会>

*土曜学級（班制4年目）

<班別活動>

- ・ひまわり班
- ・のぞみ班
- ・すずらん班
- ・さくらんぼ班

<行事>

合宿（狭山青年の家）
公民館まつり
年忘れ大運動会&
クリスマス会

<班長会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担 当 者>

*教育心理学の専門家（1名）
*施設職員（14名）
*学生（21名）
*市民（28名）
<行政職員>
*公民館職員（4名）
計68名

2001年
(H. 13)
185名

二十八年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制17年目)

<コース別活動>

- ・はいくキングコース
- ・健康からだづくりコース
- ・うたダンスミュージカルコース
- ・ものづくりコース
- ・町田たんけんコース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制10年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<行事委員会>

*土曜学級 (班制5年目)

<班別活動>

- ・うたとゆめ班
- ・つばさ班
- ・あさぎり班
- ・うさぎ班

<行事>

合宿 (狭山青年の家)
公民館まつり
新年会

<班長会>

<つどい委員会>

<サークル活動>

- ・さなえサークル
- ・おなべの会

<担当者>

*学生・市民 (60名)

<行政職員>

*公民館職員 (4名)

計64名

2002年
(H. 14)
183名

二十九年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

*公民館学級 (コース制18年目)

<コース別活動>

- ・健康からだづくりコース
- ・あさがおコース
- ・ももコース
- ・ものづくりコース
- ・自然コース
- ・生活コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<つどい委員会>

*ひかり学級 (コース制11年目)

<コース別活動>

- ・劇ミュージカルコース
- ・健康からだづくりコース
- ・ものづくりコース
- ・生活コース
- ・自然コース

<行事>

合宿 (大地沢青少年
センター)
公民館まつり
クリスマス会

<班長会>

<新聞委員会>

<喫茶のぞみ>

<行事委員会>

*土曜学級 (班制6年目)

三十年目	2003年 (H. 15) 181名	☆ 生活づくり・文化創造 ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級) *公民館学級 (コース制19年目) <コース別活動> ・健康からだづくりコース ・トマバナミュージカルコース ・ニコニコバンドコース ・ものづくりコース ・自然コース ・生活コース *ひかり学級 (コース制12年目) <コース別活動> ・劇・ミュージカルコース ・健康からだづくりコース ・企画づくりコース ・生活コース ・自然コース *土曜学級 (班制7年目) <班別活動> ・ストロベリージャンプ班 ・にじ班 ・生活をつくる班 ・ひまわり班 <サークル活動> ・おなべの会 ・(仮称) 共同学習識字の会	<行事> 合宿 (狭山青年の家) 公民館まつり 新年会 <行事> 合宿 (大地沢青少年センター) 公民館まつり クリスマス会 <行事> 日帰りハイキング (府中郷土の森) 公民館まつり クリスマス会 <行事> 合宿 (水元青年の家) 公民館まつり 冬のイベント	<班長会> <つどい委員会> <班長会> <つどい委員会> <班長会> <つどい委員会> <班長会> <新聞委員会> <つどい>	<担当者> *学生・市民 (61名) <行政職員> *公民館職員 (4名) 計65名
	2004年 (H. 16) 193名	☆ 生活づくり・文化創造 ☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級) *公民館学級 (コース制20年目) <コース別活動> ・健康からだづくりコース ・スマイルコース ・ジャニーズコース ・ピンクガーデンコース ・ものづくりコース ・コスモス人生コース *ひかり学級 (コース制13年目) <コース別活動>	<行事> 公民館まつり クリスマス会	<班長会> <つどい委員会>	<担当者> *学生・市民 (61名) <行政職員> *公民館職員 (4名) 計65名

	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ&ハイキングコース 合宿（大地沢青少年センター）＜新聞委員会＞ ・ハイキングするコース 公民館まつり ＜つどい委員会＞ ・企画づくりコース クリスマス会 ・音舞団 ・さつまいも南アルプスハイジコース 																
	<p>＊土曜学級（班制８年目）</p> <table> <tr> <td>＜班別活動＞</td><td>＜行事＞</td><td>＜班長会＞</td></tr> <tr> <td>・そら班</td><td>合宿（水元青年の家）</td><td>＜つどい委員会＞</td></tr> <tr> <td>・ズームイン班</td><td>公民館まつり</td><td></td></tr> <tr> <td>・ハートおんぷ班</td><td>新年会</td><td></td></tr> <tr> <td>・Shooting Star班</td><td></td><td></td></tr> </table>	＜班別活動＞	＜行事＞	＜班長会＞	・そら班	合宿（水元青年の家）	＜つどい委員会＞	・ズームイン班	公民館まつり		・ハートおんぷ班	新年会		・Shooting Star班			
＜班別活動＞	＜行事＞	＜班長会＞															
・そら班	合宿（水元青年の家）	＜つどい委員会＞															
・ズームイン班	公民館まつり																
・ハートおんぷ班	新年会																
・Shooting Star班																	
	<p>＜サークル活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おなべの会 ・（仮称）共同学習識字の会 ・とびたつ会 	<p>＜担 当 者＞</p> <p>＊学生・市民 （６０名）</p> <p>＜行 政 職 員＞</p> <p>＊公民館職員 （４名）</p> <p>計６４名</p>															

２００５年

(H. 17)

１９６名

三
十
二
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

＊公民館学級（コース制２１年目）

＜コース別活動＞

- ・イルカさかなコース
- ・ものコース
- ・やりたいことと暮らしを考えるコース
- ・ジャーニーオレンジコース
- ・さくらコース
- ・すまいるミュージカルコース

＜学級内代表活動＞

- ・班長会
- ・新聞委員会

＜行事＞

- ・クリスマス会
- ・忘年会

＊ひかり学級（コース制１４年目）

＜コース別活動＞

- ・おいしいたべものコース
- ・みんなでGO！！コース
- ・ダンス&ミュージックコース
- ・歩くんです。コース
- ・ザ・家庭と暮らしコース

＜学級内代表活動＞

- ・班長会
- ・つどい委員会

＜行事＞

- ・クリスマス会

＊土曜学級（班制９年目）

＜班別活動＞

- ・ハッスル班
- ・キネマゴーゴー班
- ・のりものでゴー！班

＜学級内代表活動＞

- ・班長会
- ・つどい委員会

＜行事＞

- ・忘年会
- ・新年会

- ・ F 班
- ・ ちっちゃいお店班

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2006年

(H.18)

☆ 生活づくり・文化創造

188名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十三年目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制22年目）

<コース別活動>

- ・ イルカキラキラソナタミュージカルコース
- ・ ものぷーさんコース
- ・ やりたいことと暮らしを考えるコース
- ・ 自然まんきつコース
- ・ みんなでGOコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

*ひかり学級（コース制15年目）

<コース別活動>

- ・ ライブクリップコース
- ・ みんなのものづくり隊コース
- ・ 自分で自分コース
- ・ レッツゴーハイキングコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

*土曜学級（班制10年目）

<班別活動>

- ・ ねこバス班
- ・ ドレミ班
- ・ グルメハイキング班
- ・ 夢新聞班
- ・ イルカ班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

担当者	63名
公民館職員	4名

2007年

(H.19)

☆ 生活づくり・文化創造

176名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）
- ・バスハイク（こどもの国）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制23年目）

<コース別活動>

生活とやりたいことを考えるコース

ポインタコース

劇団キャッツアイ

みんなでチャレンジコース

つばめコース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

*ひかり学級（コース制16年目）

<コース別活動>

GO!GO!チャレンジコース

富士山コース

ひまわり・コスモスコース

ミュージックコース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・クリスマス会

*土曜学級（班制11年目）

<班別活動>

ハッピー班

空色美術班

ホッとなごみ班

キラキラ班

レインボー班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・新年会

◇学級外のサークル活動

- ・おなべの会
- ・とびたつ会

担当者	63名
（学級日当日担当者）	13名）
公民館職員	4名

※ 学級日当日担当者の制度を
新設しました

2008年

(H. 20)

☆ 生活づくり・文化創造

173名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障がい者スポーツ大会
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・公民館まつり
- ・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制24年目）

<コース別活動>

生活とやりたいことを考えるコース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・クリスマス会

パンダコース
ブルースコース
フレンズドリームコース
ものピカソコース

・つどい委員会

*ひかり学級（コース制１７年目）

<コース別活動>

スポガイGO!GO!コース

にじいろ・たいようコース

GO!GO!ハイキングコース

音楽&とびたとうコース

ひまわりコース

<学級内代表活動>

・班長会

・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*土曜学級（班制１２年目）

<班別活動>

ドンドン班

アドベンチャー班

アリス班

ほしとひまわり班

うんどうすば一つ班

<学級内代表活動>

・班長会

・つどい委員会

<行事>

・新年会

◇学級外のサークル活動

・おなべの会

・とびたつ会

担当者	67名
（学級日当日担当者）	19名
公民館職員	3名

2009年

(H. 21) ☆ 生活づくり・文化創造

169名 ☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十六年目

◇全体行事

・東京都障がい者スポーツ大会

・公民館まつり

・秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

*公民館学級（コース制２５年目）

<コース別活動>

ROBOTコース

作品づくりコース

ドリームレインボーコース

生活とやりたいことを考えるコース

ルーキーズコース

<学級内代表活動>

・班長会

・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*ひかり学級（コース制１８年目）

<コース別活動>

みんなの手コース

元気あいじょうコース

ステージJコース

フラワー・ヤッホーコース

企画チャレンジコース

<学級内代表活動>

・班長会

・つどい委員会

<行事>

・クリスマス会

*土曜学級（班制13年目）

<班別活動>

ラッキー班
あるくものづくり班
ピッピスポーツ班
チャレンジ班
キラキラげんき班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

担当者	81名
（学級日当日担当者）	13名
公民館職員	3名

◇学級外のサークル活動

- ・ おなべの会
- ・ とびたつ会

2010年

(H. 22)

☆ 生活づくり・文化創造

178名

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

三十七年目

◇全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿（大地沢青少年センター）

◇学級別活動

* 公民館学級（コース制26年目）

<コース別活動>

- ・ スターウォーズコース
- ・ ひまわりコース
- ・ オールスターコース
- ・ ゆめをみようコース
- ・ ミュージカルインストルメンツコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ クリスマス会

* ひかり学級（コース制19年目）

<コース別活動>

- ・ スポーツドリームコース
- ・ 冒険散歩コース
- ・ 星のつばさコース
- ・ ラベンダーのかなたへコース
- ・ あじさいコース

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ 20周年記念イベント

* 土曜学級（班制14年目）

<班別活動>

- ・ ビクトリー班
- ・ ステップでどん班
- ・ ニコニコお祭り班
- ・ ぞうさんのあくび班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

<行事>

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	73名
（学級日当日担当者）	21名
公民館職員	3名

2011年

(H. 23)

186名

三十八年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇全体行事

- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 公民館まつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇学級別活動

＊ 公民館学級 (コース制27年目)

＜コース別活動＞

- ・ ハピネスクローバー コース
- ・ ダンシングミュージカル コース
- ・ 銀河鉄道999 コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ きずな コース

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

＜行事＞

- ・ クリスマス会

＊ ひかり学級 (コース制20年目)

＜コース別活動＞

- ・ 探検ハト コース
- ・ 健康スポーツ コース
- ・ レッドビッキーズ
- ・ パンダ コース
- ・ パフォーマンスアカデミー コース

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会

＜行事＞

- ・ クリスマス会

＊ 土曜学級 (班制15年目)

＜班別活動＞

- ・ ひまわり 班
- ・ げきだんランランロック 班
- ・ ハッピーミュージック 班
- ・ ワクワク体験 班
- ・ お陽さまごつつんこ 班

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

＜行事＞

- ・ 新年会

◇学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会

担当者	82名
(学級日当日担当者)	23名)
公民館職員	3名

2012年

(H. 24)

183名

三十九年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制 (公民館学級・ひかり学級・土曜学級)

◇ 全体行事

- ・ 東京都障がい者スポーツ大会
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり
- ・ 秋合宿 (大地沢青少年センター)

◇ 学級別活動

＊ 公民館学級（コース制 2 8 年目）

＜コース別活動＞

- ・ コンサート♪ コース
- ・ みんなのあかり コース
- ・ 健康・体力づくり コース
- ・ 劇団 宇宙のかがやき コース
- ・ ギブア・ハピネススクローバー・トゥ・ビーナス コース

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

＜行事＞

- ・ クリスマス会

＊ ひかり学級（コース制活動 2 1 年目）

＜コース別活動＞

- ・ 笑顔&ミュージカル コース
- ・ スマイル コース
- ・ ひまわりものづくり コース
- ・ 愛情料理 コース
- ・ さんぽ コース

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会

＜行事＞

- ・ クリスマス会

＊ 土曜学級（班制 1 6 年目）

＜班別活動＞

- ・ はくちょうで野球しようぜ 班
- ・ ラビットグルメ 班
- ・ なんでもチャレンジ 班
- ・ やったねストライク 班
- ・ ムーンランド♥ドラエモンバンド 班

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

＜行事＞

- ・ 新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	7 7 名
（学級日当日担当者）	3 2 名）
生涯学習センター職員	3 名

2 0 1 3 年
(H. 2 5)
1 8 3 名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・ 東京都障害者スポーツ大会（フットベースボール）
- ・ 町田市障がい者スポーツ大会
- ・ 生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制 2 9 年目）

＜コース別活動＞

- ・ みんなのゆめ コース
- ・ みんなのあかりコース 2 0 1 3
- ・ ヘルス・パワーアップ コース
- ・ 夢よびたい コース
- ・ ものづくり コース

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会
- ・ つどい委員会

＜行事＞

- ・ 合宿
（大地沢青少年センター）
- ・ クリスマス会

※ ひかり学級（コース制活動 2 2 年目）

＜コース別活動＞

- ・ みんなのいのち コース
- ・ ハッピースポーツ探検さんぽ コース
- ・ メニーハンズ コース
- ・ うさぎのダンス コース
- ・ ふれあいのぞみ コース

＜学級内代表活動＞

- ・ 班長会

＜行事＞

- ・ バスハイク
（こどもの国）
- ・ クリスマス会

※ 土曜学級（班制 17 年目）

<班制活動>

- ・みどりのはっぱとたんぽぽ 班
- ・じえじえじえ！あじさいだー 班
- ・ラビット・ミッフィー・ドルフィン 班
- ・ひまわり 班
- ・住・行（考） 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	73 名
（うち学級日当日担当者	26 名）
生涯学習センター職員	4 名

2014 年

（H. 26）
182 名

四
十
一
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・東京都障害者スポーツ大会（フットベースボール）
- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）
- ・青年学級 40 周年記念式典

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制 30 年目）

<コース別活動>

- ・こころ夢 コース
- ・はれの日 コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・スマイルヘルスアップ コース
- ・カリビアン コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制 23 年目）

<コース別活動>

- ・世界にひとつだけの花 コース
- ・江ノ島かもがわ水族館 コース
- ・元気はつらつ夏椿 コース
- ・トトロミュージック コース
- ・イベント・ドリーム コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・バスハイク
（よこはま動物園ズーラシア）
- ・新年会

※ 土曜学級（班制 18 年目）

<班制活動>

- ・青空クローバー 班
- ・ギターとラップと夢とともだち 班
- ・健康グルメ 班
- ・あまちゃん 班
- ・生活まじめ 班

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・日帰り旅行
（江ノ島）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	71 名
（うち学級日当日担当者	22 名）
生涯学習センター職員	4 名

2015年

(H. 27)

174名

四十二年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制31年目）

<コース別活動>

- ・楽器大好き コース
- ・ものづくり コース
- ・わたしたちのみらい コース
- ・ケンカラ コース
- ・劇・ミュージカル コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制24年目）

<コース別活動>

- ・にじスマイル コース
- ・強くて負けないスーパー電車
スポーツコース1・2・3
- ・小さなしあわせ すみれ コース
- ・ミュージカル・ダンス コース
- ・おでかけ料理 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
（江ノ島）
- ・新年会

※ 土曜学級（班制19年目）

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム

担当者	71名
（うち学級日当日担当者	22名）
生涯学習センター職員	5名

2016年

(H. 28)

171名

四十三年目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制32年目）

<コース別活動>

- ・抱きしめたい心 コース
- ・ものづくり コース
- ・生活とくらしを考える コース
- ・炎のファイト！ 健康からだづくり コース
- ・あおのなかま コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制25年目）

<コース別活動>

- ・ふれあいをつくっていく コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行

- ・無敵最強スポーツ コース
- ・ひまわり味彩大作戦 コース
- ・コスマリッパ劇ダンス コース

- (藤野芸術の家)
- ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制20年目）

<班制活動>

- ・ハッピーブルー 班
- ・みんな元気スポーツ 班
- ・楽しいイベント 班
- ・あじさいものづくり48 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者)	26名)
生涯学習センター職員	6名

2017年

(H. 29)

171名

四
十
四
年
目

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制33年目）

<コース別活動>

- ・なでしこ コース
- ・たんぽぽ コース
- ・よりみち コース
- ・エビカニクス コース
- ・自由カンガルー コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
(大地沢青少年センター)
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制26年目）

<コース別活動>

- ・花 コース
- ・虹ドリームアンド創作 コース
- ・何でも最強スポーツ コース
- ・お出かけ料理 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
(みなとみらい)
- ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制21年目）

<班制活動>

- ・ハワイと虹 班
- ・トーマスレインボースポーツ 班
- ・一刀両断 班
- ・トレンドィものづくり 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・合宿
(大地沢青少年センター)
- ・新年会
- ・20周年記念式典

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	64名
(うち学級日当日担当者)	27名)
生涯学習センター職員	4名

2018年

(H. 30)

166名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・町田市障がい者スポーツ大会
- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制34年目）

<コース別活動>

- ・わかそよづくり コース
- ・みんなのたいせつなことば コース
- ・ひわまり コース
- ・くらし コース
- ・ハッピー生き生き！スポーツ コース
- ・夢のあかり コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制27年目）

<コース別活動>

- ・エクスポ コース
- ・おまかせ芸術 コース
- ・レッドスターズ
- ・みんなの未来 コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
（相模原公園）
- ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制22年目）

<班制活動>

- ・流れ星💫ダンス 班
- ・スマイルイベント 班
- ・ものづくりブリヂストン 班
- ・秋桜 班

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
（小田原）
- ・新年会

◇ 学級外のサークル活動

- ・とびたつ会
- ・おなべの会
- ・スケッチ・ルーム

担当者	73名
（うち学級日当日担当者	30名）
生涯学習センター職員	4名

2019年

(H. 31)

163名

☆ 生活づくり・文化創造

☆ 三学級制（公民館学級・ひかり学級・土曜学級）

◇全体行事

- ・生涯学習センターまつり（展示・舞台）

◇学級別活動

※ 公民館学級（コース制35年目）

<コース別活動>

- ・みんなのしあわせづくり コース
- ・まあるいゆめ コース
- ・さくら コース
- ・ハッピーハッピーくらし コース
- ・さくらんぼスポーツ体づくり コース
- ・ゆめのつづき コース

<学級内代表活動>

- ・班長会
- ・つどい委員会

<行事>

- ・合宿
（大地沢青少年センター）
- ・クリスマス会

※ ひかり学級（コース制28年目）

<コース別活動>

- ・イトチョコパイ青空 コース
- ・サルビアダンス コース
- ・GoGo みずいろスターズ コース
- ・あじさい コース

<学級内代表活動>

- ・班長会

<行事>

- ・日帰り旅行
（江の島）
- ・クリスマス会

※ 土曜学級（班制23年目）

<班制活動>

- ・ 星空ドルフィンスポーツ 班
- ・ みんなのイベント 班
- ・ あじさい 班
- ・ 青空いなずま 班

<学級内代表活動>

- ・ 班長会

<行事>

- ・ 日帰り旅行
(横浜)
- ・ 新年会

◇ 学級外のサークル活動

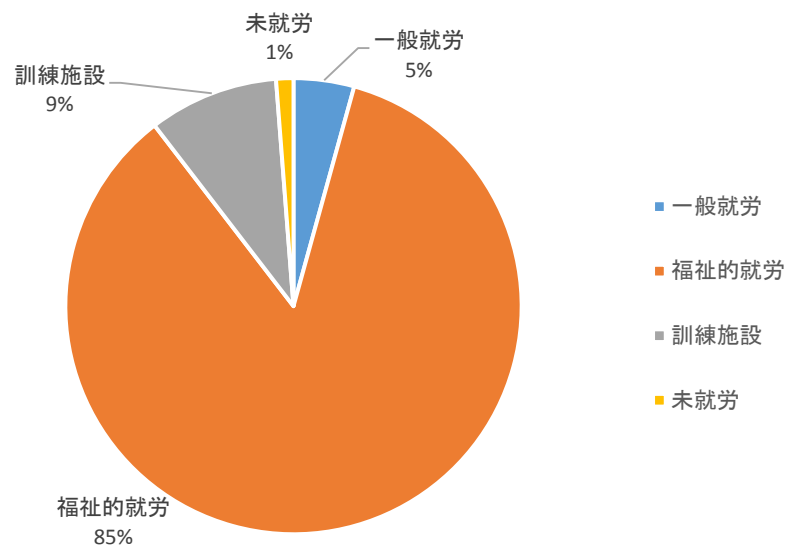
- ・ とびたつ会
- ・ おなべの会
- ・ スケッチ・ルーム
- ・ 風になる会

担当者	6 6 名
(うち学級日当日担当者	1 6 名)
生涯学習センター職員	4 名

☆学級生の就労状況

未就労	2	福祉的就労		ボワ・アルモニー		1
		赤い屋根	5	森工房		1
一般就労		大賀藕絲館	16	町田おかしの家		1
特例子会社	1	かがやき	19	町田かたつむりの家		7
衣料販売	1	喫茶けやき	2	町田リス園		2
園芸	1	共働学舎	6	メイク2		1
菓子工場	1	くず葉学園	1	ラ・まの		6
紙器	1	クッカ広場	3			
理容・美容	1	こころみ	3	訓練施設		
老人ホーム	1	コラボワークセンターつくし	1	島田療育センター		1
		サポートセンター町田とも	5	ひかり療育園		2
		シャロームの家	4	町田生活実習所		4
		スワンカフェ&ベーカリー	2	町田福祉園		6
		地の星	4	わさびだ療育園		2
		つるかわ学園	3			
		なないろ	12			
		ニーズセンター花の家	10			
		花の郷	6			
		美術工芸館	4			
		プラスアルファ	7			
		ベネッセソシアス	1			
		ベロニカ苑	6			

就労・通所状況



☆学級生の持っている手帳

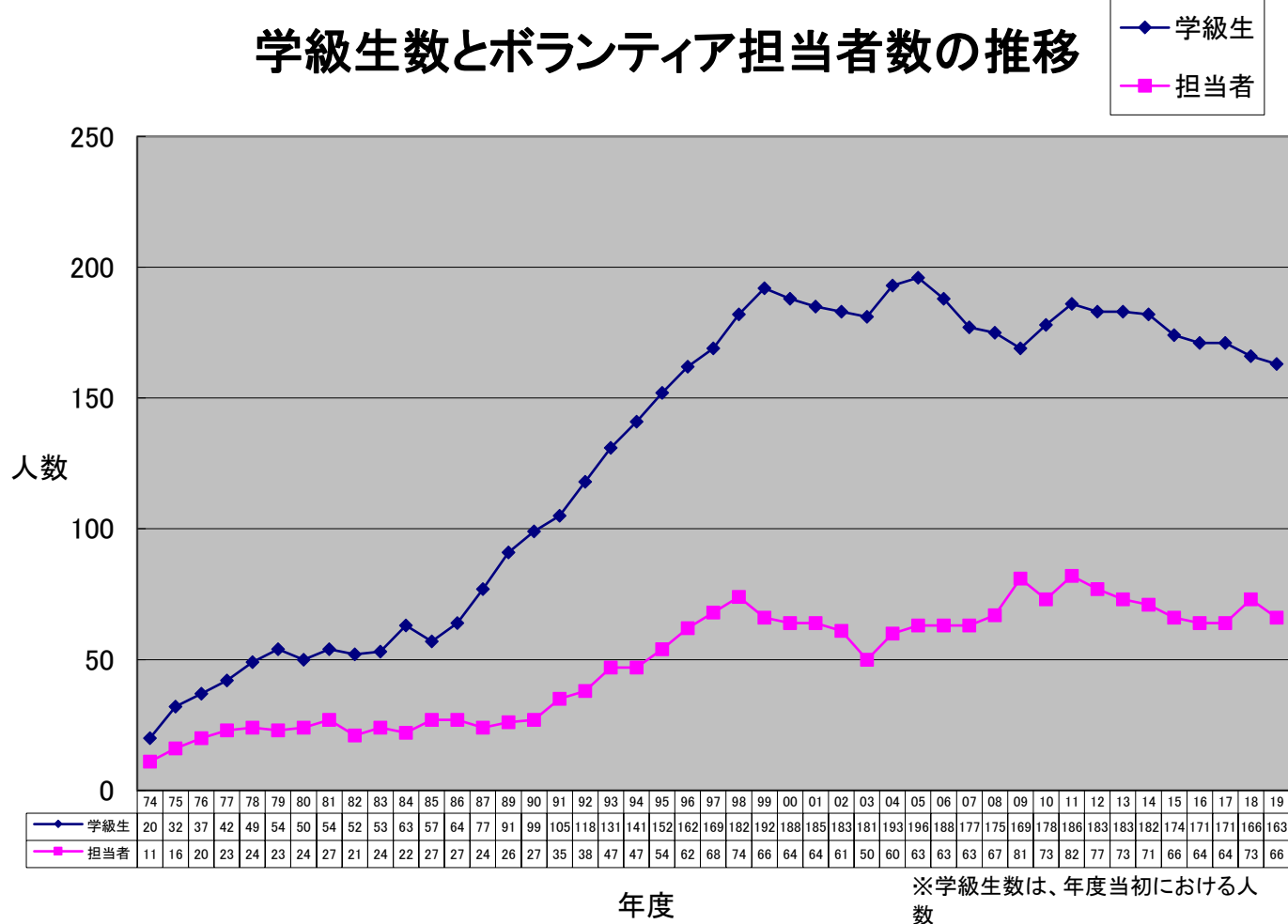
愛の手帳(療育手帳)

		1度	2度	3度	4度	計
公民館学級	男	2	21	14	5	42
	女		8	10	3	21
ひかり学級	男		11	19	2	32
	女	1	12	6	1	20
土曜学級	男	1	14	15	4	34
	女		6	4	1	11
計	男	3	46	48	11	108
	女	1	26	20	5	52
総計		4	72	68	16	160

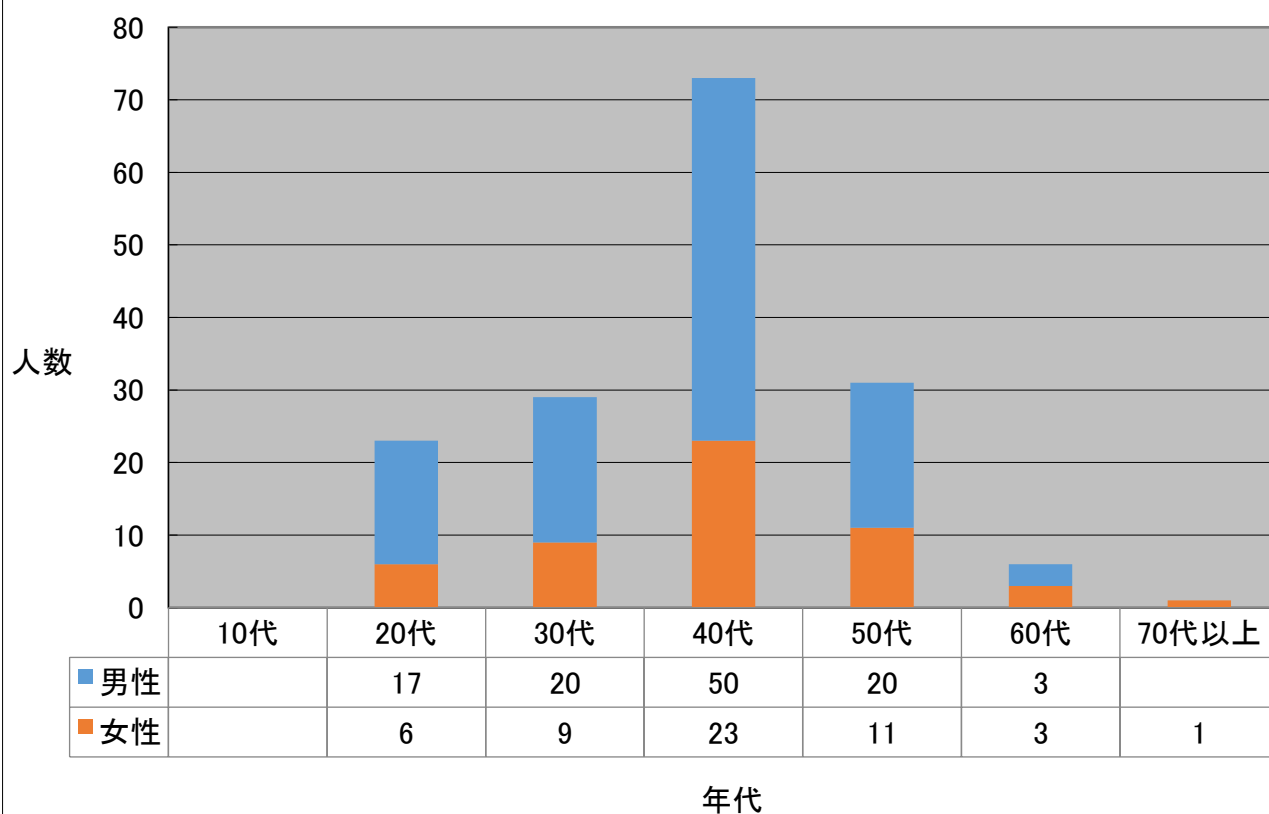
身体障害者手帳

		1級	2級	3級	4級	5級	6級	計
公民館学級	男	5	3	1	1	1	1	12
	女	2	2	1	1			6
ひかり学級	男	1	1	1			1	4
	女	7	5				1	13
土曜学級	男	3	2	0	1			6
	女	1	0	0	1			2
計	男	9	6	2	2	1	2	22
	女	10	7	1	2	0	1	21
総計		19	13	3	4	1	3	43

学級生数とボランティア担当者数の推移



学級生の年代・男女別構成比



担当者・当日スタッフ紹介（2019年4月～2020年3月）

☆：担当者 ★：当日スタッフ

公民館学級（32名）

☆ 市川 慎二
☆ 大毛 萌子
☆ 大高 彩音
☆ 梶原 拓人
☆ 加藤 沙耶香
☆ 木元 祥平
☆ 日下部 洋介
☆ 原子 昌平
☆ 櫻井 明美
☆ 柴崎 智啓
☆ 柴田 保之
☆ 関 俊夫
☆ 関水 末子
☆ 高井 大輔
☆ 能登 あやな
☆ 星野 芳朋
☆ 牧野 恵里香
☆ 山田 修平
☆ 山之内 敦郎
☆ 横田 靖子
☆ 吉田 華
☆ 若林 一哉
☆ 渡辺 なつ美
★ 石上 美津子
★ 伊藤 美紀子
★ 今泉 晴世
★ 内田 桃香
★ 小島 道子
★ 鈴木 邦子
★ 富永 節子
★ 春山 祥子
★ 森泉 由美子

ひかり学級（17名）

☆ 朝比奈 康太
☆ 飯塚 葵
☆ 伊藤 美保子
☆ 金子 大智
☆ 黒川 めぐみ
☆ 児玉 佳那姫
☆ 酒匂 健太
☆ 永島 龍馬
☆ 中村 千津子
☆ 播本 啓子
☆ 松尾 彩音
☆ 山本 佳奈
★ 志賀 健二
★ 芝 明菜
★ 芝 佳菜子
★ 樋田 五気
★ 村松 由理

土曜学級（17名）

☆ 石橋 堯弥
☆ 伊藤 直光
☆ 井上 廣美
☆ 大島 菜々子
☆ 片岡 千栄子
☆ 朽方 光代
☆ 小山 京子
☆ 小山 寿美子
☆ 鈴木 幸江
☆ 瀧本 克芳
☆ 富沢 タツ子
☆ 西村 鎮男
☆ 彦根 睦
☆ 堀部 秀人
☆ 宮城 幸生
★ 梅原 光輝
★ 日下部 哲

行政職員

（生涯学習センター）

☆ 岩田 武（16～）
☆ 戎谷 昭浩（18～）
☆ 菊島 登志子（17～）
☆ 矢嶋 良史（15～）

町田市障がい者青年学級 実践報告集 第45号

発行日 2020年11月

編集 町田市障がい者青年学級 担当者会

発行 町田市教育委員会生涯学習部生涯学習センター

〒194-0013 東京都町田市原町田6-8-1

TEL 042-728-0071

刊行物番号 20-37

この冊子は、100部作成し、1部あたりの単価は2,369円です。

（職員の人件費を含みます。）